

# 御所野遺跡Ⅳ

2013.3

一戸町教育委員会

一戸町文化財調査報告書第 68 集

# 御所野遺跡 IV

2013.3

岩手県二戸郡一戸町  
一戸町教育委員会

# 序

一戸町教育委員会では、平成21年度から中央部の盛土遺構の調査を実施してまいりました。

調査の目的は、盛土遺構の形成過程とその性格を明らかにすることでしたが、4年間の調査で、多くの情報が得られました。

平成21・22年には、三内丸山遺跡の特別研究として「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究」が採択され、当教育委員会の担当者もその一員として参加し、各地の遺跡と比較研究をしながら、多角的に研究したこともあり、予想以上の成果を挙げることができました。

調査にあたっては、御所野遺跡指導委員の先生方や各地の研究者からご指導をいただいております。なかでも岡村道雄先生からは野外での発掘調査だけではなく、遺物の整理まで直接ご指導を賜りました。ここに衷心より御礼申し上げます。

現在、御所野遺跡は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつとして、ほかの遺跡とともに世界文化遺産の登録を目指しております。世界遺産の登録では、遺跡の普遍的な価値をきちんと説明することが求められておりますが、今回の調査成果がその一助になるものと確信しております。

一戸町教育委員会では、今後も御所野遺跡の調査研究を続けながら、その内容を町民の皆様に説明していきたいと考えておりますので、今後共ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

平成25年3月

一戸町教育委員会  
教育長 遠藤 裕一

# 例 言

- 1 本書は、平成19年度、平成21～24年度に実施した御所野遺跡の発掘調査報告書である。  
一戸町教育委員会がこれまでに刊行した御所野遺跡関係の発掘調査報告書は下記の通りである。  
1991『御所野遺跡－平成2年度御所野遺跡発掘調査概報－』一戸町文化財調査報告書第26集  
1992『御所野遺跡－平成3年度御所野遺跡発掘調査概報－』一戸町文化財調査報告書第29集  
1993『御所野遺跡Ⅰ－縄文時代中期の大集落跡－』一戸町文化財調査報告書第32集  
2004『御所野遺跡Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第48集  
2004『一戸城跡・御所野遺跡・野里遺跡－平成15年度町内遺跡発掘調査報告書－』一戸町文化財調査報告書第49集  
2006『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第53集  
2006『御所野遺跡－平成16、17年度町内遺跡発掘調査報告書－』一戸町文化財調査報告書第54集  
2009『御所野遺跡・馬場平遺跡－平成19・20年度町内遺跡発掘調査報告書－』一戸町文化財調査報告書第64集
- 2 遺跡名・遺跡略号・所在地は、次の通りである。  
遺跡名：御所野遺跡  
遺跡略号：G S N  
所在地：岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野
- 3 御所野遺跡の調査を実施するにあたり、平成19～22年度には御所野遺跡植生復元整備指導委員会、平成23年度からは御所野遺跡指導委員会の委員の先生方から全般にわたってご指導いただいた。指導委員の先生方は下記の通りである。記して感謝申し上げる。  
岡村道雄（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員長）  
辻誠一郎（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員長・御所野遺跡指導委員会委員）  
山田昌久（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員）  
湯本貴和（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員）  
大矢邦宣（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員）  
平澤毅（御所野遺跡指導委員会委員）
- 4 調査および報告書作成にあたり、次の方々および機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる（順不同・敬称略）。  
文化庁、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、二戸市教育委員会、水ノ江和同（文化庁）、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、斉藤慶吏・岩田安之（三内丸山遺跡保存活用推進室）、阿部千春・福田裕二・吉田力（函館市教育委員会）、菅原弘樹（奥松島縄文村歴史資料館）、川田強（南相馬市教育委員会）、八木勝枝（岩手県立博物館）、菅野智則（東北大学）、神原雄一郎（大船渡市教育委員会〈盛岡市教育委員会派遣〉）、星雅之（公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、千葉正彦・戸根貴之（岩手県教育委員会）、熊谷常正（盛岡大学）、桐生正一（滝沢村埋蔵文化財センター）、小沢清男（千葉市教育委員会）、小川勝和（流山市博物館）、鈴木正博（早稲田大学先史考古学研究所）、阿部昭典・中村耕作（國學院大學）、村本周三（斜里町埋蔵文化財センター）、大野亨・小久保拓也・横山寛剛（八戸市教育委員会）、山本総光（東京大学大学院）、黒田篤史（遠野市教育委員会）、佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）、富樫雅彦（武蔵大学）、川向聖子（山田町教育委員会）、八木光則（宮古市教育委員会〈盛岡市教育委員会派遣〉）

5 調査主体者 一戸教育委員会

6 発掘調査・報告書作成の体制

総括：遠藤裕一（教育長）

高田和徳（御所野縄文博物館館長）、平野克己（御所野縄文博物館館長補佐）

事務担当者：（平成19・23・24年度）中村明央、（平成21・22年度）中島恭伸・田村真之

調査担当者：（平成19年度）八重樫美奈・久保田滋子、（平成21～24年度）菅野紀子・久保田滋子

野外調査：市橋光子、木村由美子、苗代沢優子、野辺地智代子、沢久保智恵子、峠ツエ、根反早百合、山田梅子、下村昭男、堂ノ前喜一、永瀬光男、長谷川正男、泉久保勝幸、切岸恵、外岡レイ子、根口イト、姉帯キミ、駒木スミ、川岸トワ、泉田ヨシノ、金田タマ、滝口アサ、後藤恵子

室内整理：市橋光子、木村由美子、苗代沢優子、野辺地智代子、沢久保智恵子、峠ツエ、根反早百合、山田梅子、工藤雅子、松田真美子、東野絵美、鈴木雪野、澤口亜希、三浦登代子、中村久美子、藤原順、長谷川正男、姉帯順一、田頭克美

7 石器・石製品の石質鑑定は川守田浩氏（元一戸町文化財調査専門委員）に依頼した。

8 以下の資料の鑑定・分析については、次の方々に依頼し、玉稿を賜った。

動物遺存体：西本豊弘氏（国立歴史民俗博物館）

植物遺存体：辻圭子氏（元御所野縄文博物館嘱託研究員）

9 土壌微細形態分析・植物珪酸体分析・縄文土器の胎土分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

10 遺物の写真撮影は稲野彰子氏（いろは写房）に委託した。

11 本書に掲載している遺構実測図・遺物実測図の用例は下記の通りである。

（1）遺構実測図の縮尺は基本的に次の通りである。ただし、一部異なるものもあるため各図にスケール及び縮尺を付した。

竪穴住居跡・土坑・柱穴→1／50

（2）層位の表記には、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土・トレンチ層序に算用数字を使用した。


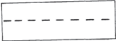
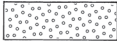


（3）土層の色調観察には『新版標準土色帖』（1993 小山・竹原編著）を参考にした。

（4）遺物実測図の縮尺は基本的に次の通りである。ただし、一部は異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

縄文土器・弥生土器→1／3、土製品→1／2

剥片石器→2／3、礫石器・石製品→1／3

（5）図中で使用したスクリーントーンの主な用例は次の通りである。これ以外の使用箇所については各図に用例を表記した。

焼土  硬化面  火山灰  サンプリング地点  付着物 

12 遺跡位置図には『一戸都市計画図』（1/10,000）を使用している。

13 本書の編集・報筆は菅野紀子・久保田滋子が担当した。

14 出土した遺物および諸記録は御所野縄文博物館に保管している。

15 平成21～24年度調査に関しては、本報告書がこれに先立つすべての資料・文献等に優先する。

# 目 次

I	遺跡の位置と環境	1
1	遺跡の位置	1
2	地形・地質	1
3	周辺の遺跡	1
II	調査に至る経過	3
1	これまでの発掘調査	3
2	調査に至る経過と調査の目的	4
III	調査と整理の方法	6
1	調査区の設定	6
2	調査の方法	6
3	遺物の整理方法	7
4	調査の経過	7
IV	調査内容	12
1	基本層序	12
2	IV区	13
3	IV区東トレンチ	30
4	IV区西トレンチ1	36
5	IV区西トレンチ2	40
6	配石トレンチ	42
7	配石南トレンチ	43
8	縄文の森	47
9	出土遺物	54
V	自然科学分析	111
1	御所野遺跡出土の動物遺体（平成21年度～平成23年度）	111
2	御所野遺跡盛土遺構における出土種実遺体に関する考察	112
3	調査地点の層序と盛土遺構の形成過程	125
4	縄文時代以降の植生と植物利用	141
5	御所野遺跡出土縄文土器の胎土分析	148
VI	総括	166
	報告書抄録	169

## 図版目次

第1図	御所野遺跡と周辺の遺跡	2	第22図	縄文の森 2・3トレンチ	51
第2図	調査区配置図	5	第23図	縄文の森 4・5トレンチ	52
第3図	御所野遺跡 国指定史跡範囲・調査区位置図	9	第24図	縄文の森 6～8トレンチ	53
第4図	IV区調査区位置図	10	第25図	IV区出土土器(1)	57
第5図	縄文の森調査区位置図	11	第26図	IV区出土土器(2)	58
第6図	IV区遺構配置図	15	第27図	IV区出土土器(3)	59
第7図	IV区断面図	17	第28図	IV区出土土器(4)	60
第8図	FH48・FH46トレンチ(1)	25	第29図	IV区出土土器(5)	61
第9図	FH48・FH46トレンチ(2)	26	第30図	IV区東トレンチ出土土器(1)	62
第10図	FJ46トレンチ(1)	27	第31図	IV区東トレンチ出土土器(2)	63
第11図	FJ46トレンチ(2)	28	第32図	IV区西トレンチ1出土土器(1)	64
第12図	GA44・GB44トレンチ	29	第33図	IV区西トレンチ1出土土器(2)	65
第13図	IV区東トレンチ(1)	33	第34図	IV区西トレンチ1出土土器(3)	66
第14図	IV区東トレンチ(2)	34	第35図	IV区西トレンチ2出土土器	67
第15図	IV区東トレンチ(3)	35	第36図	土製品	68
第16図	IV区西トレンチ1(1)	38	第37図	IV区出土石器(1)	72
第17図	IV区西トレンチ1(2)	39	第38図	IV区出土石器(2)	73
第18図	IV区西トレンチ2	41	第39図	IV区出土石器(3)	74
第19図	配石トレンチ	44	第40図	縄文の森1～8トレンチ出土土器・石器	75
第20図	配石南トレンチ	46	第41図	胎土分析土器	165
第21図	縄文の森 1トレンチ	50			

## 写真図版目次

写真図版1	IV区(1)	89	写真図版11	配石トレンチ、配石南トレンチ	99
写真図版2	IV区(2)	90	写真図版12	縄文の森 1～5トレンチ	100
写真図版3	IV区(3)	91	写真図版13	縄文の森 6～8トレンチ	101
写真図版4	IV区(4)	92	写真図版14	出土遺物(1)	102
写真図版5	IV区(5)	93	写真図版15	出土遺物(2)	103
写真図版6	IV区(6)	94	写真図版16	出土遺物(3)	104
写真図版7	IV区(7)、IV区東トレンチ(2)	95	写真図版17	出土遺物(4)	105
写真図版8	IV区東トレンチ(3)、IV区西トレンチ1(1)	96	写真図版18	出土遺物(5)	106
写真図版9	IV区西トレンチ1(2)	97	写真図版19	出土遺物(6)	107
写真図版10	IV区西トレンチ2	98	写真図版20	出土遺物(7)	108
			写真図版21	出土遺物(8)	109
			写真図版22	出土遺物(9)	110

## I 遺跡の位置と環境

遺跡の位置と環境については、これまでの報告で記述しているので、ここでは概略を記述する。

### 1. 遺跡の位置（第1図）

遺跡は岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野に位置する。岩手県の内陸北部に位置する一戸町は総面積の70%以上を山林原野で占め、町の中央を北流する馬淵川とその支流域に小規模な集落が分布する典型的な山間地である。このうち、遺跡は町北部の岩館地区に位置しており、いわて銀河鉄道（IGR）一戸駅から南東に1.6km、東北自動車動八戸線の一戸インターから南に3kmほど離れている。遺跡周辺は南北4km、東西2kmの盆地となっているが、遺跡はその東南端の一戸段丘（洪積段丘）に立地しており、背後は岩館段丘から山地へと連続している。谷底平野の一部は市街地となり、その周辺が水田地帯、遺跡と同じ洪積段丘の多くは畑地となっている。

### 2. 地形・地質

遺跡は東西500m、南北120mの東西方向に細長く突き出た標高190～200mの段丘面に立地している。西方500mには馬淵川、南北の崖下には根反川、地切川がありそれぞれ小谷となっている。馬淵川との比高差はおよそ50m、根反川、地切川沿いは20～40mを越す断崖となっている。遺跡はほぼ全面が平坦で、東西両端でも10mの高低差しかなく、西側の段丘先端部は東から西、東側では南から西への緩斜面となっている。遺跡の西側には谷底平野が開け、その前方の馬淵川を隔てた北西方向には周辺で最も高い、標高382mの茂谷山を見渡すことができる。

一戸段丘は松山力（松山1981）により区分された洪積段丘で、盆地最南端の子守付近から北端の鳥越周辺まで300～500m幅で連続している。比較的解析の進んだ段丘で所々東西方向に小谷が入り分断されている。いずれも東から西に緩やかな傾斜を持つ丘陵性の段丘であるが、遺跡周辺は珍しく起伏も少なく平坦である。一戸段丘の基盤層は十和田火山灰の大不動浮石流凝灰岩層で、西側20m下の同じ洪積段丘で八戸浮石流凝灰岩層を基盤とする福岡段丘とは区別される。この福岡段丘に位置するのが馬場平遺跡である。

### 3. 周辺の遺跡（第1図）

御所野遺跡の北側に位置し、現在は工業団地となっている田中遺跡は、平成3～5年度の発掘調査で予想以上の集落の広がりを確認した。調査面積は26,700㎡で、縄文時代の竪穴住居跡100棟、古代の竪穴住居跡45棟を調査した。縄文時代の竪穴住居跡は、一部中期中葉と後期前葉のものも含まれるが、大半は中期末から後期初頭のものであり、御所野遺跡との関連も考えられる。このほか、陥穴状土坑20基、その他の土坑216基を検出している。土坑からの出土遺物は少なく時期を特定するのは難しいが、中期末から後期と晩期中葉の土坑群である（一戸町教委 2003）。

御所野遺跡の対岸に位置する大平遺跡は、現在野球場、陸上競技場などを有する運動公園として町民に利用されている。公園建設に伴う発掘調査では、調査面積33,000㎡で、縄文時代中期末から後期を中心とした竪穴住居跡を131棟、陥穴状土坑19基、その他の土坑184基などを検出している。縄文時代の遺構は御所野遺跡に併行、あるいは後続するものである（一戸町教委 2006）。

下地切遺跡は、御所野遺跡と谷を隔てた北側に位置し、現在は御所野縄文博物館の駐車場となっている。造成工事に伴う発掘調査では、調査面積3,882㎡で、縄文時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡18棟などを検出している（一戸町教委 2008）。





第1図 御所野遺跡と周辺の遺跡

## Ⅱ 調査に至る経過

### 1. これまでの発掘調査（第2図）

御所野遺跡の発掘調査は平成元年度に始まった。一戸町農村工業団地の開発に伴うもので、平成元年7月から試掘調査を開始した。まもなく古墳群と縄文時代の配石遺構群を検出し、9月から本調査を開始した。平成2～4年度は遺跡の保存を目的とした範囲確認調査を行い、平成5年12月21日に国指定史跡となった。平成6～17年度には遺構復元を目的とした内容確認調査を行った。平成15～17年度には遺跡東側の丘陵地の「縄文の森」において範囲確認調査を行い、平成18年度に史跡の追加指定を受けている。その後、遺跡の東西でさらに範囲確認調査を行った。

各年度の主な調査内容は以下の通りである。

調査年度	調査地区	調査区	調査内容
平成元年度	中央調査区		古墳群・配石遺構群の検出
平成2年度	中央調査区		配石遺構群の調査
		栗林	トレンチを設定・遺構調査
		I区	GH68-01堅穴住居跡調査
		III区	EF34-01堅穴住居跡調査
	西側調査区		遺構確認調査
平成3年度	中央調査区	IV区	GB44トレンチ調査
			GB44-01堅穴住居跡調査
	東側調査区		トレンチを設定
		2調査区	HB120、HD114堅穴住居跡調査
平成4年度	中央調査区	IV区	遺構確認調査
			FH48・FH46・FJ46・GA44トレンチ調査
			FH48-01堅穴住居跡調査
			炉跡、埋設土器調査
		IIb区	FE52トレンチ 墓壙、掘立柱建物跡調査 FA52・FB52・FB54・FE50・FE52・FG50トレンチ 配石調査
平成6年度	中央調査区	I区	堅穴住居跡調査
		IIb区	FF48トレンチ調査
		III区	遺構確認調査
平成8年度	東側調査区	1調査区	遺構調査
	西側調査区		焼失住居跡等調査
平成9年度	東側調査区	2調査区	遺構調査
	西側調査区		焼失住居跡等調査
平成10年度	東側調査区	1・3調査区	遺構調査
	中央調査区	I区	遺構調査
		IV区	遺構確認調査
平成11年度	中央調査区	IIb区	遺構調査
平成12年度	中央調査区	IIb区	遺構調査
平成14年度	中央調査区	IIa区	遺構調査
平成15年度	縄文の森		内容確認調査
	中央調査区	V区	遺構調査
平成16年度	縄文の森		範囲確認調査
	中央調査区	V区	遺構調査
平成17年度	中央調査区	IIa区	遺構調査
		V区	遺構調査
	縄文の森		範囲確認調査
平成19年度	縄文の森		指定地外にて範囲確認調査（※報告調査）
	西側調査区	西I～IV調査区	遺構調査
平成20年度	馬場平遺跡		内容確認調査
平成21～24年度	中央調査区	IV区ほか	内容確認調査（※報告調査）

## 2. 調査に至る経過と調査の目的

### (1) 平成21～24年度 「盛土遺構」の発掘調査

先に述べたように、御所野遺跡では平成元年度から発掘調査が行われているが、集落構造とその変遷の解明には多くの課題がある。特に遺跡の中央部（Ⅱ a、Ⅱ b、Ⅴ区）においては、配石遺構の下に、縄文時代中期中葉～末葉の多くの遺構が検出されており、それらの遺構が激しく重複する様子が確認されている。しかし、これらの遺構群の構造と変遷についても不明な点が多い。

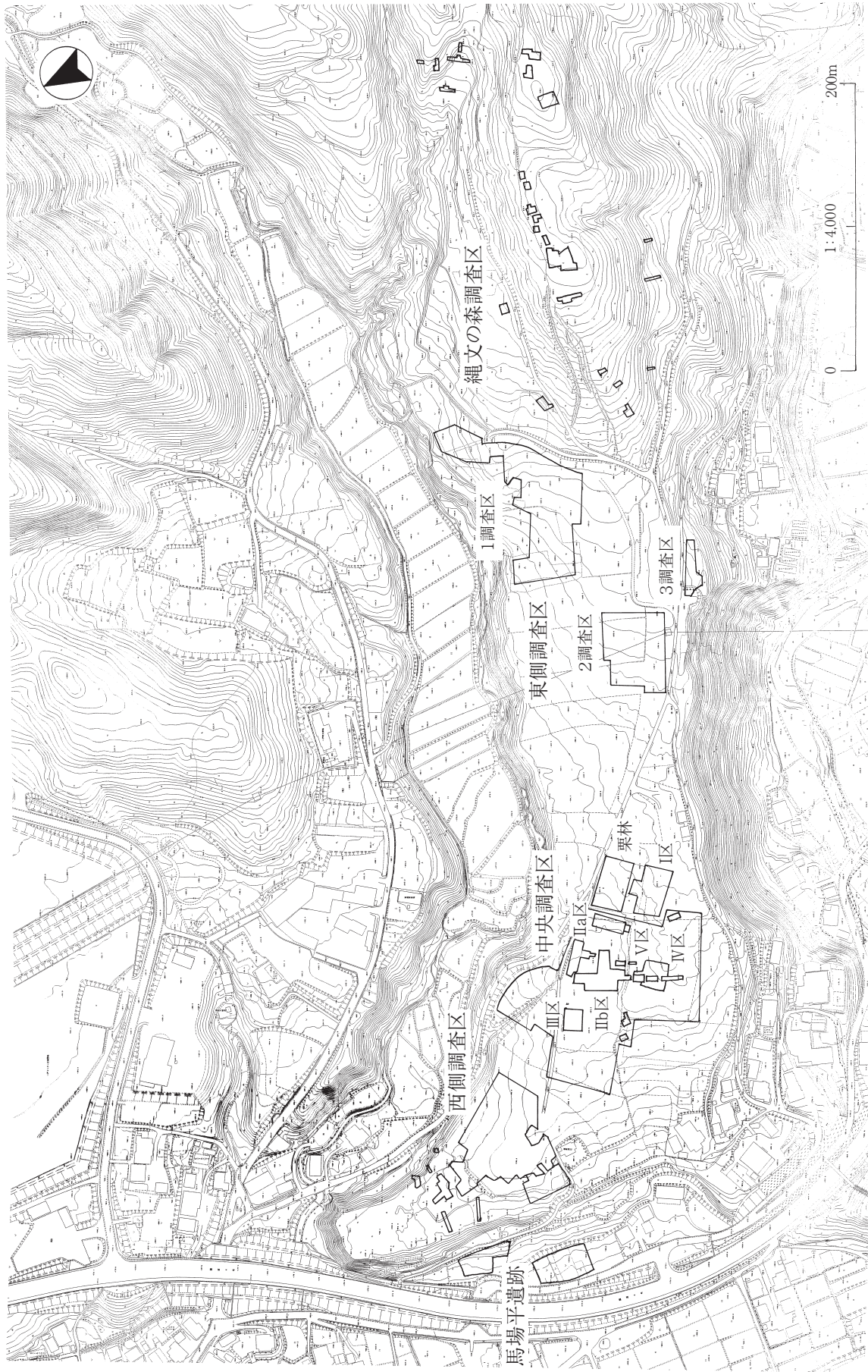
配石遺構の南側に広がると考えられているのが「盛土遺構」である。平成4年度にFH48・FH46・FJ46・GA44トレンチの調査を行ったところ、遺物が多量に出土するとともに、Ⅲ層より上に、Ⅲ～Ⅴ層起源の黄褐色土や黒褐色土が基本土層とは逆転して堆積していると確認された。それに対し、配石遺構周辺ではⅢ～Ⅴ層を欠いていると確認された。これらのことから、「盛土遺構」は配石遺構周辺の土を削平し、それを南側に盛土したものと考えられた。また、獣骨や炭化種実などが多量に出土することから「盛土やその周辺では、獣骨を使った祭祀が行われていた可能性が強い」と指摘された（『御所野遺跡Ⅰ』）。平成10年度にはFH46・FJ46・GA44トレンチ周辺に新たに設定されたⅣ区において調査が行われたが、詳しい内容把握には至らなかった（『御所野遺跡Ⅲ』）。

そのため、平成21～24年度の調査では、「盛土遺構」の内容や形成過程を確認することを目的として調査を進めた。調査の主な課題は、①遺跡中央部における層序の把握 ②盛土遺構の範囲確認 ③重複する遺構との層位的な関係の把握 ④盛土遺構の形成過程の把握の4点である。

### (2) 平成19年度 「縄文の森」における発掘調査

平成16・17年度に範囲確認調査を実施している。調査を行ったのは御所野遺跡（標高190～200m）の東側の丘陵地の「縄文の森」と呼ばれる場所で、標高213～234mの21.167㎡である。この調査結果は『御所野遺跡—平成16、17年度町内遺跡発掘調査報告書』（一戸町文化財調査報告第54集）で報告している。

平成19年度の発掘調査は、7月から9月に「縄文の森」の追加指定部範囲のさらに東側の標高225.5～239mの山地斜面で、遺跡の範囲確認調査を実施した。



第2図 調査区配置図

### Ⅲ 調査と整理の方法

#### 1. 調査区の設定 (第3・4・5図)

平成21～24年度の調査では、先に述べた調査目的のために、遺跡の中央部に6つのトレンチ(Ⅳ区、Ⅳ区東トレンチ、Ⅳ区西トレンチ1、Ⅳ区西トレンチ2、配石トレンチ、配石南トレンチ)を設定した。このうち、Ⅳ区は平成4年度に調査が行われたFH48・FH46・FJ46・GA44トレンチを含み、平成10年度に設定・調査が行われたトレンチである。今回の調査では、まずこのⅣ区を再掘し、調査を行った。さらに、盛土遺構の範囲や重複する遺構との層位的な関係を把握するため、残りのトレンチを順次設定し、調査を行った。

平成19年度に行われた「縄文の森」の調査では、1～8のトレンチを設定した。1～3のトレンチは標高237～239mの東西45m、南北15mの緩斜面に設定し、トレンチ4～6は標高220～226mの沢部分の南東から北西に36m、北東から南西に18mに設定した。この沢は標高192mの地切川に続いている。トレンチ7・8は標高225.5～227.5mの東西10m、南北15mの緩斜面に設定した。

#### 2. 調査の方法

##### グリッド設定 (第3図)

平面座標は平成元年度から同一の座標系を使用し、遺構の平面座標は平面直角座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。

$$\begin{aligned} \text{調査座標原点} \quad X &= RX - 22,129 = RX \pm 0 \\ Y &= RY + 40,414 = RY \pm 0 \end{aligned}$$

グリッドは、これを起点とし、遺跡全体を60×60mの大グリッドを設定し、さらにこれを6×6mの小グリッドに区割りしている。大グリッドは、起点から、北から南へA・B・C・・・のアルファベットを付し、小グリッドは、起点から西から東へ2・4・6・・・の算用数字、北から南へA～Jのアルファベットを付している。グリッドの呼称は「GA46」などのように、それらの組み合わせとする。

##### 遺構の精査、遺構の名称

遺跡保護のため、遺構の掘り下げは最小限にとどめ、掘り下げの際は二分法や四分法を用いて行った。今回の調査で新たに検出し一部でも掘り下げを行った縄文時代の竪穴住居跡や土坑には、従前の方法に沿い、グリッド名を付して「FJ46-02竪穴住居跡」のように遺構名を付した。このほかの時代の土坑や柱穴についてはトレンチごとに連番で遺構名を付した。なお、Ⅳ区と配石トレンチにおいて検出のみ行った遺構については、1～の仮遺構Noを付した。

写真撮影は35mm判カメラ(カラーリバーサル、カラーネガ)、デジタル一眼レフカメラを使用した。

##### 遺物の取り上げ

遺物の取り上げは遺構単位、グリッド単位で、層位ごとに取り上げた。グリッド単位で遺物の取り上げを行う際は、6×6mの小グリッドを、さらに1×1mごとに36分割し、この単位ごとに取り上げた。この1×1mの区割りには北西から東へ①～⑥、一列南へ下がって⑦～⑫のように、①～⑫の算用数字を付し、「GA46①」などのように、グリッドと組み合わせで表記した。

##### 微細遺物の回収方法

Ⅳ区で精査したFJ46-02竪穴住居跡は全体の1/3程度を掘り下げた。この竪穴住居跡の堆積土には、多くの縄文土器、石器、剥片・チップ、炭化物粒、獣骨片などが混入しており、この中にさらに多くの微細遺物が残存している可能性が想定された。このため、FJ46トレンチC-C'断面(第10図)から約50cm幅で設定したベルト部分については、乾燥ふるい法とフローテーション法を用い、微細遺物の回収に努めた。まず、

調査現場において、層位ごとに掘り下げた土をすべて3mmの篩を用いて乾燥ふるい選別を行った。また、層ごとに1ℓずつサンプリングしたものについてはフローテーションを実施した。浮遊物、沈殿物の回収には0.5mmの篩を用いた。ここで検出した遺物を含むFJ46-02竪穴住居跡の堆積土から取り上げ、分類した剥片・チップの詳細は第IV章第9節を参照していただきたい。

また、多量の炭化物が出土したIV区FJ46-01竪穴住居跡、IV区東トレンチGE56-02・05土坑の堆積土についても、一部、フローテーションを実施した。

### 3. 遺物の整理方法

室内整理は発掘調査終了後から御所野縄文博物館で行った。

遺物は、水洗、注記、接合、重量計測、分類などの作業を経たのち、仮番号を付し台帳登録を行い、掲載遺物の抽出を行った。なお、接合に際して、過去の調査で出土した遺物との接合は試みていない。

土器・土製品は完形、略完形のもの、器形全体が判断できるもの、破片資料は口縁部が残存するものを優先して、実測図の作成を行い、掲載した。代表的な遺物については写真撮影を行った。石器・石製品は、全点について遺物観察表を作成した。各器種の代表的な遺物については、実測図の作成、写真撮影を行った。

なお、遺物の分類については、第IV章9節において詳述する。

### 4. 調査の経過

#### IV区

平成21年7月15日から調査を開始した。埋め戻し土を除去した後、調査前の全景写真撮影を行った。その後、基本層序を把握するためGA44トレンチ東隅を深堀した。また、FJ46-02竪穴住居跡を検出し、精査を行った。平成22年度には、まずIV区全体での遺構検出を行い、多くの遺構が重複する状況を確認した。その後、FJ46-01・02、GA44-01竪穴住居跡の精査を行った。さらに、南側の内容確認のため、GA44トレンチを拡張し調査を行った。平成23年度には、FH46・FH48トレンチの精査を重点的に行い、FI46配石・竪穴住居跡・柱穴の精査を行った。その後、FH48トレンチからGA44トレンチまでの土層断面精査を行い、基本層序を確認するとともに、①・②層の堆積とこれらの土層を掘り込んで構築されている竪穴住居跡などとの層位関係を確認した。さらに、GB44トレンチの精査を行った。11月、調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

#### IV区東トレンチ

盛土遺構東側の内容確認を行うため、平成23年5月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら掘り下げを行ったところ、竪穴住居跡や土坑などを検出し、精査を行った。また、トレンチ南東隅を深堀し、層序の確認を行った。11月、調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

#### IV区西トレンチ1

盛土遺構西側の内容確認を行うため、平成23年6月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら掘り下げを行ったところ、①層に相当する黄褐色土ブロックの広がりを確認するとともに、FE38⑨・⑫付近、FF38①・⑦付近において多量の遺物が出土した。また、FE38-01竪穴住居跡を検出し精査を行った。さらに、トレンチの南北の端にサブトレンチを設定、Ⅲ層まで掘り下げ、土層断面の精査を行った。この際、FE38-02竪穴住居跡を検出、FF38⑩・⑪付近では多量の獣骨片や炭化種実が出

土した。11月に調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い調査を終了した。

#### **Ⅳ区西トレンチ2**

さらに西側の内容確認を行うため、平成23年9月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら、トレンチ全面においてⅡb層中まで掘り下げを行った。その後、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、遺物包含層～Ⅳa層中まで掘り下げた。さらに、南西隅を深堀し、層序を確認した。11月に調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い調査を終了した。

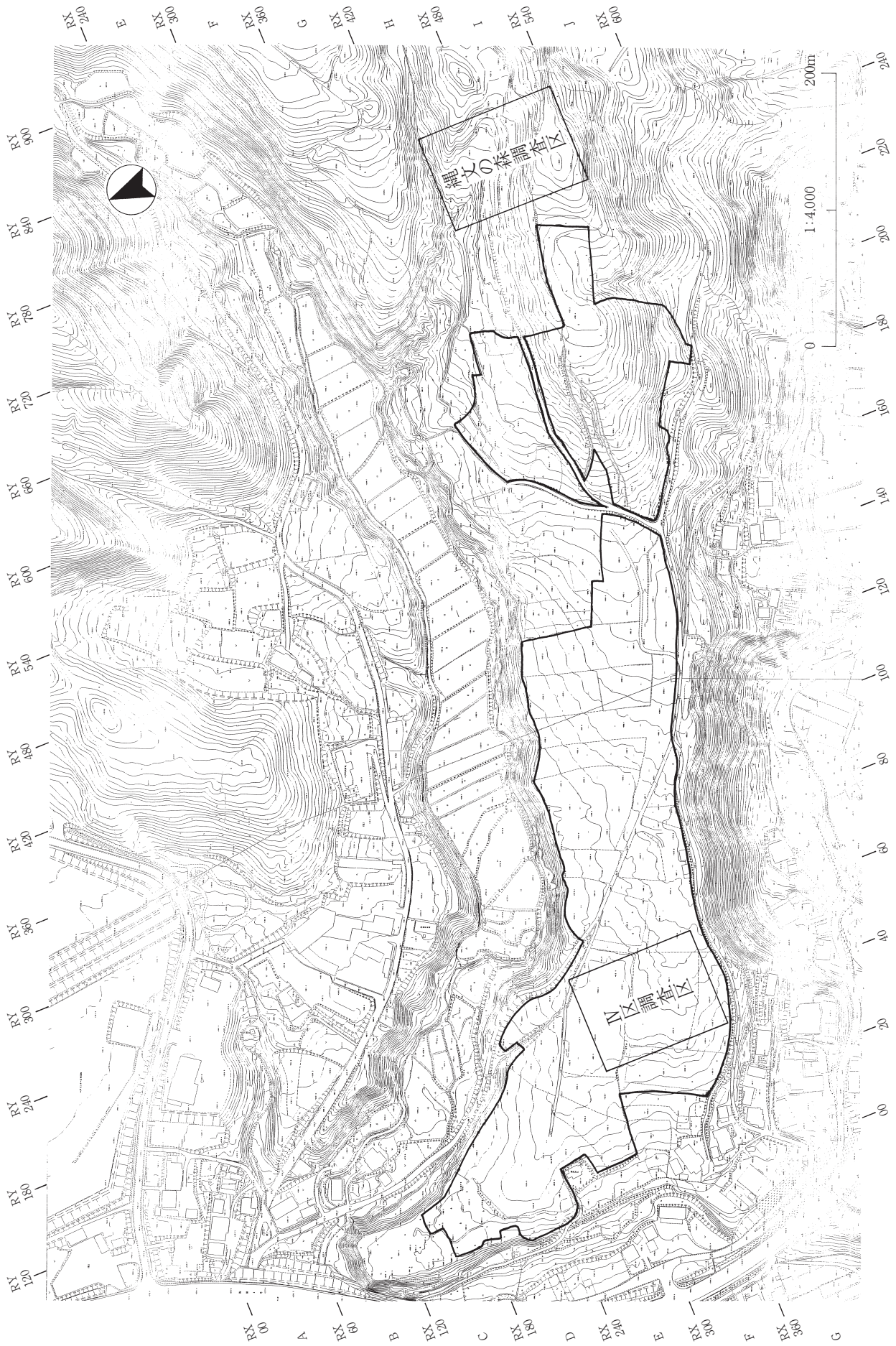
#### **配石トレンチ**

配石遺構との層位的な関係を把握するため、FG52配石周辺にトレンチを設定し、平成23年7月から調査を開始した。FG52配石の精査後、トレンチ南側においてベルトを残して掘り下げ、遺構検出を行った。また、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、竪穴住居跡と柱穴の精査を行った。平成24年は10月から調査を開始した。再度遺構検出を行い、土層断面の精査を行った。11月に調査終了状況の写真撮影、12月に埋め戻し作業を行い調査を終了した。

#### **配石南トレンチ**

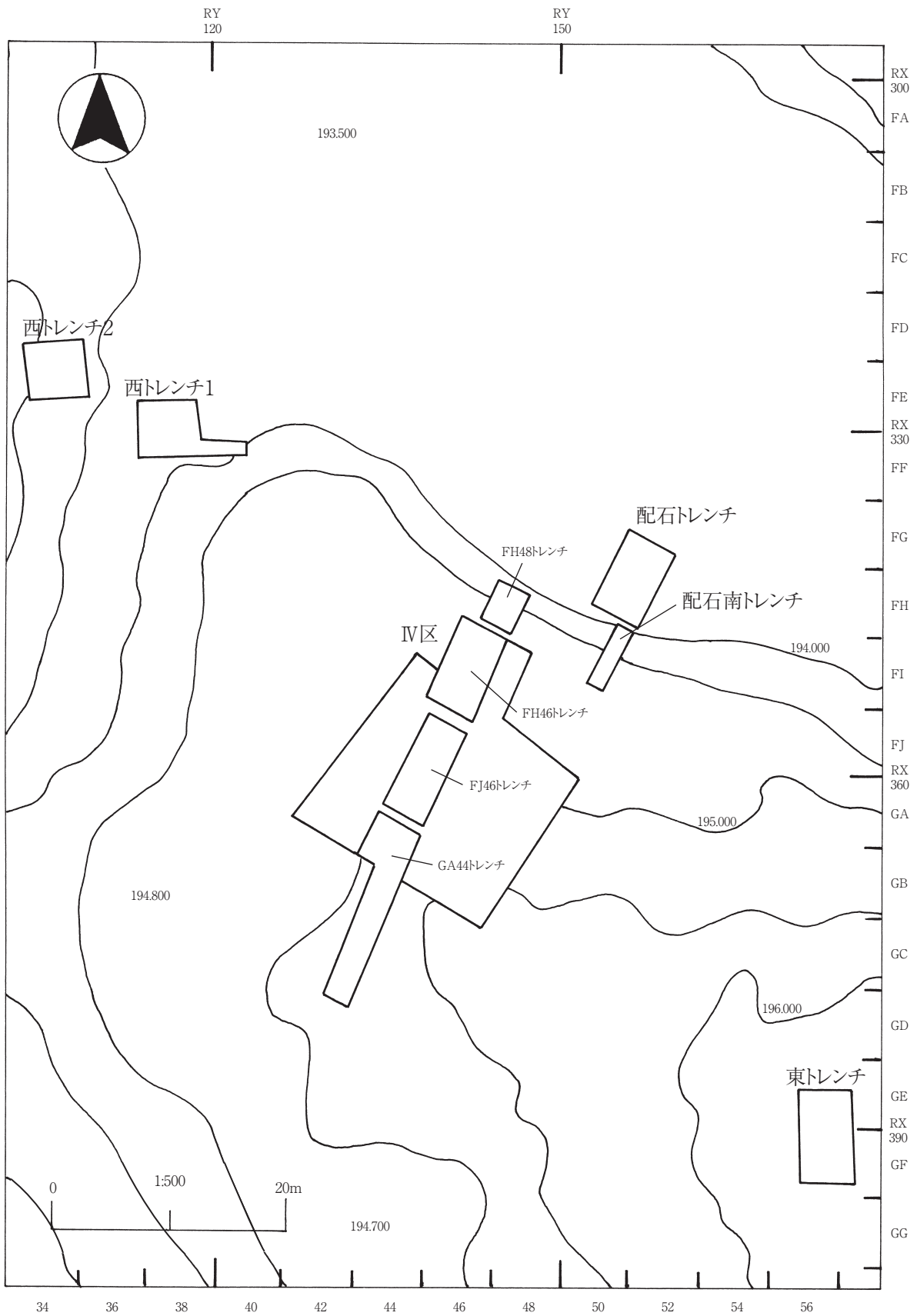
盛土遺構北側の内容確認と配石遺構との層位的な関係を把握するため、平成24年10月から調査を開始した。Ⅱc層を掘り下げたところ、礫の広がりを確認した。その後、遺物包含層を確認し、土坑や柱穴の精査を行った。11月に調査終了状況の写真撮影、12月に埋め戻し作業を行い調査を終了した。平成24年12月11日、すべての作業を終え、4カ年にわたる調査を終了した。

なお、平成21年10月12日と平成23年10月1日に現地説明会を開催した。

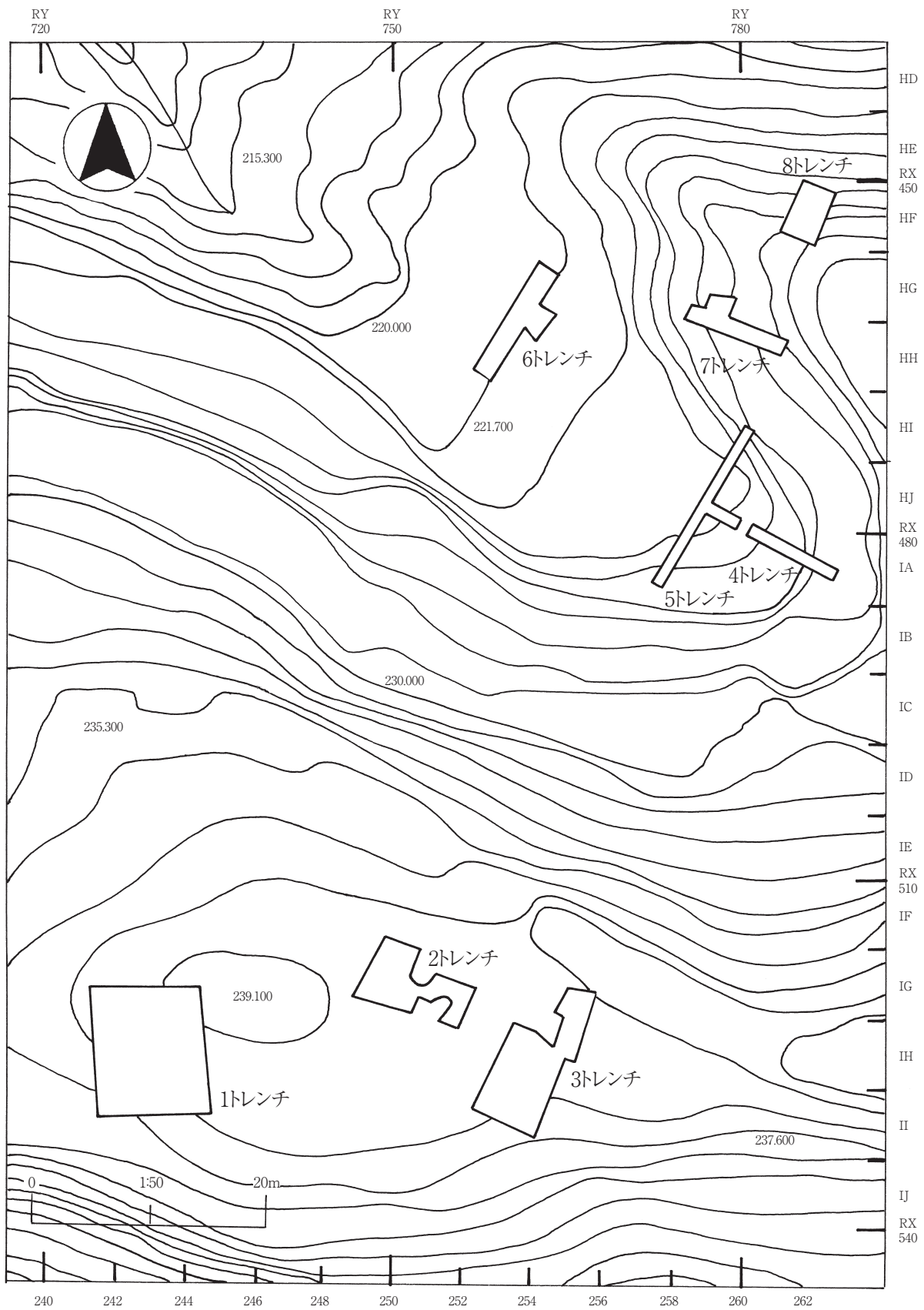


第3図 御所野遺跡 国指定史跡範囲・調査区位置図





第4図 IV区調査区位置図



第5図 縄文の森調査区位置図

## Ⅳ 調査内容

### 1. 基本層序

平成21～24年度の調査では、Ⅳ区 GA44トレンチ（第6・7図）、Ⅳ区東トレンチ（第13図）、Ⅳ区西トレンチ2（第18図）・配石南トレンチ（第20図）の一部で層序の確認を行い、これまでの調査結果に基づき、遺跡中央部における基本層序を、次のように大別した。

- I 層 黒褐～暗褐色土。耕作土。
- II a層 黒褐色土。細粒。粘性弱。
- II b層 黒褐色土。細粒。灰白～浅黄橙色火山灰がブロック状に混入する。
- II c層 黒色土。II a層より細粒である。粘性弱。
- II d層 黒色土。細粒（II c層よりやや粗い）。粘性弱。赤褐色～褐色パミスが少量混入する。
- III 層 暗褐色土。中振火山灰（To-Cu）のブロックが多量に混入する。
- IV a層 黒褐色土。南部浮石（To-Nb）が少量混入。
- IV b層 黒褐～暗褐色土。IV a層より南部浮石がやや多く混入する。
- V a層 暗褐～黄褐色土（粘土）
- V b層 黄褐～明黄褐色土（粘土）。V a層より粘性が強い。
- V c層 明黄褐～にぶい黄橙色土（粘土）。V b層より色調が明るく、粘性が強い。
- VI 層 浅黄橙色火山灰層。
- VII 層 黄褐橙色～明黄褐色粘土。

II b層に含まれる灰白～浅黄橙色火山灰は十和田 a 火山灰（To-a）と考えられる。また、今回行った自然科学分析によると、VI層は八戸火山灰（To-H）の火砕流もしくは火砕泥流、VII層は大不働浮石流凝灰岩（To-Of）による堆積物である。

Ⅳ区 GA44トレンチでは、III層上に縄文時代の堆積層である①・②層を確認した（第7図）。

①層 黄褐色土ブロック。V層起源と考えられる。遺物の混入は客体的であり、炭化物粒や土器片、チップの混入が認められるが極少量である。この層は『御所野遺跡Ⅰ』及び『御所野遺跡Ⅲ』において、「盛土1層」及び「盛土2層」と報告されている層に相当する。ただし、その際は堅穴住居跡の堆積土の様相も含めて「盛土1・2層」の特徴として捉えられている。

②層 黒褐色土。炭化物粒や土器の小片が少量混入する。この層は『御所野遺跡Ⅰ』及び『御所野遺跡Ⅲ』において「盛土3層」と報告されている層に相当する。

Ⅳ区 GA44トレンチの土層断面（第7図 D-D' 断面）及び GB44トレンチでは、①層・②層の堆積がともに確認できたが、FJ46トレンチの土層断面（第7図 C-C' 断面）では②層のみ確認した。第2節で詳述するが、②層を掘り込んで堅穴住居が構築されている。さらに、FH46・FH48トレンチでは堅穴住居跡などの遺構の重複が激しいため、いずれの層も確認できなかった（第7図 A-A'・B-B' 断面）。

Ⅳ区東トレンチにおいても②層を確認している。混入物が極めて少ないのが特徴で、鉍物分析では、中振火山灰（To-Cu）起源とされる火山ガラスが、Ⅳ区よりも多く検出されている。

Ⅳ区西トレンチでは②層に相当すると考えられる黄褐色土ブロックの堆積を確認できた（第16図）。Ⅳ区で確認した層よりやや色調明るく、粘性も強い。また、この層を掘り込んで堅穴住居が構築されていることを確認した。サブトレンチ内においては②層を確認した。Ⅳ区東トレンチで確認した②層の特徴に類似する。

各トレンチでは、層序と「盛土遺構」の形成過程の検討を行うことを目的として、土壌微細形態分析や鉍物組成分析などを行った。この結果について詳しくは第Ⅴ章第3・4節を参照していただきたい。

## 2. IV区

第Ⅲ章第1節でも述べたが、今回の調査では、FH48トレンチ、FH46トレンチ、FJ46トレンチ、GA44トレンチ、GB44トレンチを含めたトレンチを総称して「IV区」と呼ぶこととする。

**調査概要**（第6・7図） IV区はFH46～GC42グリッド付近に位置し、調査面積は347㎡である。

南側のFJ46・GA44トレンチでは①・②層を確認し、これらの層を掘り込んで構築されている竪穴住居跡を検出し、精査を行った。竪穴住居跡の堆積土からは各種多量な遺物が出土した。また、IV区全体において、竪穴住居跡の堆積土の特徴に類似する多くのプランを検出し、1～109の仮遺構Noを付した。これらのプランは竪穴住居跡などの遺構と考えられ、重複が非常に激しい。

IV区全体で検出・精査した遺構は、配石遺構1基、竪穴住居跡18棟、土坑3基、柱穴21個である。このほか、GA44トレンチIV a層中において剥片・チップの出土集中範囲を確認した。柱穴の精査の状況、規模や重複関係などは第1表の通りである。

### FH48-02竪穴住居跡（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** 埋め戻し土を除去した後、縄文土器片や円礫、炭化物粒や焼土粒などを含む黒褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** FH48-03竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 不明

**堆積土** 3層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。1層は黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片を少量含む。2・3層は褐色土を主体とする。黄褐色土ブロックの混入量の違いにより分層した。3層は黄褐色土ブロックを多量に混入する。

**床面施設** 床面において柱穴1、3、4を検出した。竪穴住居跡に伴う可能性が考えられる。

**出土遺物** 1層からは第ⅢB～Ⅳ群土器が少量出土した。小破片が多く、全体の器形が窺えるような資料はなかった。このうち1点（第25図1）を掲載した。また、1層から敲磨器類（表No285）が1点出土した。

### FH48-03竪穴住居跡（第7図、写真図版6）

**検出状況** FH48トレンチA-A'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** FH48-02竪穴住居跡を切る。FH48-03土坑・柱穴10に切られる。

**平面形・規模** 不明。

**壁・床面** 不明。

**堆積土** 5層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。暗褐～黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が少量混入する。5層黄褐色土ブロックが混入する。

**出土遺物** 1層から小形土器（第25図2）が出土している。

### FH48-01土坑（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** 埋め戻し土を除去した後、暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** 柱穴8を切る。また、柱穴7に切られる。

**平面形・規模** 開口部径55×70cmほどの楕円形を呈すると推定される。

**壁・底面** 壁は外傾しながら立ち上がる。Ⅵ層中を底面とし、底面はほぼ平坦である。

**堆積土** 暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。人為堆積と考えられる。

**出土遺物** なし

#### FH48-02土坑（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** 褐色土・黄褐色土・明黄褐色土の混土の広がりとして検出した。

**重複関係** FH48-03竪穴住居跡、柱穴9・10に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** VI層中を床面とし、南側に向かってやや傾斜する。土層断面南側では外傾しながら立ち上がる。

**堆積土** 2層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。1層は褐色土・黄褐色土・明黄褐色土の混土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が極少量混入する。2層は黄褐色土と明黄褐色土の混土を主体とする。

**出土遺物** なし

#### FH48-03土坑（第7図、写真図版6）

**検出状況** FH48トレンチ A-A' 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** FH48-03竪穴住居跡を切る。また、柱穴10に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 不明

**堆積土** 黒褐色土を主体とし、炭化物粒・焼土粒が極少量混入する。色調の違いによって2層に細分した。

**出土遺物** 不掲載としたが、縄文土器が少量出土した。

#### FI46配石（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** FI46配石は平成3年度調査、平成10年度調査において検出・精査が行われている。今回の調査では、この調査面まで再び掘り下げ、確認を行った。

**確認面の土層** 黒褐色土層（第7図B-B' 1層）を主体とし、炭化材（ $\phi \sim 1$  cm）や焼土粒、骨片が少量混入する。また、土器片、円礫、剥片・チップなども混入する。この面からは明確に遺構プランを確認することはできなかった。

**重複関係** FI46-03竪穴住居跡より新しい。

**形状** 2.0m×1.4mの楕円形範囲に、長径10～20cmの礫が集中している。東端には長径55cmを測る礫が位置する。西端では石棒（第39図35）が用いられている。使用礫の石質は、以前の調査において、安山岩が多いほか、花崗岩、チャート、砂岩などが含まれていることが確認されている。

**出土遺物** 平成10年度調査ではこの配石の確認面から第V群土器の口縁部片が出土している。この他、石鏃（表No.29）、敲石（第38図22）、台石？（表No.299）、磨製石斧の刃部片（表No.247）が出土した。

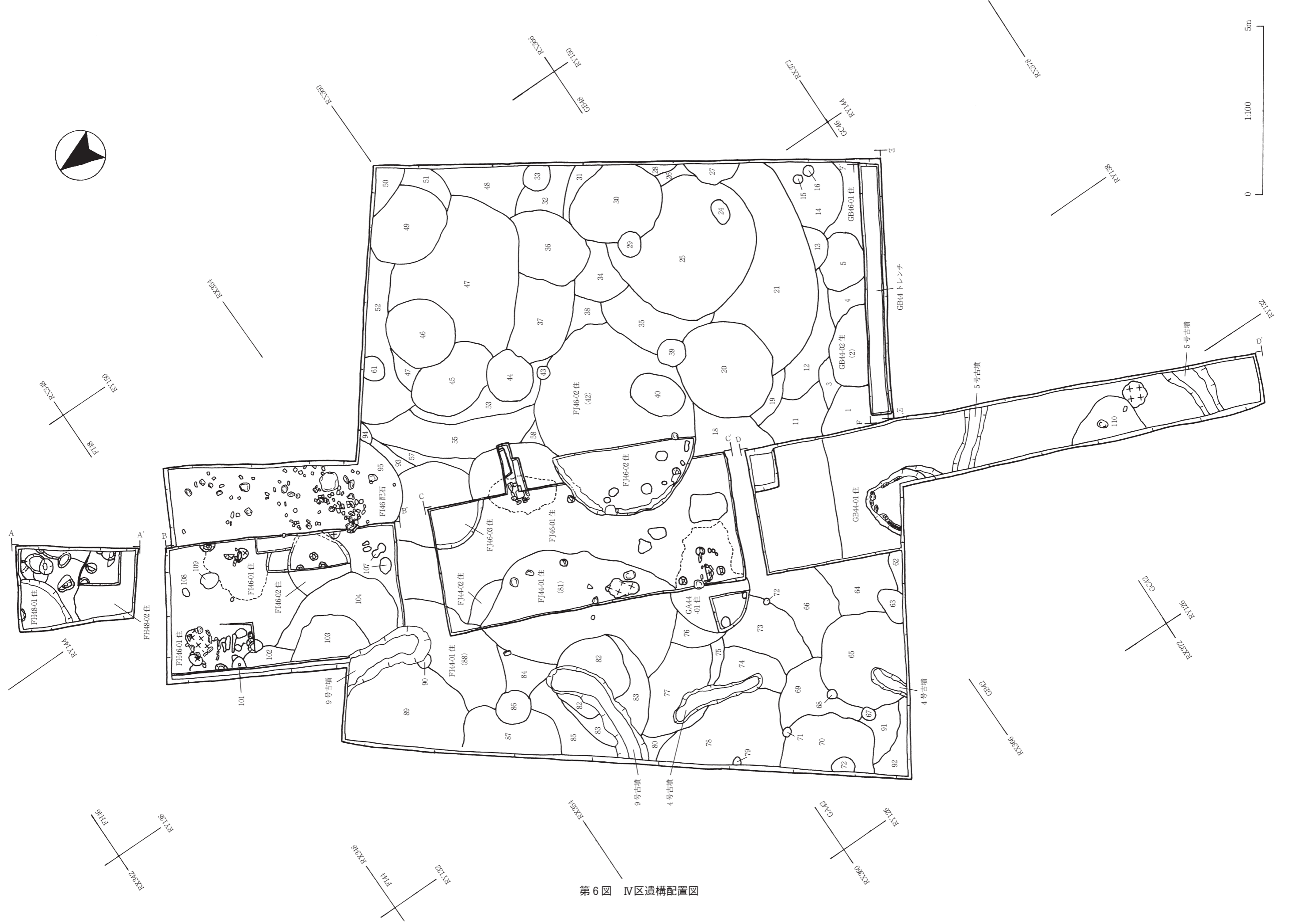
#### FH46-01竪穴住居跡（第8図、写真図版6）

**検出状況** 『御所野遺跡I』では「FH46-01炉跡」と報告されている。今回の調査では、土層断面において立ち上がりを捉えることはできなかったが、石囲炉周辺に黄褐色土の貼床を確認できたことから竪穴住居跡と判断した。

**重複関係** 不明

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 壁の立ち上がりを捉えることはできなかったが、石囲炉の西側周辺において黄褐色土ブロックの



第6図 IV区遺構配置図



第7図 IV区断面図

貼床を確認した。床面と考えられる。

**炉** 楕円形を呈する石囲炉である。規模は92×70cmを測り、内部には焼土が発達している。南東側では19×8cmの炭化材が据えられていることが特筆されよう。また、南側に別の石組列が見られることから、炉の作り替え、もしくは竪穴住居の建て替えの可能性が考えられる。

**堆積土** 不明

**出土遺物** 炉の周辺から縄文土器が出土しているが不掲載とした。また、敲磨器類（第38図31）が出土している。

#### FI46-01竪穴住居跡（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** 『御所野遺跡Ⅲ』では「炉3」と報告されているが、今回の調査では炉の周辺に硬化面を確認できたことから竪穴住居跡と判断した。

**重複関係** 柱穴1に切られる。B-B' 土層断面ではFI46-04・05竪穴住居跡を切ると判断される。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 壁の立ち上がりは明確に捉えることができなかったが、炉の周辺約1mの範囲で硬化面を確認した。床面と考えられる。

**炉** 長さ38cm、幅14cmの円礫の周辺に現地性焼土が広がる。

**堆積土** 土層断面では暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。土器片や剥片・チップなども多く含む。

**出土遺物** 確認面において第IV群土器（第25図4）、第V群土器（第25図5）が出土している。

#### FI46-02竪穴住居跡（第7・8・9図、写真図版6）

**検出状況** 埋め戻し土を除去した後の確認面において、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** FI46-03・04・05竪穴住居跡を切る。また、仮遺構No.104に切られる。

**平面形・規模** 直径2mほどの円形と推定される。

**壁・床面** IV b層中を床面とする。床面はほぼ平坦で、一部に貼床と考えられる硬化面が認められた。壁は外傾しながら立ち上がる。北側の立ち上がりはごく緩やかである。

**堆積土** 4層に分層した。1・2層は人為堆積、3層は自然堆積と考えられる。1層は黒褐～暗褐色土を主体とし、色調や混入物の違いから1a～e層に細分した。炭化材（φ～1cm）や粒状～小ブロック状の焼土を中量、骨片を少量混入する。土器片や剥片・チップを含む。2層は黒褐色土を主体とし、炭化材や焼土を中量混入する。3層は暗褐色～黒褐色土を主体とする。4層は貼床と考えられる。

**床面施設** 床面において柱穴7～8を検出したが、この竪穴住居跡に伴うものではないと考えられる。

**出土遺物** 2層から出土した小形土器（第25図6）を掲載した。石器は2層から石鏃2点（表No.78・79）、石鏃未製品（No.85）が出土した。

#### FI46-03竪穴住居跡（第7・8図、写真図版6）

**検出状況** FH46トレンチB-B'断面において確認した。

**重複関係** FJ46-03竪穴住居跡を切る。また、FI46-02竪穴住居跡、FI46配石に切られる。

**平面形・規模** FH46トレンチ内における平面プランは不明である。FI46配石の下に遺構が続くと推定される。

**壁・床面** 床面はほぼ平坦である。土層断面南側では外傾しながら立ち上がる。北側はFI46-02竪穴住居跡



に切られるため不明である。

**堆積土** 暗褐～黒褐色土を主体とし、混入物の違いにより10層に分層した。1層は暗褐色土を主体とし、焼土粒・炭化物粒・骨片を少量混入する。土器片を多く含む。8層は現地性の明赤褐色焼土である。9層は黒褐色土を主体とし10層に類似するが、掘り込みが続くため分層した。10層は黒褐色土を主体とする床構築土と判断した。

**出土遺物** FH46トレンチ内の確認面において第ⅢB群土器（第25図11）、石鏃（第37図2）が出土している。

#### F146-04 竪穴住居跡（第7図、写真図版6）

**検出状況** FH46トレンチ B-B' 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** FI46-01・02 竪穴住居跡に切られる。また、FI46-05 竪穴住居跡を切ると判断される。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 不明

**堆積土** 黒褐色土を主体とする。混入物の違いにより1～3層に分層した。1層は黄褐色土ブロック、炭化物粒や骨片が少量混入する。2層は局所的に焼土ブロックが認められる。3層は炭化物を極少量混入する。

**出土遺物** なし

#### F146-05 竪穴住居跡（第7図、写真図版6）

**検出状況** FH46トレンチ B-B' 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** FI46-01・02・04 竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 不明

**堆積土** 暗褐色土と黒褐色土の混土を主体とし、炭化物粒や骨片が少量混入する。

**出土遺物** なし

#### FJ46-01 竪穴住居跡（第7・10・11図、写真図版5）

**検出状況** 『御所野遺跡Ⅰ』では「FJ46-01 炉跡」と報告されている。今回の調査では、① FJ46トレンチ C-C' 断面において床面と壁の立ち上がりを確認できたこと ② FJ46トレンチ東側にあたるⅣ区確認面において、暗褐～褐色土を主体とし炭化材や炭化種実を含む広がりとして遺構プランを検出できたことから竪穴住居跡と判断した。

**重複関係** FJ46-02・03 竪穴住居跡を切る。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** ②層中を床面とし、ほぼ平坦である。壁は外傾しながら立ち上がる。

**炉** 石囲部+前庭部から構成される複式炉と考えられる。石囲部は68×53cmを測ると推定され、内部には焼土が発達している。

**堆積土** 5層に分層した。1層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。また、炭化材が中量、焼土粒や骨片が少量混入する。2層は黒褐色土を主体とし、炭化材・炭化種実を多量に含む層である。炉を覆うように炭化材と炭化種実が分布しており、分布に偏りは見られず、混在していた。炭化種実には完形ものは少なく、炭化材も破片のものが多く見られた。石囲部の中心にいくほど炭化物は厚く堆積しており、完形の炭化種実がやや多く認められた。3～5層は黒褐色土を主体とし、混入物の違いによって細分した。3層は炭化物粒や焼土粒が少量混入する。4層は炭化物粒や焼土粒が極少量混入する。5層にはほと

んど混入物は認められなかった。

**出土遺物** 2層から出土した第25図18は、孔が施され、脚部の端部が肥厚し平らに調整されていることから、器台の破片と考えられる。また、堆積土から第ⅢB群土器（第25図19）、石鍬（第37図11）、スクレイパー（表No168）が出土した。炭化種実とはチノキ種子に同定されるものが多かったが、詳しくはV章を参照していただきたい。

#### FJ46-02竪穴住居跡（第7・10・11図、写真図版4）

**検出状況** FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を含む黄褐色土・褐色土・暗褐色土の広がりとして検出した。また、これに続く遺構プランをⅣ区確認面においても検出した。

**重複関係** FJ46-01竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 長軸5.9m×短軸4.6mほどの楕円形を呈すると推定される。

**壁・床面** 壁はほぼ直立気味に立ち上がる。Ⅳa層中を床面とする。床面にはやや凹凸が見られ、一部には貼床と考えられる硬化面が認められた。

**床面施設** 柱穴と壁溝と考えられるプランを検出した。

**炉** 精査を行った範囲では確認されなかった。

**堆積土** 精査の際は、まず、FJ46トレンチ内において掘り下げを行い、FJ46トレンチC-C'断面（調査時はA-A'断面と呼称）において、土層観察・分層を行った。その後、この断面から約50cm幅で設定したベルトを残し、反対側にサブトレンチを設定し掘削した。A-A'断面の裏側をD-D'断面、最終的に残った断面をE-E'断面（第11図e-e'断面）と呼称し、観察・分層した。約50cm間隔で3本の断面をとったことになるが、層の対比を行うことは難しい状況であった。そこで、ベルトの掘り下げの際は、A-A'断面をもとに層ごとに遺物の取り上げを行った。

調査時のA-A'断面（第7図C-C'断面）では3地点でサンプリングを行い、土壌微細形態分析を行った。詳しくは、第V章第3・4節を参照していただきたい。

A-A'断面は12層に分層したが、堆積様相や遺物の出土状況などから、以下のように大別されよう。

①黄褐色土ブロックを主体とする（6a層）。ほかの土層より混入物は少ないが、全く混入しないわけではない。極少量の骨片、炭化物、焼土粒、チップなどが混入する。

②褐色土ブロックを主体とする（2・4・6b層）。少量の炭化物、焼土粒、骨片、土器片、チップなどが混入する。6b層からは略完形の第Ⅳ群土器（第26図25）が出土した。

③褐色～黄褐色土ブロックを主体とする（7・9a・9b・9c層）。炭化物や焼土粒、骨片、剥片・チップなどが混入する。土器は完形～略完形の土器や大形の破片が出土した。

④黒褐～暗褐色土ブロックを主体とし、遺物を多量に含む層（1・3・5a・5b・8層）。5層は炭化物や土器片を含み、それらの出土状況から周囲からの再堆積土壌である可能性がある。5b層の下位には明褐色焼土の堆積が認められる。8層からは多量の剥片・チップや炭化物が出土した。

⑤黒褐色土ブロックを主体とする（10～12層）。炭化物や焼土粒、チップ、骨片が少量混入する。

調査時E-E'（第11図e-e'）断面では15層に分層した。

1a～c層は黒褐色～暗褐色土ブロックを主体とし、炭化物、土器片、骨片、焼土ブロックが混入する。2・4～6層は暗褐色土ブロックを主体とし、少量の炭化物粒や焼土粒などが混入する。3層は褐色土ブロックを主体とする。遺物の混入は少ない。7～9層は黒褐色土ブロックを主体とする。10層は暗褐色土ブロックを主体とし、焼土や炭化物が多量に混入する。11層は黒褐色土ブロックを主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。12・13層は黒褐色土ブロックを主体とする。12層からはシカと同定された骨片が出土した。

14・15層は暗褐色～黒褐色土を主体とする。炭化物や焼土粒などの混入はほとんど認められなかった。

**出土遺物** 堆積土の各層から縄文土器、石器、剥片・チップ、動物遺存体、植物遺存体など多量の遺物が出土した。縄文土器は第Ⅲ A・Ⅲ B・Ⅳ群土器が出土し、このうち15点（第25図20～23・第26図24～30図・第27図34図）を掲載した。第25図20は床直出土、第25図23は12層出土の土器である。石器は42点出土した。石鏃18点（表No.2～9・30～37・80・81）、石鏃未製品8点（表No.86～89・97～100）、石槍未製品1点（表No.131）、両面加工石器1点（表No.157）、スクレイパー 2点（表No.169・170）、二次加工ある剥片6点（表No.189・191・192・198・199・214）、使用痕ある剥片2点（表No.228・229）、楔形石器1点（表No.242）、床直出土の磨石1点（第38図24）、このほかの敲磨器類2点（表No.276・287）である。第9節において詳述するが、各層から多量の剥片・チップが出土している。動物遺存体、植物遺存体については第9節および第V章第1・2節を参照していただきたい。

#### **FJ46-03 竪穴住居跡**（第7・10・11図、写真図版5）

**検出状況** FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。また、Ⅳ区確認面においてもこれに続くプランを検出した。

**重複関係** FJ46-01 竪穴住居跡、FI46-03 竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 長軸3.0m×短軸2.6mほどの楕円形を呈すると推定される。

**壁・床面** 壁はほぼ外傾しながら立ち上がる。Ⅳ a 層中を床面とする。床には凹凸が見られ、一部には貼床と考えられる硬化面が認められた。

**床面施設・炉** 精査した範囲では確認できなかった。

**堆積土** 8層に分層した。1～6層は人為堆積、7・8層は壁の崩壊土による自然堆積ではないかと考えられる。次のように大別される。1層は褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、炭化物や焼土粒、骨片が少量混入する。2層は褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが中量混入する。混入物はほとんど認められない。3～4層は暗褐色土を主体とし、遺物が多量に混入する。5～6層は黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土が少量混入する。7・8層は黒褐色土を主体とし、混入物は認められなかった。

**出土遺物** 第Ⅲ A・Ⅲ B 群土器が出土した。完形のものではなく、すべて破片である。このうち5点を掲載した（第27図35～39）。石器は石鏃未製品2点（表No.89・90）、スクレイパー 2点（表No.171・172）、敲磨器類4点（表No.248・262・295・296）が出土した。出土した骨片はシカと同定されたものを含む。

#### **GA44-01 竪穴住居跡**（第7・10・11図、写真図版5）

**検出状況** FJ46トレンチ内において暗褐色土を掘り下げたところ、石囲炉を検出し、その周囲で硬化面が認められた。また、その西側にあたるⅣ区確認面においても、炭化物粒や骨片を多量に含む暗褐色土の広がりを確認した。

**重複関係** FJ44-01 竪穴住居跡を切る。

**平面形・規模** 長軸3.2m×短軸2.4mほどの楕円形を呈すると推定される。

**壁・床面** 確認できたのは床面からわずかだが、外傾しながら立ち上がる。②層中を床面とし、ほぼ平坦である。

**床面施設** 床面において柱穴2個を検出した。また、FJ46トレンチ内の硬化面において柱穴3～5を検出、半裁した。いずれも検出面からの深さは10cm前後と浅く、この竪穴住居跡に伴うものか不明である。

**炉** 楕円形を呈する石囲炉である。規模は54×38cmを測り、内部には焼土が発達している。

**堆積土** 3層に分層した。1 a 層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や骨片が多量に散在して混入する。また、

焼土が粒～ブロック状に中量混入する。1b層は黄褐色土ブロックが多量に混入する。2層は黒褐色土、3層は暗褐色土を主体とする。

**出土遺物** 第28図46～48は2層から出土した。48は割れ口が研磨されている。また、石鏃1点（表No.38）が出土した。

#### FJ44-01 竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

**検出状況** FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を多く含む黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** FJ44-02・FI44-01 竪穴住居跡を切る。また、GA44-01 竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 掘り下げを行っていないため詳細は不明だが、長軸5.5m×短軸3.4mほどの隅丸長方形を呈すると推定される。

**壁・床面** 不明

**堆積土** 掘り下げは行っていないが、FJ46トレンチ h-h' 断面において9層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。各層の特徴をまとめると次の通りである。1層は黒褐色土を主体とし、焼土を中量、炭化物粒や骨片を少量混入する。土器片や剥片も含む。2・3・7a～7c層は黒褐色土を主体とし、褐色土ブロックや黄褐色土ブロックを混入する。土器片や剥片・チップも含む。4・6層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片、土器片などが混入する。8層は黄褐色土ブロックと明黄褐色土ブロックの混土であり、混入物は認められない。9層は褐色土ブロックと黄褐色土ブロックとの混土を主体とし、焼土粒・炭化物粒が少量混入する。

**出土遺物** 7a層から第ⅢA群土器（第27図40）、敲磨器類（表No.34）、確認面からは使用痕ある剥片（表No.230）、両刃礫器（第38図33）などが出土した。

#### FJ44-02 竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

**検出状況** FJ46トレンチ内②層中において、また、FJ46トレンチ h-h' 断面において検出した。検出のみを行い、掘り下げは行っていない。

**重複関係** FJ44-01・FI44-01 竪穴住居跡に切られる。

**堆積土** 黒褐色土を主体とし、褐色～黄褐色土ブロックや炭化物粒を少量混入する。

**出土遺物** なし

#### FI44-01 竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

**検出状況** FJ46トレンチ内②層中において、また、FJ46トレンチ h-h' 断面において検出した。検出のみを行い、掘り下げは行っていない。

**重複関係** FJ44-02 竪穴住居跡を切る。また、FJ44-01 竪穴住居跡に切られる。

**堆積土** 掘り下げは行っていないが、FJ46トレンチ h-h' 断面において2層に分層した。1層は黒褐色土を主体とし遺物を少量含む。2層は暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とする。混入物は認められない。

**出土遺物** 確認面において第ⅢB群土器が出土しているが、小片のため不掲載とした。

#### GB44-02 竪穴住居跡（第6・12図、写真図版7）

**検出状況** 平面プランは仮遺構No.2として検出した。その後、GB44トレンチを設定し掘削したところ、トレンチ内のみの確認だが、硬化面を確認できた。また、土層断面においても、わずかだが立ち上がりを確認することができたことから、竪穴住居跡と捉え、遺構名を付した。

重複関係 なし 平面形・規模 不明

壁・床面 壁の立ち上がりはほとんど捉えることができなかった。床面は①層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土 暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックを中量混入する。また、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。

出土遺物 ①層中から第Ⅱ群土器（第27図43）、敲石（第38図20）が出土した。

GB46-01 竪穴住居跡（第6・12図、写真図版7）

検出状況 GB44トレンチ E-E' および F-F' 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係 土層断面では GB46-02 竪穴住居跡を切ると判断される。

平面形・規模 不明 壁・床面 不明

堆積土 5層に分層した。1～3、5層は黒褐色土、4層は暗褐色土を主体とする。 出土遺物 なし

GB46-02 竪穴住居跡（第6・12図、写真図版7）

検出状況 GB44トレンチ E-E' および F-F' 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

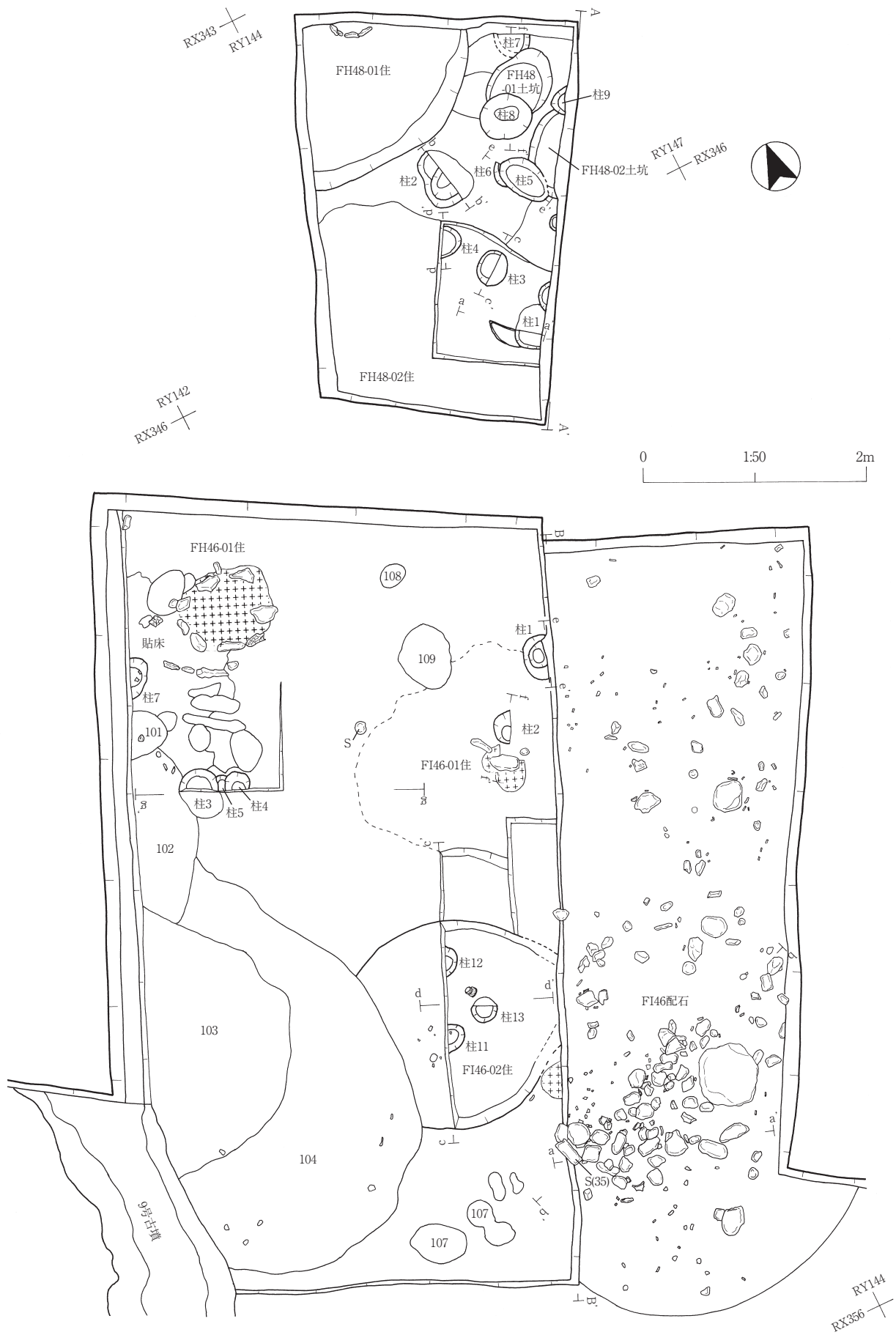
重複関係 土層断面では GB46-01 竪穴住居跡に切られると判断される。

堆積土 黒褐色土を主体とする。混入物の違いにより 1a～1c に細分した。1a層は黄褐色土ブロックが少量混入する。1b層は炭化物粒や骨片などが少量混入する。1c層は褐色土ブロックや炭化物粒が少量混入する。

出土遺物 なし

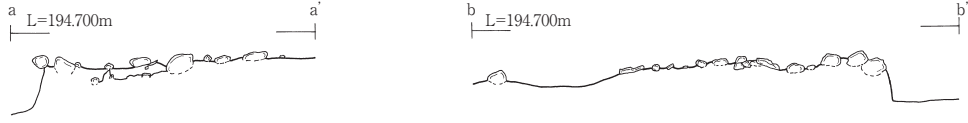
第1表 IV区柱穴表

トレンチ名	遺構名	重複関係	開口部規模 (cm)	底面標高 (m)	備考
FH48トレンチ	柱穴1	なし	39×(23)	193.220	
FH48トレンチ	柱穴2	なし	55×(45)	193.330	
FH48トレンチ	柱穴3	なし	33×(27)	193.120	
FH48トレンチ	柱穴4	なし	(29)×(21)	193.210	
FH48トレンチ	柱穴5	>FH48-02土坑・柱6	50×31	193.530	
FH48トレンチ	柱穴6	<柱5	26×(17)	193.430	
FH48トレンチ	柱穴7	>FH48-01土坑	(32)×(21)	193.480	
FH48トレンチ	柱穴8	<FH48-01土坑	50×42	193.080	
FH48トレンチ	柱穴9	>FH48-02土坑	26×(13)	193.350	
FH48トレンチ	柱穴10	>FH48-03住・FH48-02・03土坑	—	193.500	断面で確認
FH46トレンチ	柱穴1	>FI46-01住	41×(21)	193.220	
FH46トレンチ	柱穴2	なし	32×(15)	193.490	
FH46トレンチ	柱穴3	>柱5	(45)×35	193.700	
FH46トレンチ	柱穴4	>柱5	(17)×22	193.450	
FH46トレンチ	柱穴5	<柱3・4	(14)×(8)	—	掘りきっていない
FH46トレンチ	柱穴6	なし	(40)×(17)	193.827	
FH46トレンチ	柱穴7	>FI46-02住	24×(15)	193.670	
FH46トレンチ	柱穴8	>FI46-02住	26×(11)	193.740	
FH46トレンチ	柱穴9	>FI46-02住	24×24	193.590	
FJ46トレンチ	柱穴1		23×22	194.304	FJ44-01住との新旧関係不明
FJ46トレンチ	柱穴2	なし	28×26	194.328	
FJ46トレンチ	柱穴3	なし	22×21	194.492	
FJ46トレンチ	柱穴4	なし	27×26	194.579	
FJ46トレンチ	柱穴5	なし	26×19	194.494	

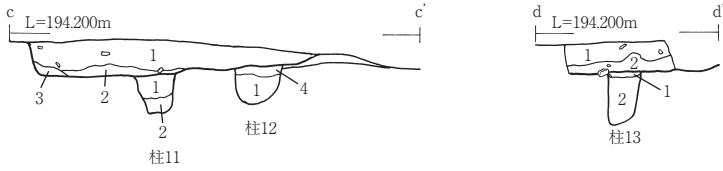


第8図 FH48・FH46トレンチ(1)

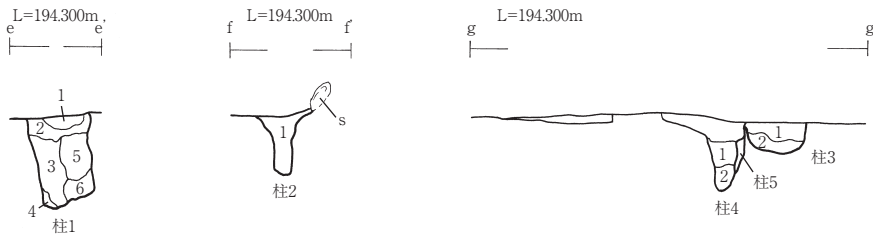
FI46配石



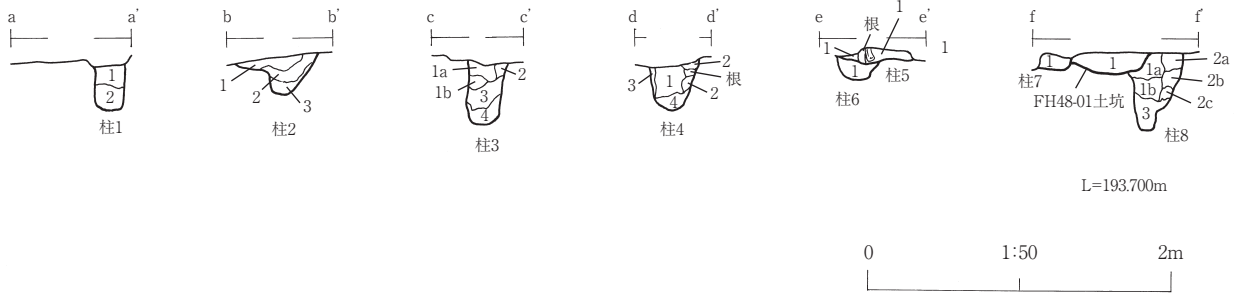
FI46-02住



FH46トレンチ



FH48トレンチ

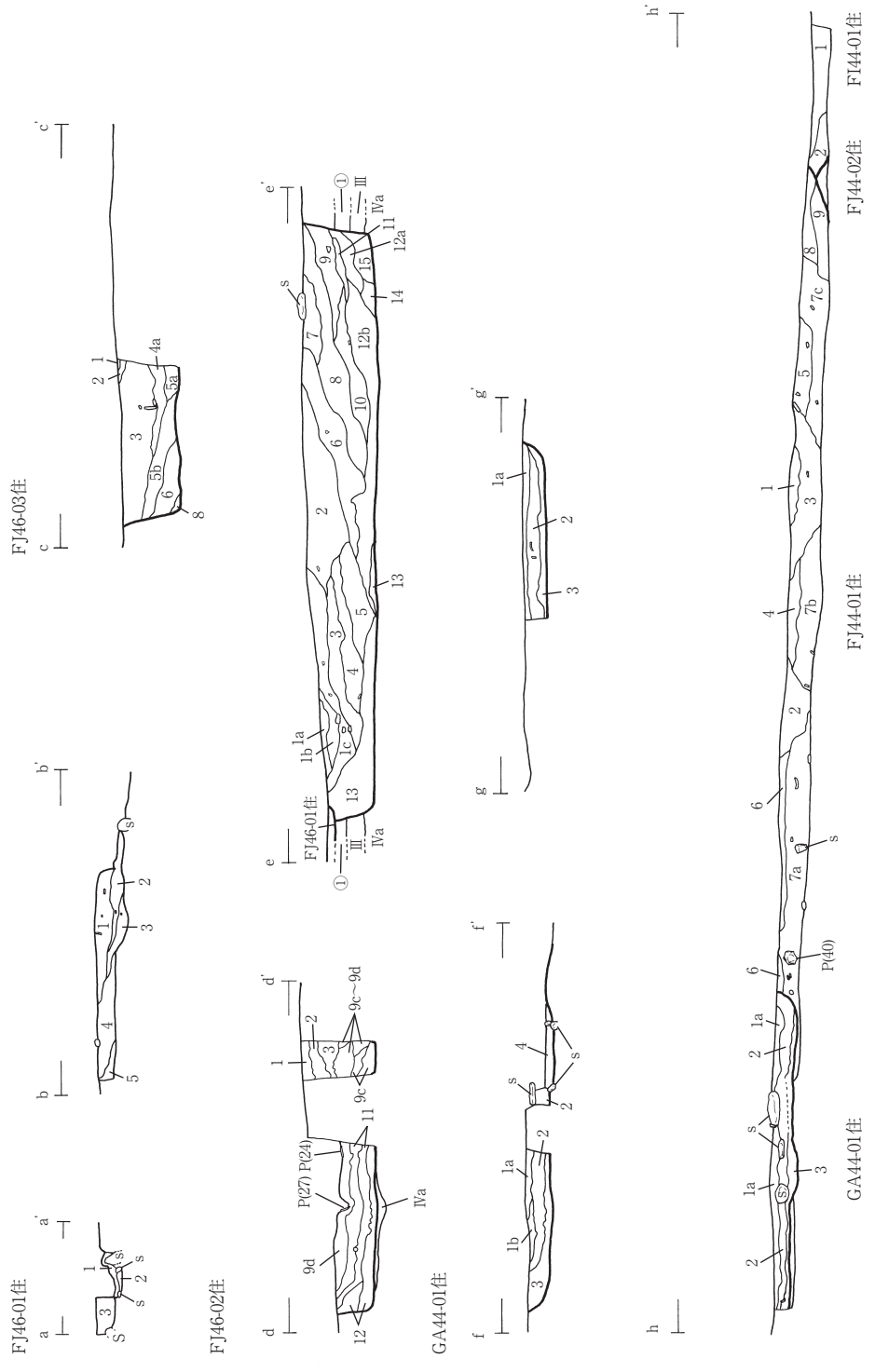


第9図 FH48・FH46トレンチ(2)



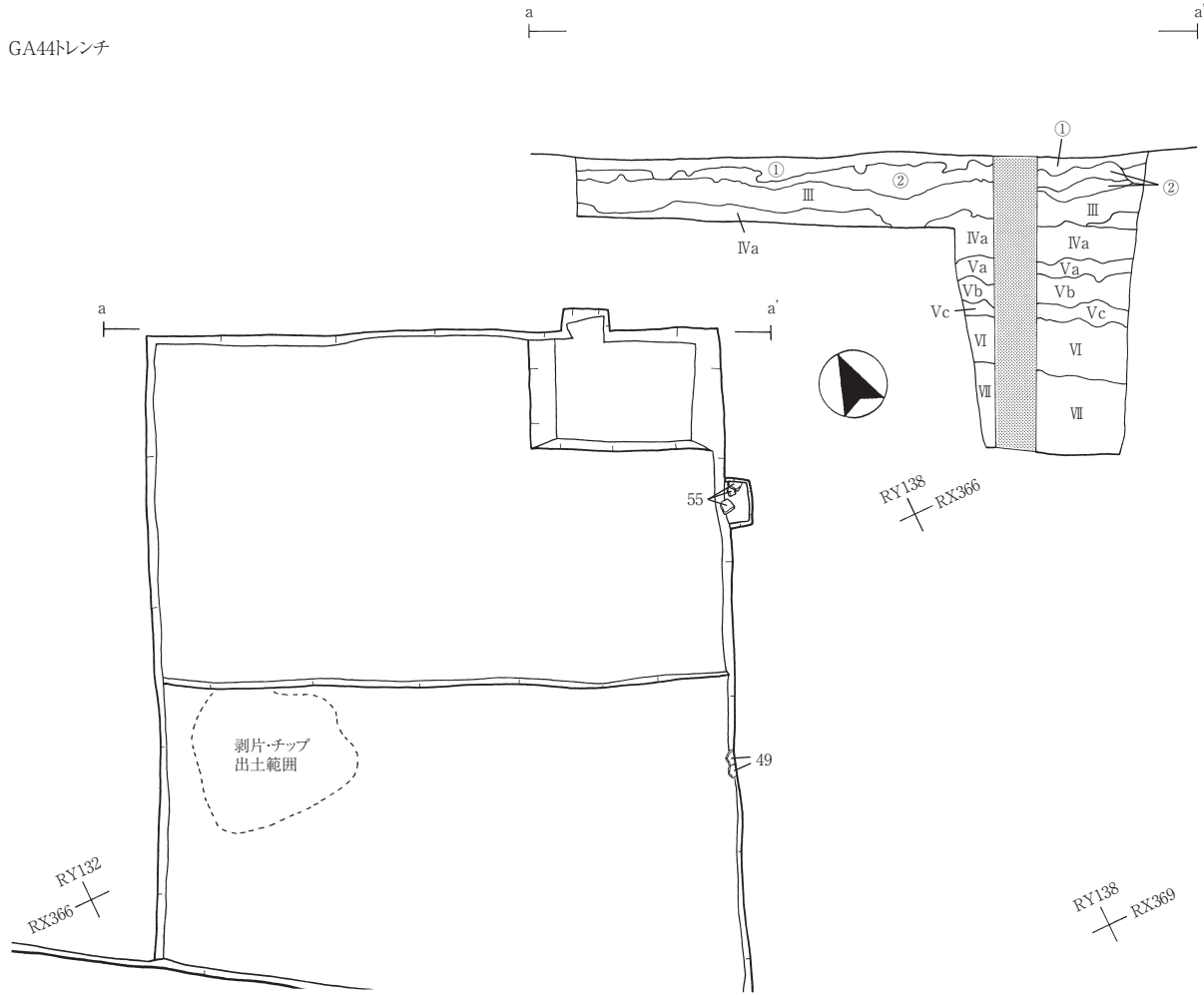
第10図 FJ46トレンチ (1)



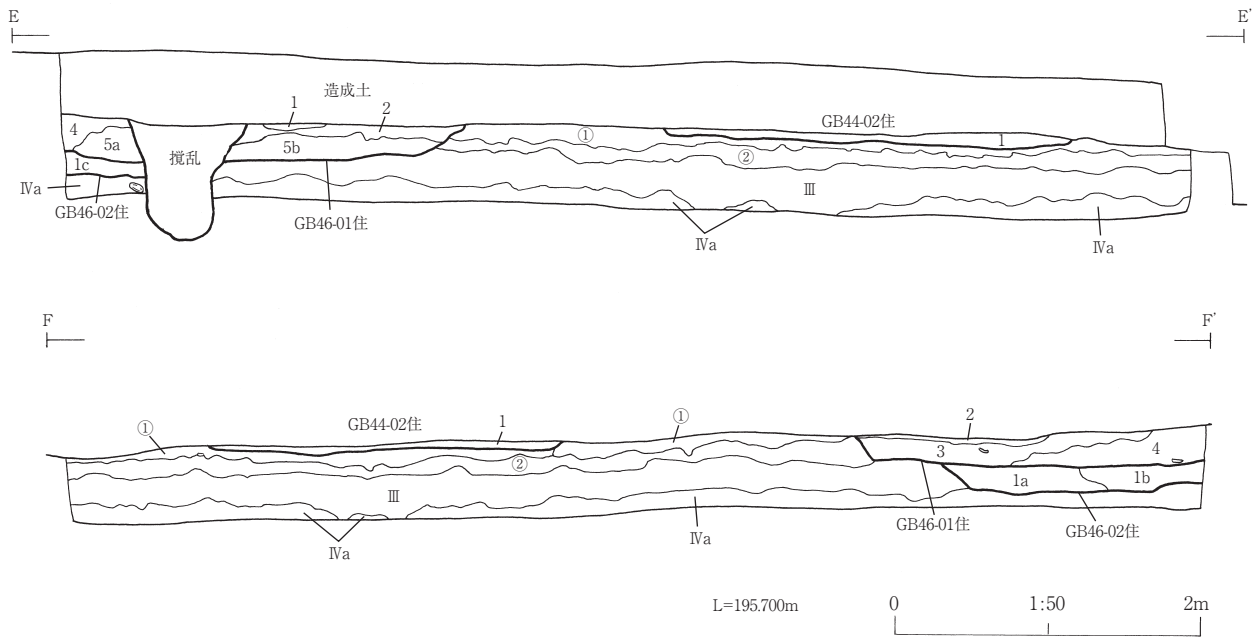


第11図 FJ46トレンチ (2)

GA44トレンチ



GB44トレンチ



第12図 GA44・GB44トレンチ

### 3. IV区東トレンチ

**調査概要** IV区東トレンチはGE56・GF56グリッドに位置し、調査面積は33㎡である。

IV区東トレンチにおいても②層を確認し、この層を掘り込んで構築されているGF56-01竪穴住居跡などを検出し、精査を行った。

検出した遺構は、竪穴住居跡3棟、土坑7基である。このほかトレンチ北側のGE56グリッドにおいて多量の遺物が出土した。

#### GE56-01竪穴住居跡（第13～15図、写真図版7）

**検出状況** 遺跡保護の造成土を除去した後、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** GE56-02竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** 床にはやや凹凸が見られ、硬化面が認められた。床面にも焼土や炭化材が認められた。壁はゆるやかに外傾しながら立ち上がる。

**床面施設** 床面においてしまりのない黒褐色土の広がりとして柱穴1個を検出した。1層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし焼土や炭化物が少量混入する。2層は暗褐色土を主体とする。

**堆積土** 3層に分層した。1層は暗褐色～黒褐色土を主体とし、焼土粒や炭化物粒が少量混入する。色調の違いにより1a・1b層に細分した。2層は炭化材や焼土が多量に混入する。3層は黒褐色～暗褐色土を主体とする。締りは弱い。

**出土遺物** 第ⅢA・ⅢB群土器が出土し、このうち10点（第30図80～89）を掲載した。石器は11点出土した。石鏃5点（表No.16・46・47・67・77）、石鏃未製品4点（表No.114～117）、敲磨器類2点（表No.279・290）である。また、2層最下部からは多量の骨片が出土した。

#### GE56-02竪穴住居跡（第13・14図、写真図版7）

**検出状況** GE56-01竪穴住居跡と同一の遺構として掘り下げていたが、床面において周溝のプランを検出し、E-E'断面において別遺構と確認した。

**重複関係** GE56-01竪穴住居跡を切る。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** Vb層中を床面とする。今回の調査部分では、貼床や硬化面などは認められず、床はやわらかい。壁は外傾しながら立ち上がる。

**床面施設** 床面において周溝を検出した。また、柱穴1個を検出した。柱穴の堆積土は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。床面からの深さは36cmを測る。

**堆積土** 10層に分層した。1層は褐灰色土を主体とし、粘性・締りともに弱い。2～8層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックや炭化物の混入の違いにより細分した。壁際の9・10a層は黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが混入する。

**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが、小片のため不掲載とした。また、石鏃2点（表No.17・48）、二次加工ある剥片2点（表No.201・202）が出土した。

#### GF56-01竪穴住居跡（第13・15図、写真図版7・8）

**検出状況** 遺跡保護の造成土を除去した後、炭化物や焼土、土器片を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

**壁・床** V b層中を床面とする。床面はほぼ平坦で、図示していないが貼床が認められた。壁はほぼ直立した後、上部では外傾しながら立ち上がる。

**堆積土** 27層に分層したが、次のように大別される。1～2層は暗褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒が少量混入する。第ⅡA群土器を主体とする土器片が多く出土した。3～5層は黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒が混入する。土器片、剥片なども出土した。6～14層は黒褐色土を主体とし、暗褐色土ブロックや黄褐色土ブロックが混入し、炭化物粒も少量混入する。15層は黄褐色土ブロックの混入が多くなる。16層以下は炭化物粒が少量混入する黒褐色土と黄褐色土の互層となる。18層からは第30図98が出土した。18層は黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックや炭化物が混入する。23・25層は黒褐色土、24・26層は暗褐色土である。27層は黒褐色土を主体とし、浅黄橙色土ブロックが混入する。1～20層は自然堆積、21～27層は自然堆積と捉えられよう。

**出土遺物** 16点(第31図98～113)を掲載した。1～3層からは第ⅡA群土器が多く出土し、少量だが第ⅡB・ⅢB群土器も出土している。石器は15点出土した。石鏃未製品6点(表No.119～124)、スクレイパー2点(表No.178・179)、石錐(表No.185)、二次加工ある剥片(表No.203～205)、敲磨器類2点(表No.256・278)、台石(表No.300)である。

#### GE56-01土坑(第13図、写真図版7)

**検出状況** ②層中において黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

**壁・底面** IV a～IV b層中を底面とする。底面はほぼ平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。北側の立ち上がりはごく緩やかである。

**堆積土** 黒褐～暗褐色土を主体とし、土器片や炭化物を少量含む。

**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが不掲載とした。

#### GE56-02土坑(第13・15図、写真図版7)

**検出状況** ②層中において黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** Ⅲ層～14層中を底面とする。底面はほぼ平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。

**堆積土** 黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、焼土ブロックや炭化材が混入する。人為堆積の様相を呈する。

**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが不掲載とした。

#### GE56-03土坑(第13・15図、写真図版7)

**検出状況** 14層の掘り下げ中に検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

**壁・底面** IV b～V a層中を底面とする。底面はやや北側に傾く。壁は外傾しながら立ち上がる。

**堆積土** 3層に分層した。1層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、土器片や微量の炭化物を含む。2層は1層より黄褐色土ブロックが多量に混入する。3層は暗褐色土と褐色土の混土を主体とし、炭化物が極

少量混入する。

**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが、不掲載とした。

**GE56-04土坑**（第13・15図、写真図版7）

**検出状況** 14層中において剥片・チップを含む黒褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 直径55cmの円形を呈すると考えられる。

**壁・底面** 壁は外傾しながら立ち上がる。IV b～V a層中を底面とし、ほぼ平坦である。

**堆積土** 2層に分層した。1層は黒褐色土を主体とし、剥片・チップを多量に含む。2層は暗褐色土と褐色土の混土である。

**出土遺物** なし

**GE56-05土坑**（第13・15図、写真図版8）

**検出状況** 11～13層の掘り下げ中に炭化種実を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 102×96cmの楕円形を呈すると考えられる。

**壁・底面** 壁は外傾しながら立ち上がる。IV b層中を底面とする。底面は播鉢状を呈する。

**堆積土** 2層に分層した。人為堆積と考えられる。1層は暗褐色土を主体とし、炭化種実や炭化材のほか、土器片や剥片・チップなどを含む。2層は黒褐～暗褐色土を主体とし、炭化種実を多量に含む。

**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが、不掲載とした。

**GE56-06土坑**（第15図、写真図版7）

**検出状況** 13～14層の掘り下げ中にC-C'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

**壁・底面** 土層断面では外傾しながら立ち上がる。底面は掘りきっていない。

**堆積土** 暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。

**出土遺物** なし

**GF56-01土坑**（第13・15図、写真図版7）

**検出状況** Ⅲ層中において暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** なし

**平面形・規模** 不明

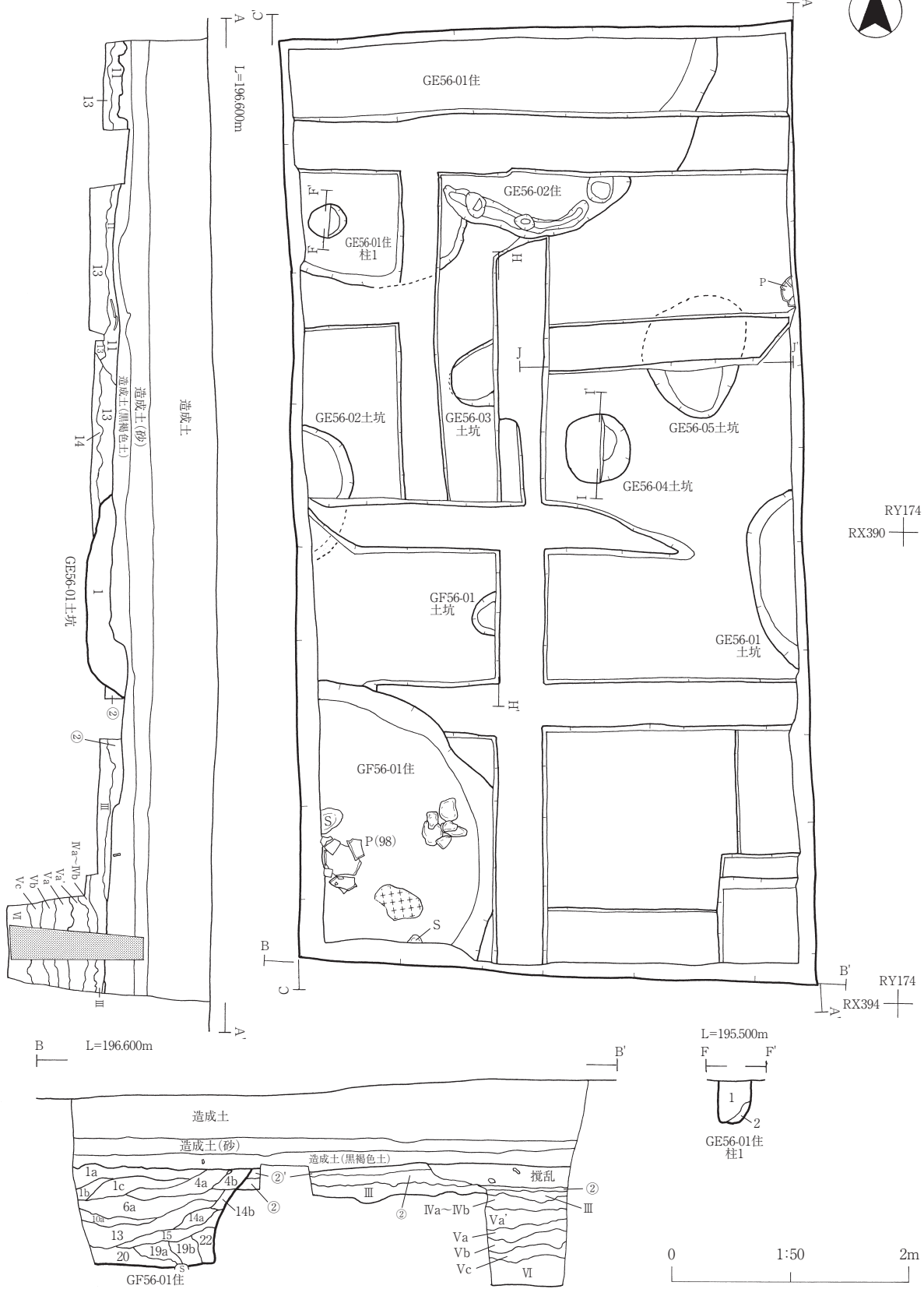
**壁・底面** IV b層中を底面とする。壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**堆積土** 2層に分層した。1層は暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。2層は暗褐色土と褐色土の混土である。

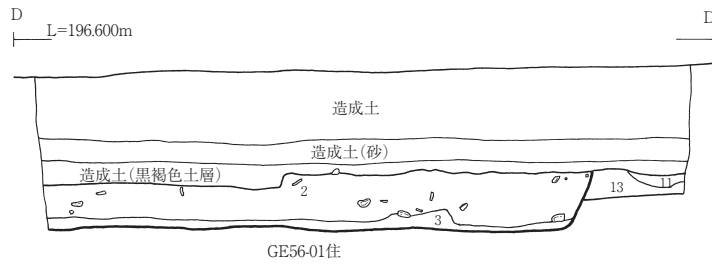
**出土遺物** 縄文土器が少量出土したが小片のため、不掲載とした。

RX385 — RY168

RX385 — RY174



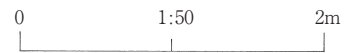
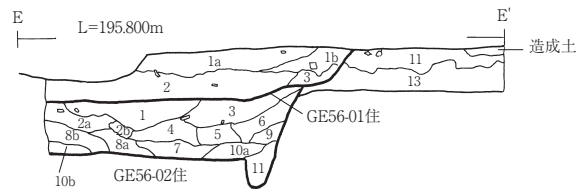
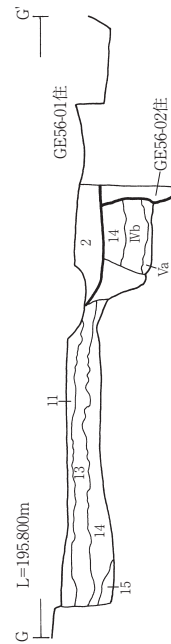
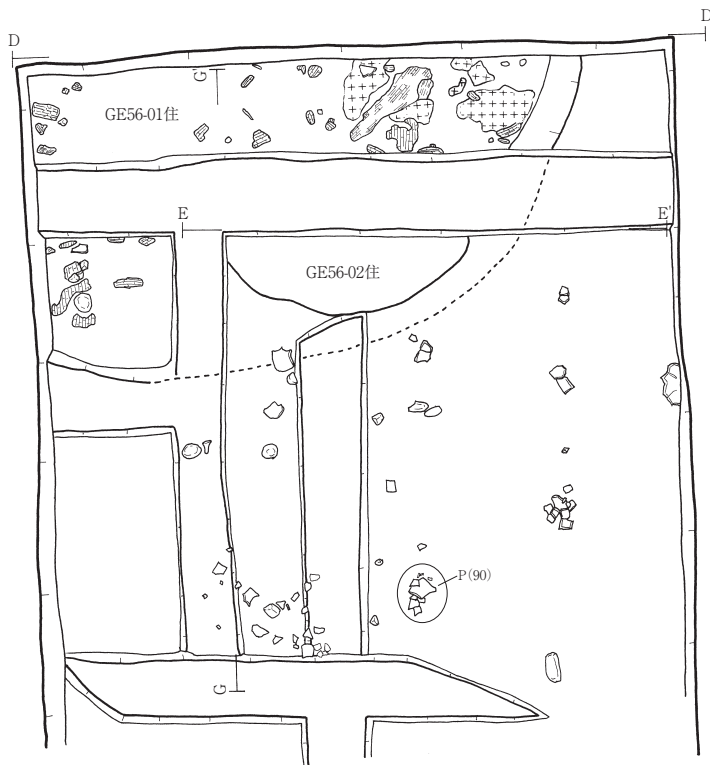
第13図 IV区東トレンチ (1)



RX385  
RY169

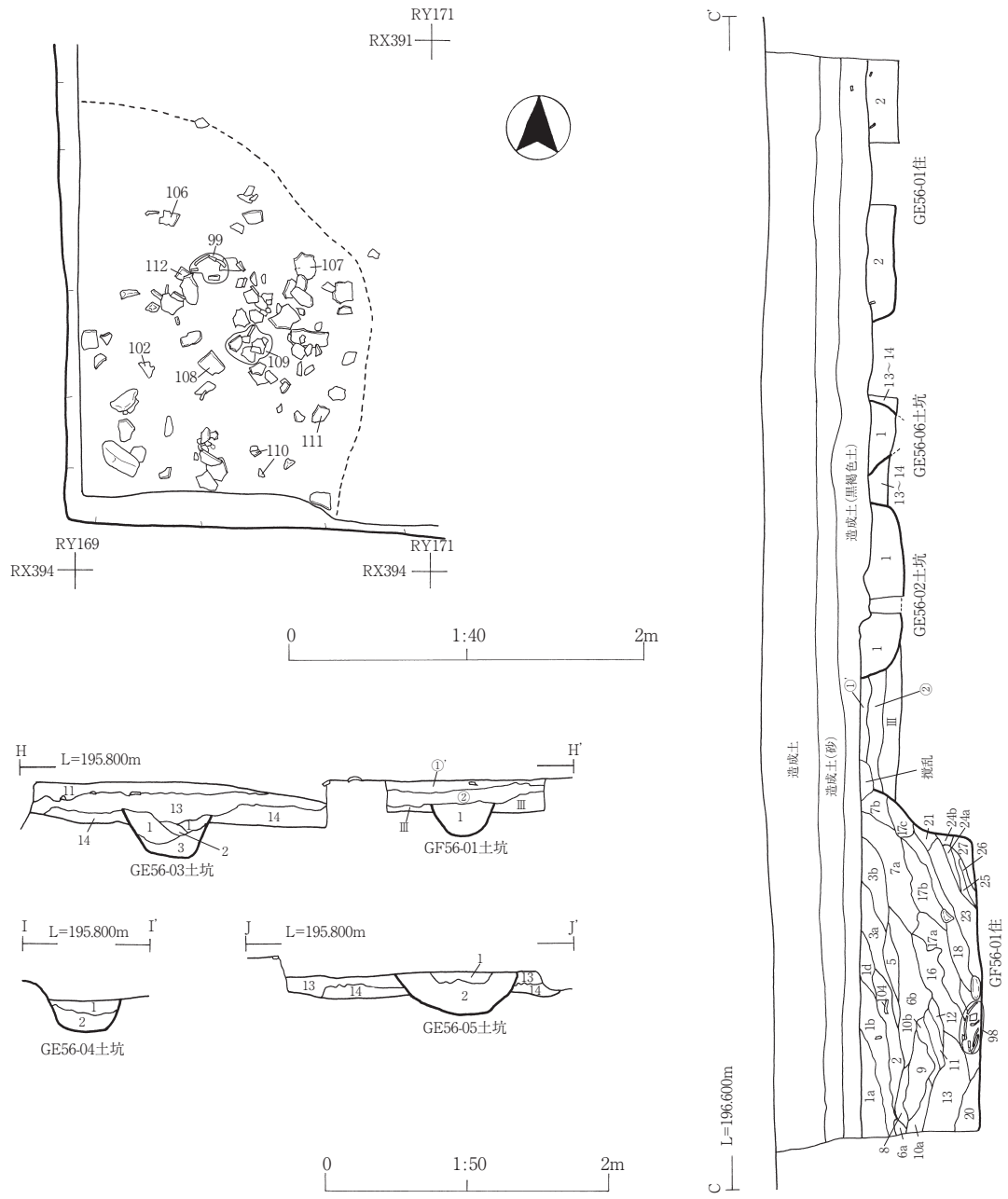
GE56グリッド遺物出土状況

RX385  
RY173



第14図 IV区東トレンチ (2)

GF56-01住 1~3層 遺物出土状況



第15図 IV区東トレンチ (3)



#### GE56グリッド出土遺物について（第14図）

**概要** IV区東トレンチ北側のGE56グリッド（第14図E-E'・G-G'断面11～14層）からは第ⅡA群土器を主体とし、少量の第ⅡB・ⅢB群土器が出土した。

11層は暗褐色土を主体とし、褐色土ブロックや炭化物粒が少量混入する。土器片の大半はこの層から出土した。13層は黒褐色土を主体とし、粒状～ブロック状の暗褐色土や炭化物粒を少量混入する。剥片やチップが多く出土した。14層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、炭化物が少量混入する。なお、14層は下げきっていない。

遺物の取り上げの際は、GE56グリッド西側を「GE56 Q 3」、東側を「GE56 Q 4」として、出土地点を分けた。**出土遺物** 土器は8点（第30図90～97）を掲載した。石器は22点出土した。石鏃6点（表No.18・19・49～51・62）、石鏃未製品6点（表No.125～130）、両面加工石器3点（表No.159～160）、スクレイパー1点（表No.180）、使用痕ある剥片2点（表No.234・243）、敲磨器類4点（表No.267・280・288・289）である。このほか、剥片・チップも多量に出土している。

#### 4. IV区西トレンチ1

**調査概要** IV区西トレンチ1は、FE38・FF38グリッド付近に位置し、調査面積は29㎡である。

先にも述べたが、このトレンチでは①層に相当する黄褐色土ブロックを確認するとともに、竪穴住居跡を検出し、精査を行った。また、FE38グリッド、FF38グリッドにおいて多量の遺物が出土した。

検出した遺構は竪穴住居跡2棟、柱穴1個である。

#### FE38-01竪穴住居跡（第16・17図、写真図版8・9）

**検出状況** I層を掘り下げた後、遺物を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。

**重複関係** FE38-02竪穴住居跡を切る。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** 西側では外傾しながら壁が立ち上がることを確認したが、南側では壁の立ち上がりを捉えることができなかった。床はほぼ平坦で貼床（5層）が認められた。

**堆積土** 5層に分層した。1層は暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、縄文土器片や円礫、炭化物粒などの遺物を多く含む。2層は黒褐色土を主体とし、剥片・チップや炭化物粒を多量に含む。3層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。4層は現地性の明赤褐色焼土である。

**出土遺物** 1～3層から第ⅢB・Ⅳ群土器が出土し、このうち5点（第32図114～118）を掲載した。第31図114は床直から出土した。石器は、石鏃未製品2点（表No.134・135）、二次加工ある剥片1点（表No.210）が出土した。

#### FE38-02竪穴住居跡（第16・17図、写真図版8・9）

**検出状況** B-B'断面およびサブトレンチ内の精査中において確認した。

**重複関係** FE38-01竪穴住居跡に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床面** B-B'断面においては外傾しながら立ち上がる。床面は凹凸が認められる。V層中を床面とするが、黄褐色土をそのまま床としているのではなく、炭化物を少量含む黒褐色土を貼床しており、固く締まる。

**堆積土** 8層に分層した。1～7層は人為堆積と考えられる。1層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。2層は明黄褐色土で固く締まる。3層は黒褐色土と褐色土と黄褐色土の混土、4層は

暗褐色土、5層は黄褐色土と黒褐色土の混土を主体とし、それぞれ炭化物粒が少量混入する。6層は明黄褐色土と浅黄橙色土の混土で固く締まる。7層は黒褐色土を主体とし、粒状～ブロック状の黄褐色土が中量、炭化物粒や焼土が少量混入する。

**出土遺物** 各層とも出土遺物は少ない。5・6層から出土した3点（第32図119～121）を掲載した。また石鏃1点（第37図14）を掲載した。このほか6層上面において炭化材が出土したことが特筆されよう。

#### 柱穴1（第16図、写真図版8）

**検出状況** FE38-01 竪穴住居跡の精査中に検出した。

**規模** 開口部は46×32cmを測る。検出面からの深さは48cmを測る。

**重複関係** なし

**堆積土** 黒褐色土を主体とし、混入物の違いによって2層に分層した。2層は粉～ブロック状の黄褐色土が中量混入する。

**出土遺物** 外反する無文の口縁部片（第32図12）を掲載した。このほか石鏃1点（表No23）が出土した。

#### FE38グリッド出土遺物について（第16・17図、写真図版9）

**概要** FE38⑱・㉔付近（第16図B-B' 断面11～15層）からは縄文土器、石器、剥片・チップ、炭化物、骨片など多量の遺物が出土した。竪穴住居跡などの遺構の可能性も考えられるが、今回の調査では明確な立ち上がりを確認することはできなかった。

11層は遺物を多量に含む層である。暗褐色土を主体とし、炭化物を中量、骨片や焼土粒を少量混入する。この層からは第ⅢA・B群土器が多量に出土した。大形の破片も含まれていたが、完形品は出土しなかった。このうち15点（第33図131～140、第34図141～145）を掲載した。

12層は骨片や炭化物を多量に含む橙色焼土層である。焼土は現地性のものではなく、骨片や炭化物と混在する様相であった。骨片にはシカやイノシシに同定されたものが含まれる。13層は黒褐色土を主体とし、炭化物を多く含む。

14・15層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が混入する。14層は炭化材（φ～1cm）を中量、骨片や焼土粒を少量混入する。15層は14層より炭化材がやや多く混入する。

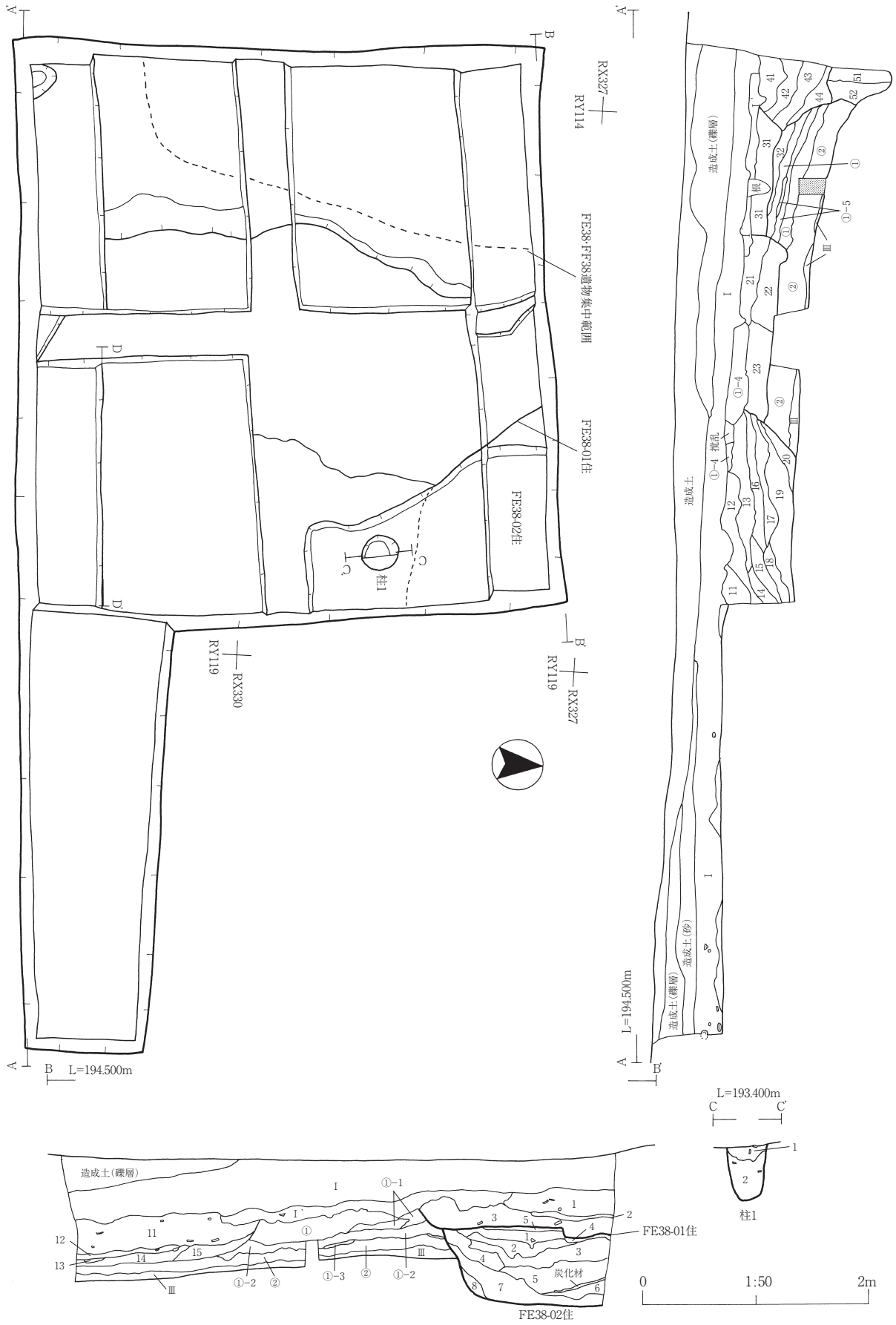
石器は22点出土した。石鏃5点（表No21・22・24・52・84）、石鏃未製品3点（表No132・133・136）、二次加工ある剥片3点（表No206～208）、使用痕ある剥片1点（表No235）、楔形石器1点（表No244）、敲磨器類8点（表No268～270・281・282・291～293）、台石1点（表No302）である。

#### FF38グリッド出土遺物について（第17図、写真図版9）

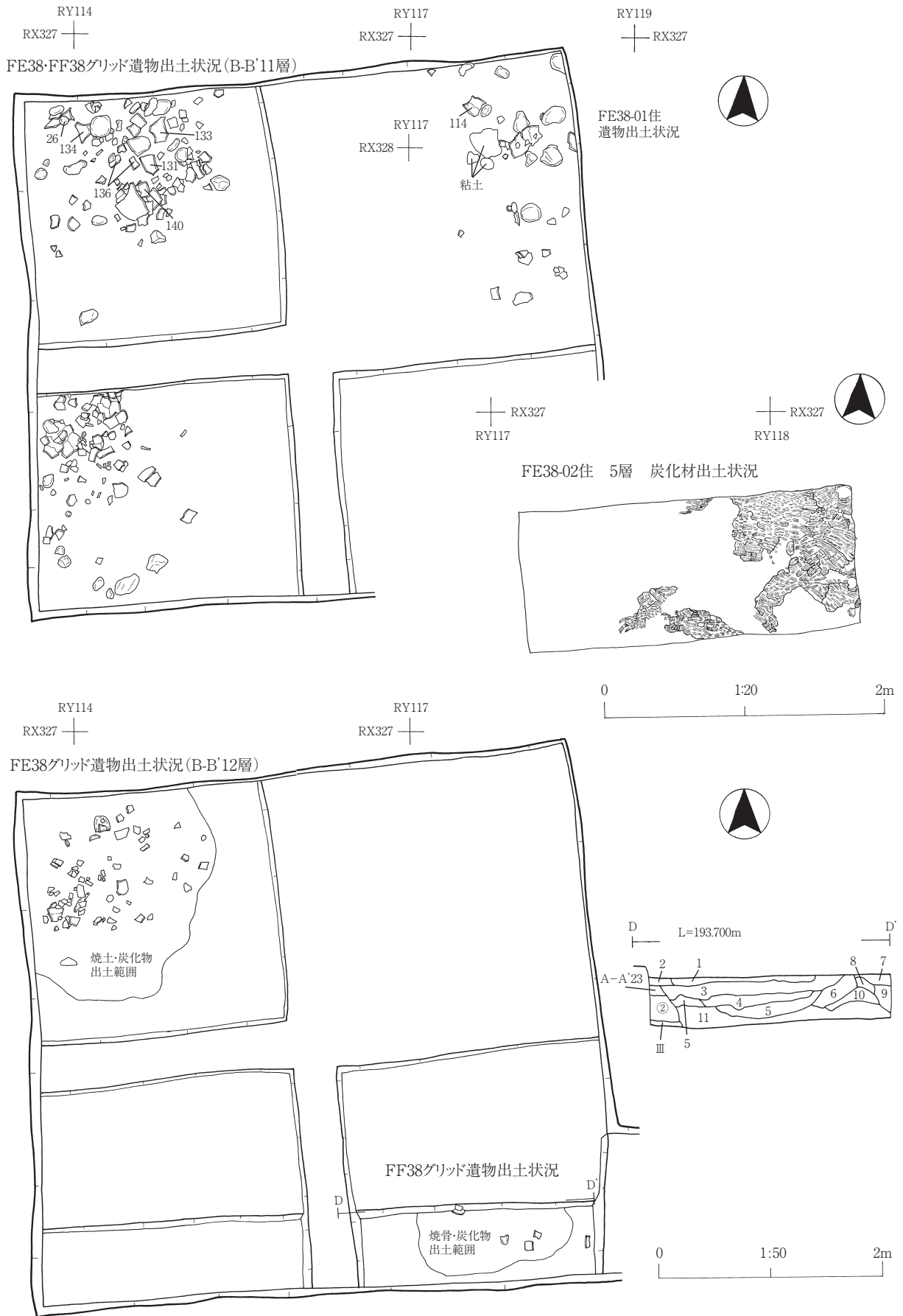
**概要** FF38⑩・⑪付近では、サブトレンチの精査中に多量の骨片・炭化種実が出土した。出土した骨片のなかには、シカの袋角と同定されたものがあり注目される。これらは第17図D-D' 断面（1～11層）の4層に相当すると考えられる。

1層は黒褐色土を主体とし、粒状～小ブロック状の黄褐色土を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量混入する。2層は褐色土と黄褐色土の混土である。3層は暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。4層は骨片や炭化物が多量に出土した層であり、黒褐色土を主体とする。焼土は認められなかった。5～11層は黒褐～暗褐色土を主体とする。色調や混入物の違いにより分層した。

これらの土層は人為堆積と考えられ、遺構堆積土の可能性も考えられるが、今回の調査では判然としなかった。



第16図 IV区西トレンチ(1)



第17図 IV区西トレンチ1 (2)

## 5. IV区西トレンチ2

**調査概要** (第18図、写真図版10)

IV区西トレンチ2は、FD34・FD36・FE34・FE36グリッドに位置し、調査面積は23㎡を測る。

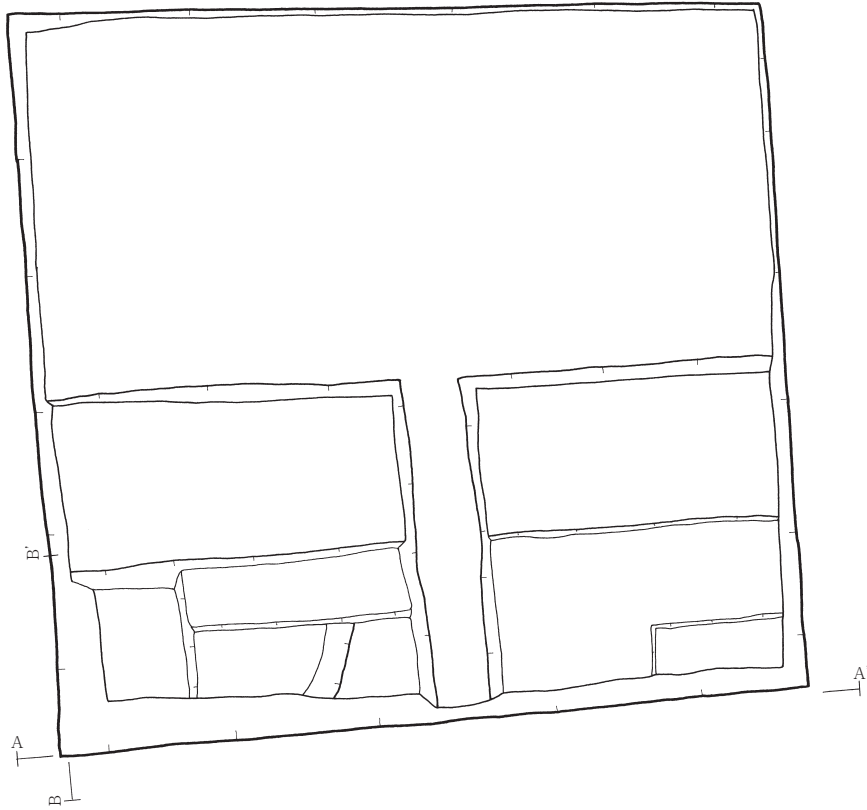
先にも述べたが、最初にトレンチ全面においてII b層中まで掘り下げを行った。その後、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、さらに精査を行った。

**堆積土** トレンチ南壁A-A'断面において、I・II層(II a～II e層に細分)の下位において、黒褐色～暗褐色土を主体とし、縄文土器や石器、剥片・チップ類、炭化物粒や焼土粒、骨片などを含む土層を確認し、1～5層に分層した。A-A'断面東端では、2層下位において、IV区西トレンチ1で確認した②層に類似する黒褐色土層を確認し、さらにその下位ではIII層を確認できた。ただし、IV区西トレンチ1で確認した①層は確認できなかった。A-A'西側で確認した5層は、IV a～IV b層中にはほぼ平坦な面が認められ、サブトレンチ内においてわずかだが立ち上がりも確認できたことから、遺構の可能性が考えられる。A-A'西端では、基本土層をIV a～IV b層以下、VI層まで確認した。

**出土遺物** 1～5層からは第III A・III B群土器が出土した。このうち15点(第35図156～169)を掲載した。石器は4点出土した。石鏃2点(表No27・28)、石鏃未製品1点(表No148)、スクレイパー1点(表No183)である。II a～d層からは、第III A・B群土器のほか第IV・V群土器や後期初頭の土器も出土した。また、円盤状土製品8点(第36図5～12)、ミニチュア土器2点(第36図15・16)、石器6点が出土した。

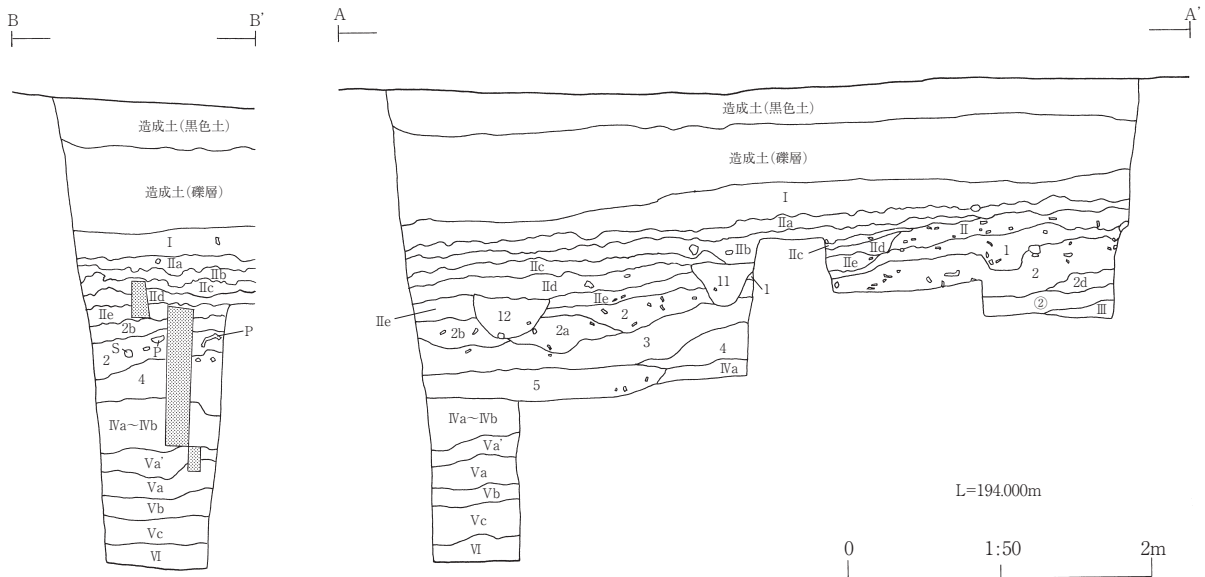
RX322 RY104

RX322 RY110



RX328 RY104

RX328 RY110



第18図 IV区西トレンチ 2

## 6. 配石トレンチ

**調査概要** 配石トレンチはFG50・FG52・FH50・FH52グリッドに位置し、調査面積は27㎡である。

平成元年度調査において検出されたFG52配石を再掘し、確認面の土層の確認を行い、竪穴住居跡などの遺構検出を試みた。いくつかの不整形の黒色土の広がり確認できたが、この面においては、明確な遺構プランを検出することはできなかった。そこで、トレンチ南側において、FG52配石を確認した面から5～10cm掘り下げ、再度遺構検出を行い、竪穴住居跡や柱穴と考えられるプランを検出した。さらに、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、検出した遺構の層位的な関係を把握するために掘り下げを行った。

検出・精査した遺構は、配石遺構1基、竪穴住居跡2棟、柱穴10個である。柱穴の精査状況、規模や重複関係などは第2表の通りである。なお、検出のみ行った遺構には1～18の仮遺構Noを付した。

### FG52配石（第19図、写真図版11）

**検出状況** FG52配石は平成元年度調査において検出されている。配石周辺のグリッドでは平成2年度調査において、長径5～30cmの礫が散漫して出土した状況が確認されている。今回の調査ではこの調査面まで再び掘り下げ、確認を行った。

**確認面の土層** 黒褐色土を主体とし、土器片や礫、炭化物粒や焼土粒などが混入する（第19図A-A' 3層）。

**重複関係** 不明

**形状** 2m×1.4mの楕円形範囲に、長径80cm、厚さ25cmの巨礫（花崗岩）の周囲に20～40cmの礫が集中する。

使用礫の石質は、以前の調査において、花崗岩の他、安山岩やチャートが含まれていることが確認されている。下部構造は不明である。

**出土遺物** 確認面において出土した土器は10cm以下の破片で、地文のみのものが多かった。第ⅢB群土器の破片も見受けられたが、時期がわかる資料は少なかった。

### FH50-01竪穴住居跡（第19図、写真図版11）

**検出状況** FG52配石の確認面から10cmほど掘り下げ、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

**重複関係** FH50-02竪穴住居跡を切る。また、柱穴1に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** 外傾しながら立ち上がる。Vb層中を床面とし、平坦である。貼床が認められた。

**堆積土** 1～3層に分層した。1層は暗褐色土を主体とし、ブロック状の褐色土や黄褐色土が多量に混入する。炭化材や粒～ブロック状の焼土も中量混入する。2層は焼土が多量に混入する。3層は黒褐色土を主体とし、1層より炭化材の混入が多い。また、壁際には黄褐色土ブロックの混入が多い。

**出土遺物** 第ⅢB、Ⅳ群土器が出土したが、小破片のものが大半である。

### FH50-02竪穴住居跡（第19図、写真図版11）

**検出状況** FH50-01竪穴住居跡の精査中に、土層断面において重複関係とともに確認した。

**重複関係** FH50-01に切られる。また、柱穴7を切る。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** 土層断面では、ほぼ直立して立ち上がった後、上部では外傾しながら立ち上がる。Vb層中を床面とし、ほぼ平坦である。

**堆積土** 暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックの混入により2層に分層した。2層は黄褐色土ブロックを多

量に混入する（壁の崩壊土か）。

**出土遺物** なし

#### 柱穴 1～10（第19図、写真図版11、第2表）

10個の柱穴を検出した。精査の状況、規模や重複関係などは第2表の通りである。

柱穴10の堆積土は暗褐色～黄褐色土を主体とする。色調や混入物の違いによって5層に分層した。柱穴内からは20cmの礫が10個ほど出土したことが特筆されよう。人為的な埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

### 7. 配石南トレンチ

**調査概要** 配石南トレンチは、FH48トレンチの東側、IV区と配石トレンチの間の緩斜面に設定し、FH50・FI50グリッドに位置する。また、この場所は平成元～4年度調査の土層観察用ベルトにあたる。調査面積は5㎡である。

トレンチの南側ではII c層下位において、約5～20cmの礫や土器片などが出土した。これらが出土した層位は、IV区FH46トレンチに位置するFI46配石の層位に相当すると考えられる。なお、平成2年度調査において遺跡中央部の配石遺構が検出されており、配石南トレンチに隣接するFH50・FI50グリッドにおいても礫の広がり確認されている。

トレンチ南側では、II c層の下位に暗褐色土を主体とする土層（第20図A-A'断面1～4層、写真図版11）を確認した。黄褐色土ブロック、炭化物粒や焼土粒などの混入物の違いから4層に分層した。1層からは第II A・III A・III B・IV群土器、2～4層からは第III B・IV群土器が出土した。いずれも5～10cmほどの破片で、地文のみのものが多かった。これらの土層の様相は、IV区やIV区西トレンチ1で検出した竪穴住居跡の堆積土に類似しているが、立ち上がりや周溝などの床面施設をとらえることはできず、判然としなかった。

トレンチ北側では、黄褐色土を主体とする土層（第20図A-A'断面11～15層、写真図版11）を確認した。14層から剥片が1点出土したのみで、このほかの出土遺物はなかった。

配石南トレンチで検出した遺構は、土坑3基、柱穴30個以上である。このうち、柱穴は断面にかかる22個を精査し、残りは検出のみにとどめた。柱穴の精査状況、規模や重複関係などは第3表の通りである。

#### FH50-01土坑（第20図）

**検出状況** 掘り下げ中にA-A'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

**重複関係** 土坑2・3、柱穴2・19を切る。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** 土層断面では外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

**堆積土** 黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒を極少量含む。

**出土遺物** なし

#### FH50-02土坑（第20図）

**検出状況** 掘り下げ中にA-A'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

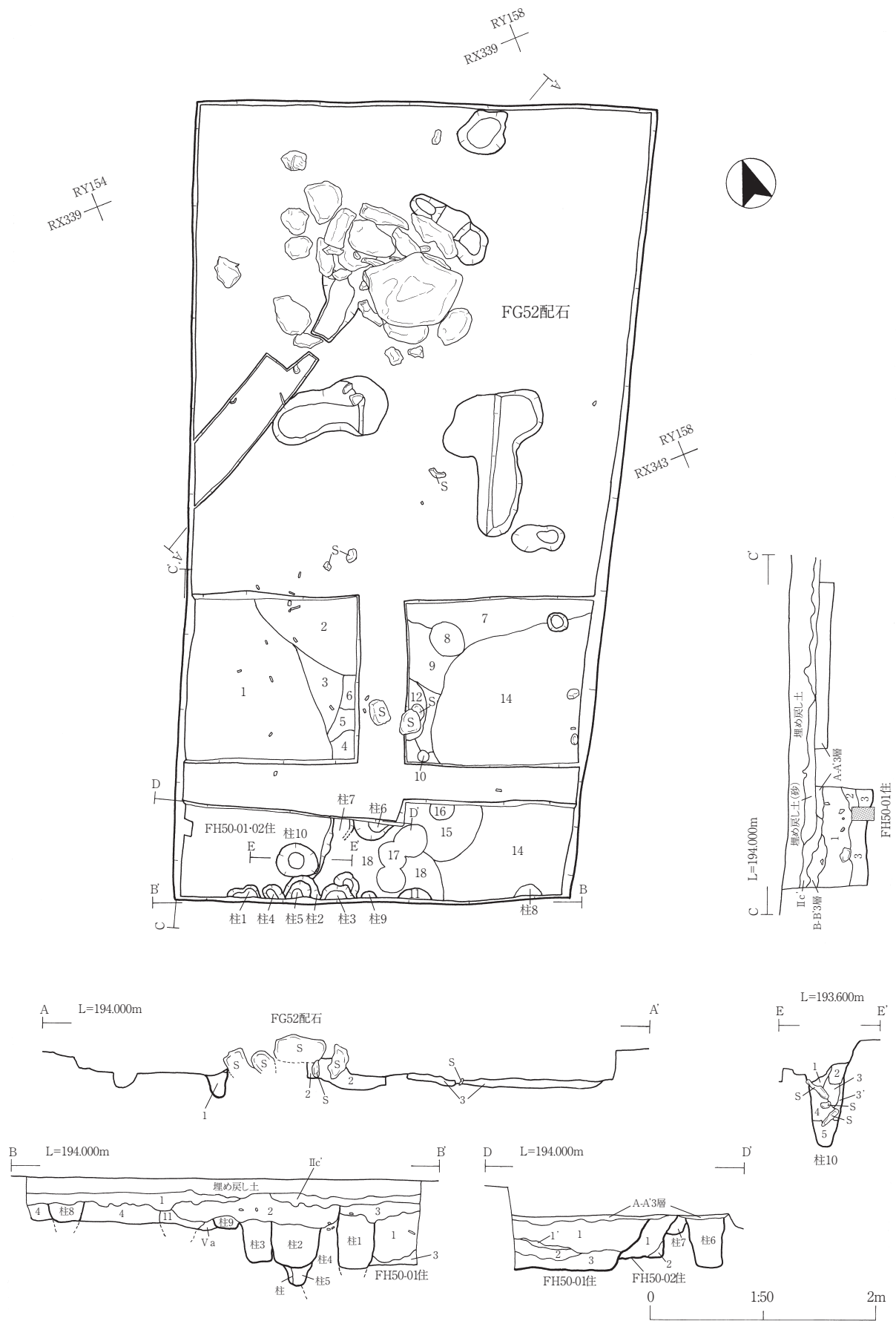
**重複関係** 柱穴8・9を切る。また、土坑1・3に切られる。 平面形・規模 不明

**壁・床** 土層断面では外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

**堆積土** 暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが中量、炭化物粒・焼土粒が少量混入する。

**出土遺物** なし





第19図 配石トレンチ

**FH50-03土坑**（第20図）

**検出状況** 土坑1・2の底面レベルまで掘り下げ、黄褐色土が混入する土層中において、焼土粒が混入する暗褐色土と黄褐色の広がりとして検出した。

**重複関係** 土坑2、柱穴8を切る。また、土坑1に切られる。

**平面形・規模** 不明

**壁・床** 外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

**堆積土** 暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、炭化物粒・焼土粒を少量混入する。また、下部では黄褐色土ブロックが多量に混入する。

**出土遺物** なし

**柱穴1～22**（第20図、写真図版11、第3表）

トレンチ南側では1～4層掘り下げ後のⅥ層中において、トレンチ北側では土坑1・2の底面レベルまで掘り下げ、黄褐色土が混入する土層中において、30個以上の柱穴を検出した。このうち、断面にかかる22個を精査し、残りは検出のみにとどめた。規模や重複関係などは第3表の通りである。

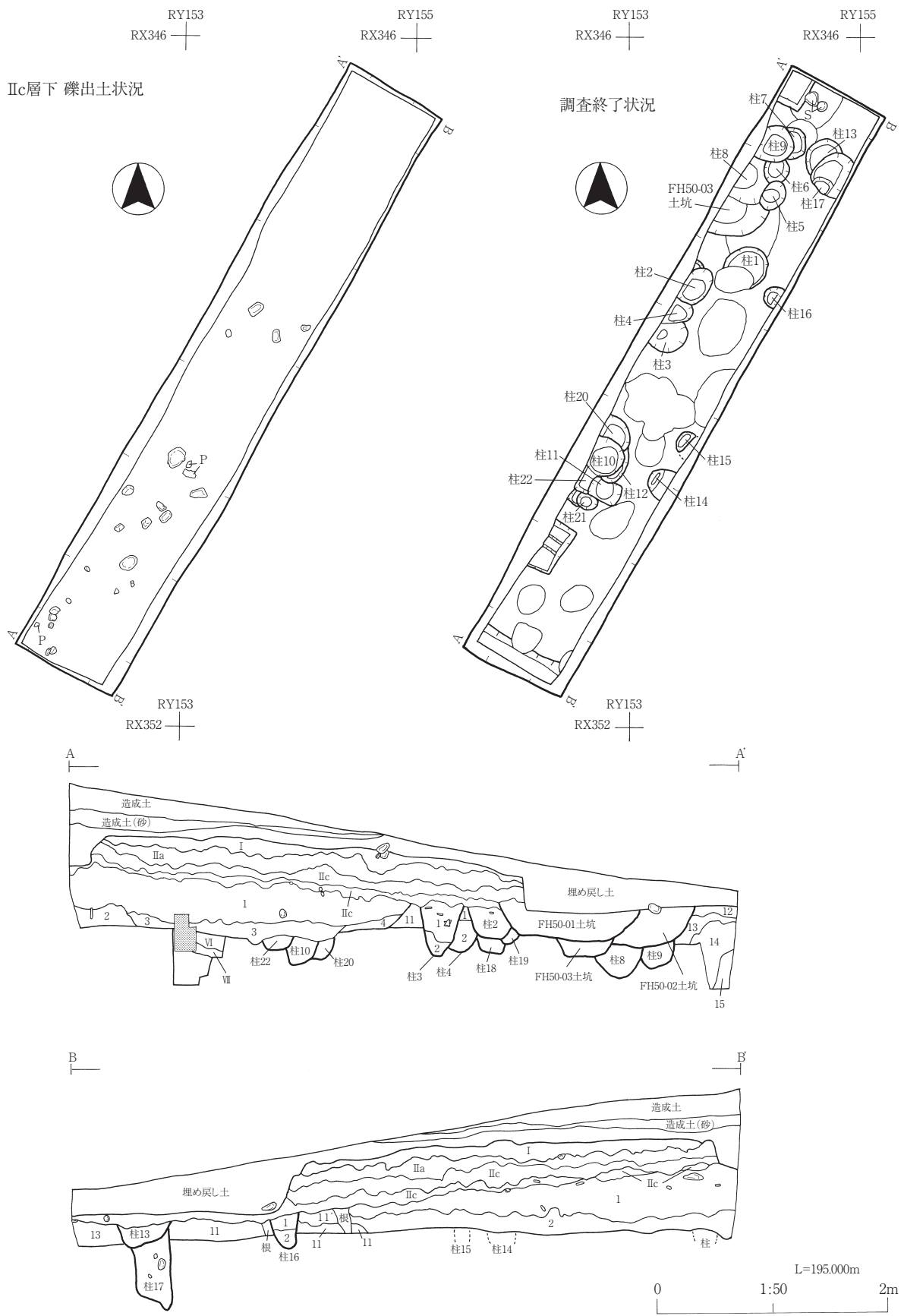
柱穴17の堆積土は、暗褐色土を主体とし、小ブロック～ブロック状の黄褐色土が多量に混入する。5cmほどで地文のみの土器片や剥片が少量出土したほか、焼成粘土塊が出土したことが特筆されよう。配石トレンチ柱穴10と同様に、人為的な埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

**第2表 配石トレンチ柱穴表**

遺構名	重複関係	開口部径 (cm)	底面標高 (m)	精査状況
柱穴1	>FH50-01住・柱4	—	—	断面で確認
柱穴2	>柱3・4・5	(35)×(19)	193.080	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴3	<柱2	(30)×(14)	193.140	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴4	<柱1・2・4	(18)×(13)	—	断面で確認。掘りきっていない。
柱穴5	<柱2、>柱4	(22)×(14)	—	断面で確認。掘りきっていない。
柱穴6	なし	(35)×(18)	193.115	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴7	<FH50-02住	—	193.405	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴8	不明	—	—	検出のみ
柱穴9	不明	—	—	検出のみ
柱穴10	>FH50-01住	36×30	192.520	完掘

**第3表 配石南トレンチ柱穴表**

遺構名	重複関係	開口部規模 (cm)	底面標高 (m)	備考	遺構名	重複関係	開口部規模 (cm)	底面標高 (m)	備考
柱穴1	<柱（検出のみ）	40×37	193.330		柱穴12	<柱10・20、>柱11	(38)×(7)	193.142	
柱穴2	>柱4・18・19	35×(21)	193.322		柱穴13	<柱17	36×(15)	193.357	
柱穴3	>柱4	(36)×(31)	193.382		柱穴14	なし	(27)×(16)	193.333	
柱穴4	<柱2・3	(20)×(26)	193.410		柱穴15	なし	(16)×(23)	193.525	
柱穴5	>柱6	28×23	193.330		柱穴16	なし	(14)×(20)	193.472	
柱穴6	<柱5・9	33×28	193.315		柱穴17	>柱13	(39)×(30)	192.942	
柱穴7	<柱9	29×25	193.410		柱穴18	<柱2・4・19	—	193.360	断面で確認
柱穴8	<土坑2・3、>柱9	(41)×(23)	193.187		柱穴19	<柱2、>柱18	—	193.450	断面で確認
柱穴9	<土坑2・柱8、>柱7	(34)×(29)	193.252		柱穴20	<柱10、>柱12	(27)×(21)	193.342	
柱穴10	<柱22、>柱12・20	(29)×(32)	193.273		柱穴21	<柱11・22	(17)×(14)	193.430	
柱穴11	<柱12、>柱21・22	28×19	193.317		柱穴22	<柱10・11・12、>柱21	(24)×(9)	193.400	



第20図 配石南トレンチ

## 8. 縄文の森

### 調査概要

今回の発掘調査では、時期不明の土坑2基、古代の土坑1基を検出した。出土遺物は、縄文土器と弥生土器が少量である。1～8までトレンチ（第4図）を設定したが、5、6トレンチは沢部分にトレンチを設定したため水が湧き等高線が測れない状態となった。また、6トレンチは沢を横断するようにトレンチを設定したため、断面の計測途中で崩落し、トレンチの一部が埋まり計測不能となった部分がある。

調査トレンチの層序は、植物や樹木の根、枯死した植物などによる攪乱が著しいことや斜面に立地していることなどの条件により、台地上の基本層序との対比が困難な状況にあることから、縄文の森に関しては別とした。1～3トレンチの層序では、3層暗褐色土とその下位層の褐色土の境が明瞭であることから、ある時期に褐色土まで浸食ないし人為的に削平されたものと考えられる。7・8トレンチの層序は1・2層までは1～3トレンチと基本的には同様の堆積層をなすが、3層に砂礫が混入している。当然その下位層には砂礫が多く混入している。御所野縄文博物館建設に伴い実施されたボーリング調査資料によると、山地斜面にはこのような砂礫層が堆積していることが確認されている。

#### 1 トレンチ（第21図・写真図版12）

標高 236.9m～238.2m      面積 105㎡

層序 1層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。2a層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。2b層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰をブロック状に含む。2d層黒褐色土ににぶい黄褐色土をブロック状に含む。3層暗褐色土と褐色土の混土。2・3層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は1・2層から出土している。

出土遺物（第40図1～6・24） 1は円筒上層b式土器である。縄文を爪形文のように圧痕した文様で、その下部には粘土紐の貼付けが剥がれた痕が残る。5は弥生土器で外面と内面に撚糸文が施文されている。6は指の圧痕が残る弥生土器である。24は1層上面で採取した磨石である。

#### 土坑1

位置 トレンチ南西端      検出面 褐色土      平面形 楕円形

規模 開口部110cm×（80cm）

層序 1層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰の混土。2層黒色土と暗褐色土の混土で1層の火山灰をブロック状に少量含む。3層黒褐色土と褐色土の混土。

出土遺物 なし

#### 2 トレンチ（第22図・写真図版12）

標高 238.5m～239m      面積 38㎡

層序 1層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。2a層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。2b層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰をブロック状に含む。2c層黒色土、3層暗褐色土と褐色土の混土。2・3層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は1・2層から出土している。

出土遺物（第40図7～9） 7・9は表と裏が赤く焼けている縄文土器である。強い火をうけたためと考えられる。ほかに弥生土器の小片4点が出土している。

#### 3 トレンチ（第22図・写真図版12）

標高 237.6m～239.0m      面積 58㎡

**層序** 1層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。2a層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。2b層暗褐色土ににぶい黄褐色火山灰をブロック状に含む。2c層黒色土。2d層黒褐色土。3層暗褐色土と褐色土の混土。2・3層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は1・2層から出土している。

**出土遺物**（第40図10～12） 10は沈線による区画文が描かれている。11は深鉢の口縁部で貼り付けと沈線の渦巻文が施されているが、口縁部の器形と文様から大木9式土器と考えられる。12は弥生土器の底部で、他にも弥生土器が出土している。

#### 土坑1

**位置** トレンチ南端 **検出面** 褐色土 **平面形** 不定形

**重複関係** 土坑2を切っている。

**規模** 開口部径236cm×222cm 底部径150cm×120cm 検出面からの深さ30cm

**堆積土** 1層黒褐色土。2層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。3層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。4層黒褐色土。5層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。6層暗褐色土とにぶい褐色土がブロック状に混土。7層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。8層褐色土。

**出土遺物** なし

#### 土坑2

**位置** トレンチ南端 **検出面** 褐色土 **平面形** 円形

**重複関係** 土坑1に切られる。

**規模** 開口部径210cm×（140cm） 底部径180cm×（120cm） 検出面からの深さ30cm

**堆積土** 1層黒褐色土。2層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。3層暗褐色土とにぶい褐色土がブロック状に混土。4層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。

**出土遺物** なし

#### 4 トレンチ（第23図・写真図版12）

**標高** 222.6m～226.6m **面積** 8㎡

**層序** 上位から黒褐色土、黒色土、にぶい黄褐色火山灰を含む黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土で、さらその下層はにぶい黄褐色土となる。

**出土遺物**（第40図13） 縄文土器の小片1点が出土している。

#### 5 トレンチ（第23図・写真図版12）

**標高** 226m～223m **面積** 20㎡

**層序** 上位から黒褐色土、黒色土、にぶい黄褐色火山灰を含む黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土、砂質の暗褐色土、暗褐色土と黒褐色土の混土となる。

**出土遺物**（第39図14） 縄文土器の小片1点が出土している。

#### 6 トレンチ（第24図・写真図版13）

**標高** 220.5m **面積** 17㎡

**層序** 上位から黒褐色土、黒色土、黒褐色土、黒褐色土ににぶい黄褐色火山灰を少量含む、黒褐色土とにぶい黄褐色火山灰の混土、黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土、暗褐色土と黒褐色土の混土、下層は暗褐色土と褐色土の混土となる。トレンチ中央付近の断面の2か所に層のずれが見られる。

**出土遺物**（第40図15～19・23・25・26） 15は深鉢の胴部片で中期中葉から後葉のものと考えられる。18・19は弥生土器で18は撚糸文（単軸絡条体第1類）が施文された土器の小片、19は底部片である。ほかにも撚糸文が施文された土器の小片3点が出土している。上面から90cm下の砂質の暗褐色土から同一個体の縄文土器が出土したが、小片のため接合できなかった。25は磨石で付着物がある。23は石匙、26は凹みと敲きが施された石器である。

#### 7 トレンチ（第24図・写真図版13）

**標高** 222m～226.6m      **面積** 15m<sup>2</sup>

**層序** 1層黒褐色土植物の根が多く入り込んでいる。2a層黒褐色土。2c層黒色土。2d層黒色土。2e層黒褐色土。2f層黒褐色土で太い樹木の根が入っている。3層暗褐色土と褐色土の混土に10mm以下の砂礫が少量混入する。

**出土遺物**（第40図20・21） 弥生土器3点が出土している。20は撚糸文（単軸絡条体第1類）が施文された土器で、いずれの土器も1層上面より出土している。

#### 8 トレンチ（第24図・写真図版13）

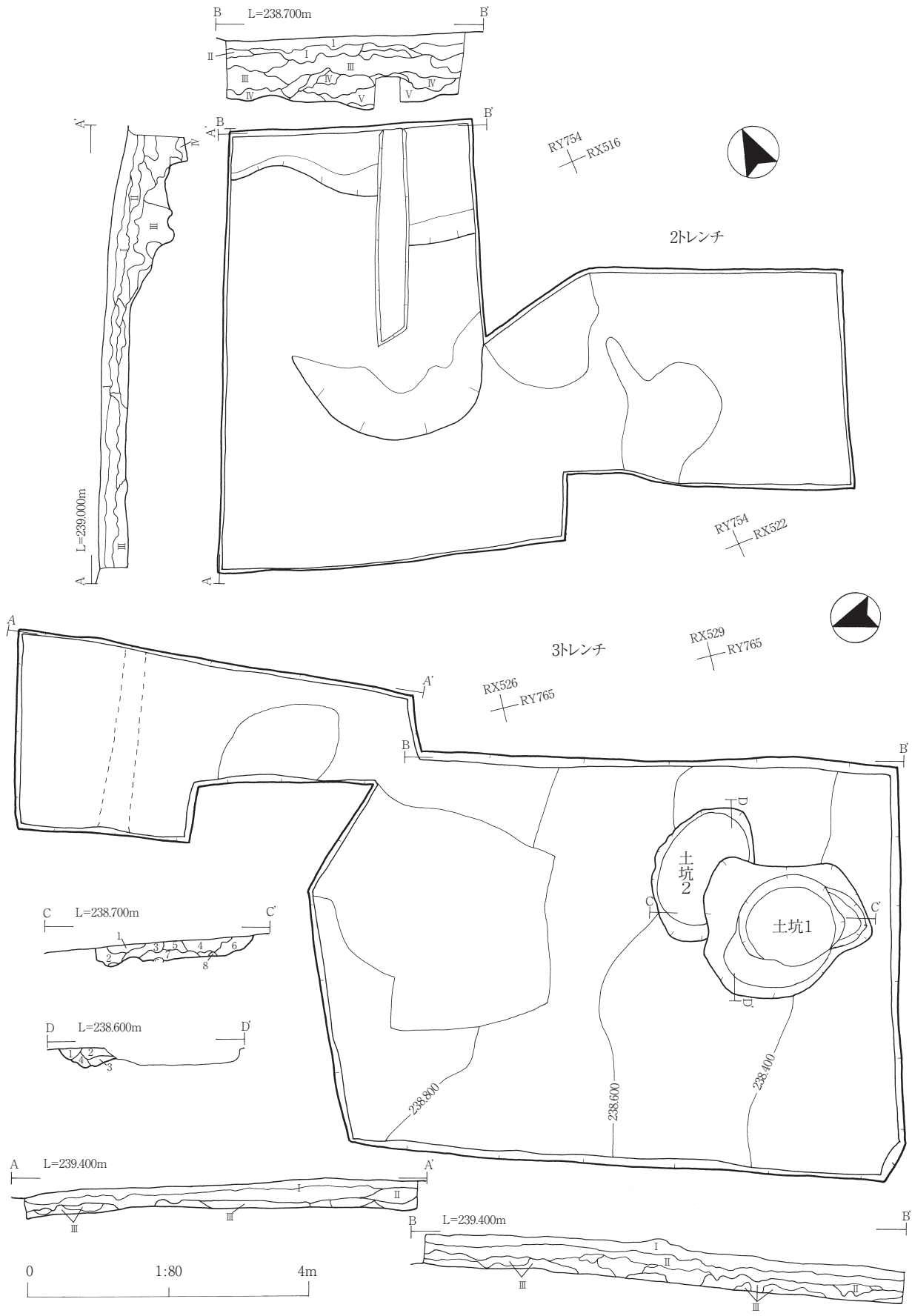
**標高** 224.8m～227m      **面積** 9m<sup>2</sup>

**層序** 1層黒褐色土上面に植物の根が多く入り込んでいる。2a層黒色土。2b層黒褐色土にオリーブ褐色火山灰がブロック状に多く混入。2c層黒色土。3層暗褐色土と褐色土の混土に10mm以下の砂礫が少量混入する。

**出土遺物**（第40図22） 撚糸文（単軸絡条体第1類）が施文された土器が出土している。

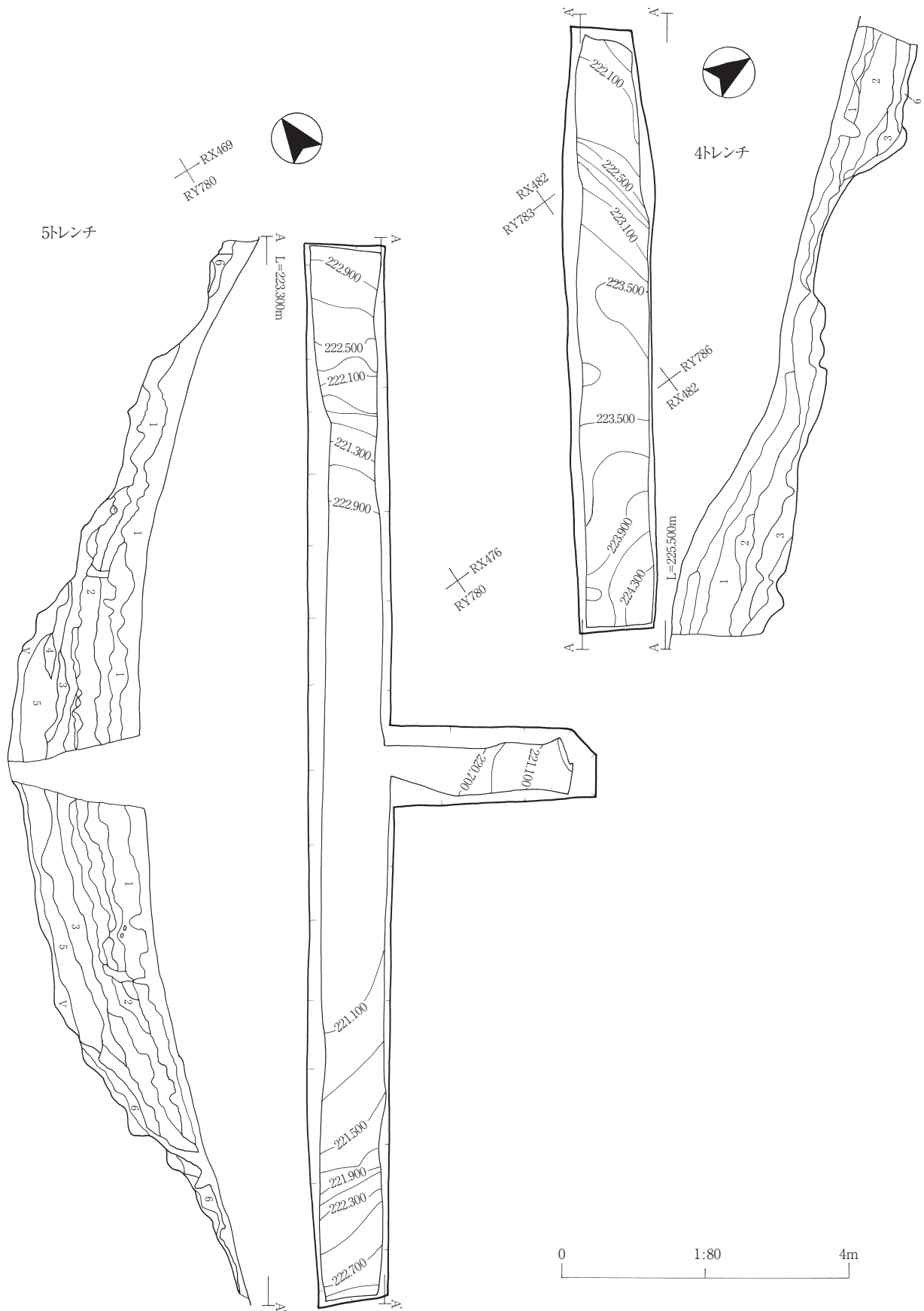


第21図 縄文の森 1 トレンチ

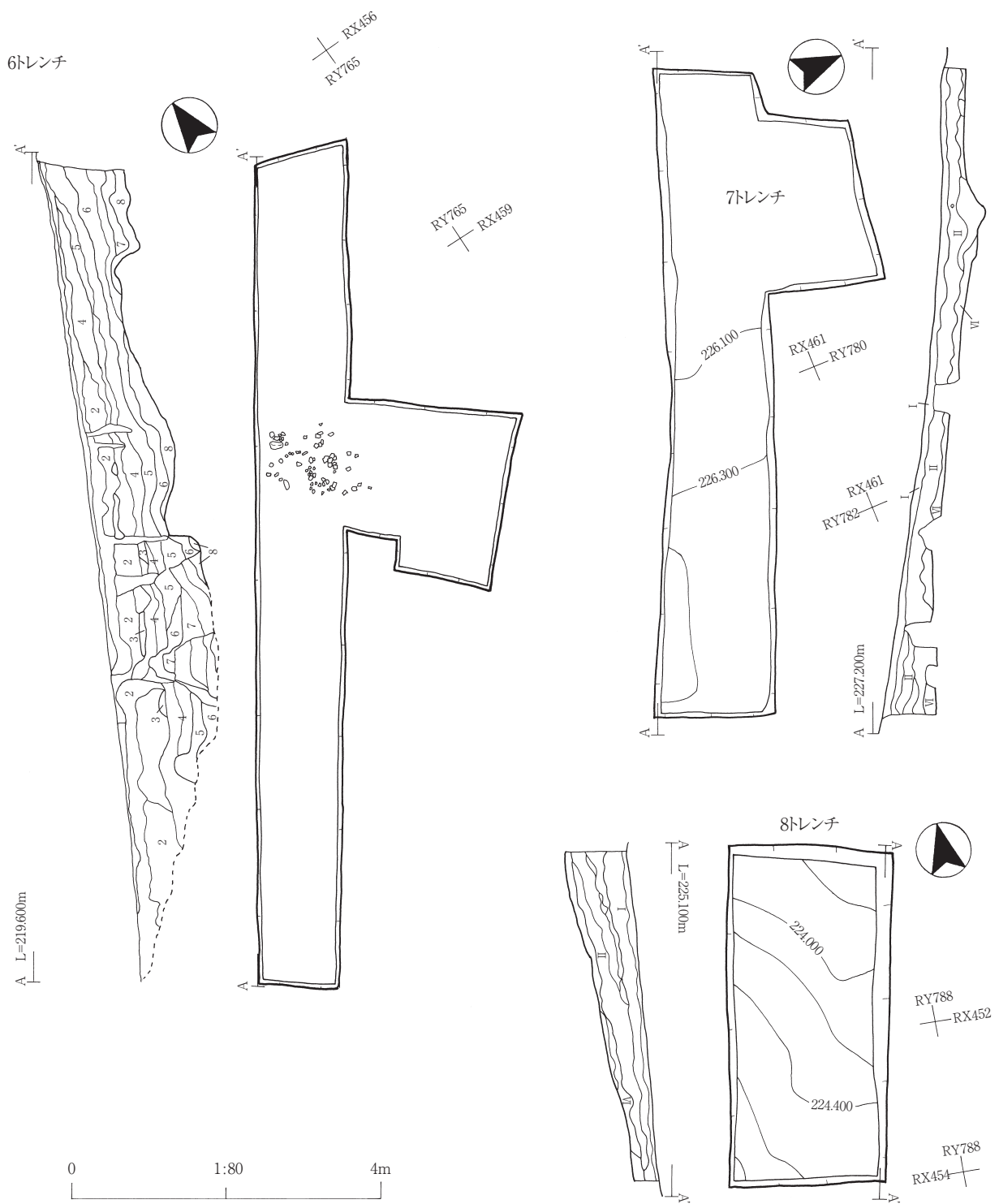


第22図 縄文の森 2・3 トレンチ





第23図 縄文の森4・5トレンチ



第24図 縄文の森6～8トレンチ

## 9 出土遺物

平成19・21～24年度の発掘調査で出土した遺物は、縄文土器・弥生土器、土製品、石器・石製品、剥片・チップ、動物遺存体、植物遺存体である。縄文土器は段ボール箱（42×29×23cm）換算約30箱、石器は約3箱、土製品22点、石製品1点が出土した。以下、平成21～24年度調査出土遺物を中心に、遺物の種別ごとに概要、出土状況、代表的な遺物について記述する。

### 縄文土器

縄文土器は竪穴住居跡の堆積土および遺構の確認面から出土したものが大半を占める。

全体の器形を窺える資料は非常に少なく、残存状態は良好ではない。小破片が大半を占め、完形、略完形のもののごくわずかである。また、時期別にみても、中期中葉～後葉のものが大半を占めるが、早期、前期、後期のものも少量出土している。縄文の森から出土した土器も中期のものが大半を占めている。

そのため、ここでは以下のように時期ごとに大別し、大局的な時期を示すこととした。このうち、出土土器の中で主体を占める中期に属するものについては、『御所野遺跡Ⅰ』において用いられた群別に分類し、細分した。以下、各土器の特徴について若干述べてたい。

(1) 縄文時代早期に属するもの

(2) 縄文時代前期に属するもの

(3) 縄文時代中期に属するもの

第Ⅰ群 円筒上層c式に位置づけられるもの

第ⅡA群 円筒上層d式、あるいはe式に位置づけられるもの

第ⅡB群 大木8a式に位置づけられるもの

第ⅢA群 榎林式に位置づけられるもの

第ⅢB群 大木8b式に位置づけられるもの

第Ⅳ群 大木9式、あるいは大木9式に併行すると位置づけられるもの

第Ⅴ群 大木10式に位置づけられるもの

第Ⅵ群 第Ⅱ～Ⅴ群の粗製土器

(4) 縄文時代後期に属するもの

(1) 縄文時代早期に属するもの

3点掲載した。第28図56・57は貝殻腹縁文が施文される。

(2) 縄文時代前期に属するもの

4点掲載した。第28図53と54は同一個体と考えられる。53は尖底土器の底部片で撚糸文（単軸絡条体第1類）が施文される。54は胴部片で撚糸文や綾絡文が施文される。これと類似する土器は、二戸市中曾根遺跡155号址出土土器に見られる（二戸市教委 1981）。第28図55はGA44トレンチⅢ層から出土した胴部片である。胎土に繊維を含み、綾絡文が施文される。第35図166はⅣ区西トレンチ2Ⅱ層から出土した胴部片である。胎土に繊維を含み、横位非結束羽状縄文が施文される。

(3) 縄文時代中期に属するもの

**第Ⅰ群 円筒上層c式に位置づけられるもの**

今回の調査では、第Ⅰ群に相当する土器は出土しなかった。

## 第Ⅱ A 群 円筒上層 d 式、あるいは e 式に位置づけられるもの

42・73・79・90・91・94・95・97・98・101～108・111・120～122・127～130・147が該当する。主にⅣ区東トレンチ GF56-01 堅穴住居跡や GE56 グリッドから出土している。

第31図103は GF56-01 堅穴住居跡 1 層から出土した台形状の突起をもつ口縁部片である。細い粘土紐によって文様が表現され、口唇部には刻みが施されている。地文には単節縄文が施文される。第31図98は 4 単位の山形状突起をもつ深鉢である。口唇部には刻みが施され、口唇～口縁部には細い粘土紐で波状の文様が表現されている。頸部～胴部の主文様は沈線によって表現されている。図示していないが、弧線文の末端が渦巻状を呈する箇所も見られる。第27図42は突起を有する深鉢の口縁～胴部である。口唇部に刻みが施され、沈線によって文様が表現される。

## 第Ⅱ B 群 大木 8 a 式に位置づけられるもの

第29図60・第31図112は、いずれもキャリパー形深鉢の口縁部片である。口縁部文様帯に隆線による波状文が施文される。

## 第Ⅲ A 群 榎林式に位置づけられるもの

5・8・26・31・33～35・40・45・63～65・67～69・71・75・80・87・109・115・124・133・134・138・141～143・145・156～160・163～169などが該当する。Ⅳ区やⅣ区東トレンチの堅穴住居跡（FJ46-02、FJ46-03、GE56-01 堅穴住居跡など）、Ⅳ区西トレンチ 1・2 から出土しており、今回調査したいずれのトレンチからも出土している。

第26図26は口縁部が外反する 2 単位の波状口縁の深鉢である。沈線による縦位や横位の区画文、渦巻文が描かれる。地文には単節縄文が施文される。また、補修孔が認められる。第35図167は平縁の小形深鉢である。口縁部に横位の沈線文が廻り、胴部の器面には沈線による渦巻文や円文、懸垂文が連結して描かれる。第35図156は 3 単位の波状口縁をもつ深鉢である。口縁部はわずかに外傾し、胴部はやや膨らむ器形と考えられる。波頂部には短い縦位沈線、その下には 3 条の縦位沈線文が施文される。これと連結して横位の波状文や弧線文、縦位の波状文が沈線によって描かれる。地文には単節縄文が縦位に施文される。この土器は八戸市西長根遺跡第10号住居跡 4～6 層出土土器（八戸市教委 1995）に類似すると考えられる。第33図133の裏面には付着物が認められたことが特筆されよう（写真図版15）。

## 第Ⅲ B 群 大木 8 b 式に位置づけられるもの

11・14・19・20・21・23・24・29・30・32・36・38・47・48・62・72・74・83・88・89・92・93・114・131・140・144・148などが該当する。主に FJ46-02 堅穴住居跡、GA44-01 堅穴住居跡、GE56-01 堅穴住居跡、Ⅳ区西トレンチ 1 FE38 グリッドなどから出土している。

第25図23は FJ46-02 堅穴住居跡 12 層から出土した深鉢である。波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される。底部からの立ち上がりはやや角張る。器面には隆沈線による有棘渦巻文や懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施文される。第25図20は FJ46-02 堅穴住居跡の床直から出土した波状の口縁部片である。隆沈線による渦巻文が描かれ、地文には撚糸文が縦位に施文される。第26図24は 2 単位の波状口縁をもつ深鉢で、隆沈線による渦巻文や懸垂文が連結して描かれる。また、補修孔が認められる。第33図131はⅣ区西トレンチ 1 FE38 グリッドから出土した大形深鉢の口縁部片である。波頂部には孔が施され、隆沈線による渦巻文や懸垂文が連結して描かれる。地文には単節縄文が施文される。

第32図114は FE38-01 堅穴住居跡の床直から出土した深鉢の波状口縁～胴部片である。器面には渦巻文を

起点として区画文や懸垂文が連結して描かれている。この土器は、盛岡市柿ノ木平遺跡出土の第Ⅳ群土器(盛岡市教委 2008)に類似すると考えられる。

#### 第Ⅳ群 大木9式、あるいは大木9式に併行すると考えられるもの

1・4・10・12・15・25・66・76・78・151・170などが該当する。主に、Ⅳ区のFH48・FH46トレンチからの出土が多い。また、縄文の森では第40図12が該当する。

第25図1・4は外反する口縁部片である。1は頸部に刺突が施され、隆沈線による文様が施文される。4には鏝上の隆帯が貼り付けられる。第34図151は口縁部片で、波頂下に隆線で渦巻文が施される。第26図25はFJ46-02竪穴住居跡6b層から出土したやや小形の深鉢である。口縁部はやや外傾し、胴部は膨らみをもつ器形である。頸部に2条の沈線文が廻り、その間に刺突が施され、その下には3条の沈線が垂下する。これと類似する土器は西長根遺跡第10号住居跡1～2層出土土器に見られる(八戸市教委 1995)。縄文の森3トレンチから出土した第40図12は隆沈線による渦巻文が施文される。隆線の断面は台形～山形状を呈する。

#### 第Ⅴ群 大木10式に位置づけられるもの

今回の調査では、遺構の堆積土からはこの時期の土器は出土しなかった。Ⅳ区西トレンチ1のⅠ層およびⅣ区西トレンチ2のⅡ層から出土している。第34図153は波状の口縁部片で、口縁内部に鱗状の隆線が付く。第35図173は平縁の口縁部片で、横位沈線文が施文される。

#### 第Ⅵ群 第Ⅱ～Ⅴ群の粗製土器

器面に地文のみが施文されるものを一括した。第26図28はFJ46-02竪穴住居跡9c層から出土した土器であるが、単節縄文(LR)が斜方向に施文される。この土器の中からは焼骨片が入っていたことが特筆されよう。また、網代→ナデ調整の底部痕跡が見られる。第31図99にも網代→ナデ調整の網代痕跡がみられる。

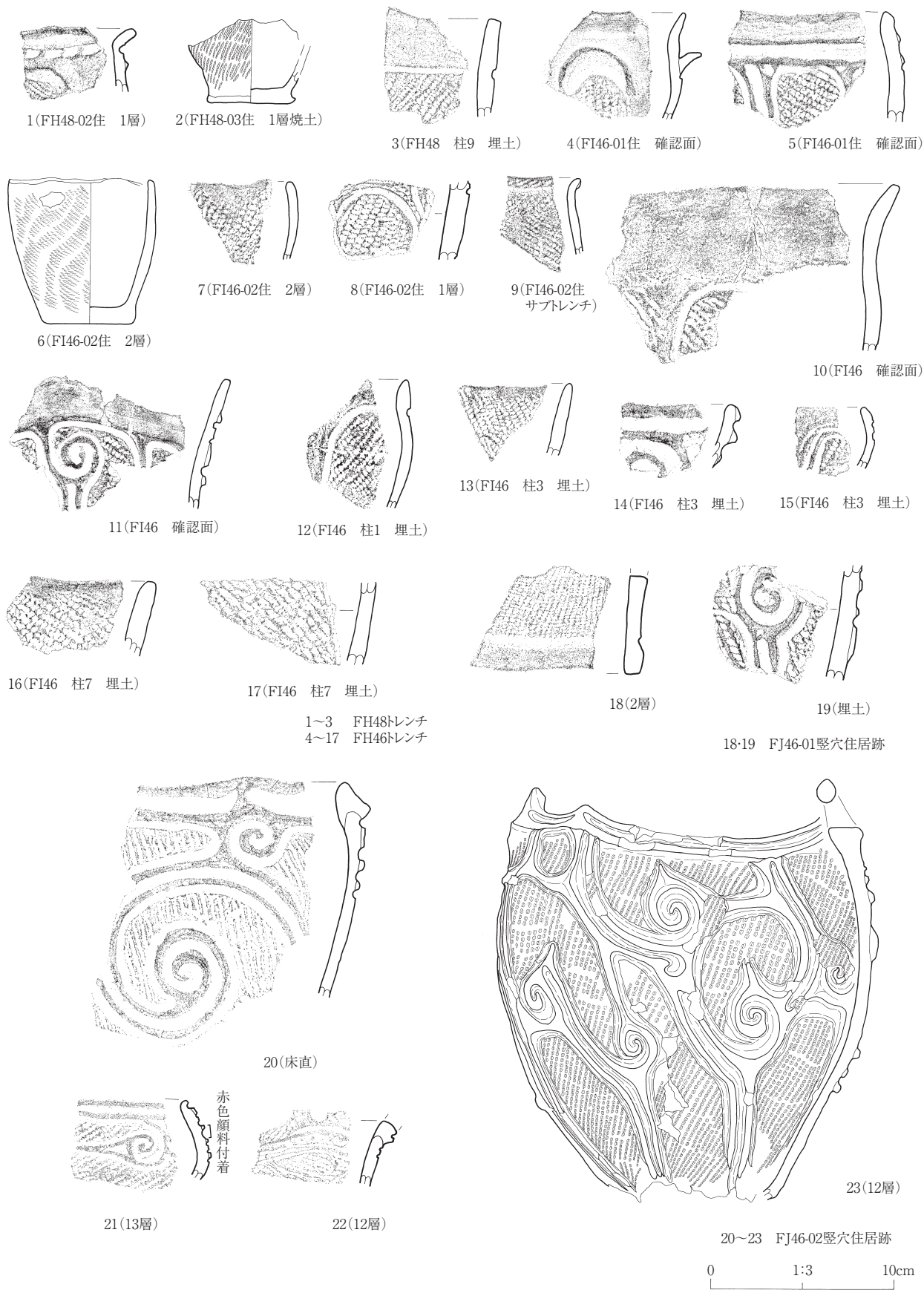
#### (4) 縄文時代後期に属するもの

第34図154は波状口縁の破片と考えられ連鎖状隆帯が認められる。第34図155・第35図171は隆線に沿って刺突が施される。これらは後期初頭に位置づけられよう。

#### 土製品(第36図)

三角形土製品1点、円盤状土製品12点、斧状土製品1点、ミニチュア土器3点、土玉類2点を掲載した。このほかに、ミニチュア土器1点、不明土製品3点が出土している。

1は無文の三角形土製品である。2～12は土器片を転用して円形などに作出された円盤状土製品である。4は三角形、6は五角形に作出されている。3・7・10・11・12には部分的にスレ痕が認められる。13は基部欠損の斧状土製品である。全面に単節縄文(LR)が縦方向に施文される。14～16はミニチュア土器、17・18は土玉類である。17は球形のもので中央に刺突が廻る。18は涙形を呈し、両面に刺突が施されている。



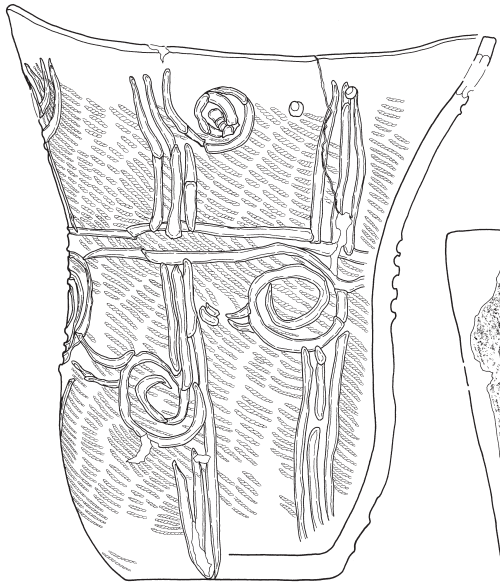
第25図 IV区出土土器 (1)



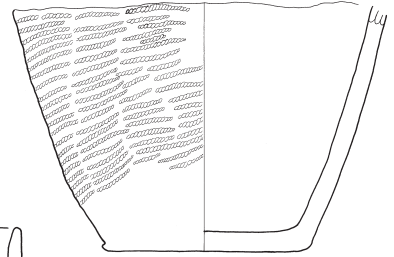
24 (9c~9d層)



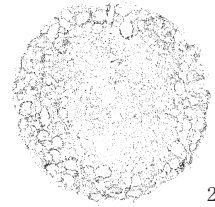
25 (6b層)



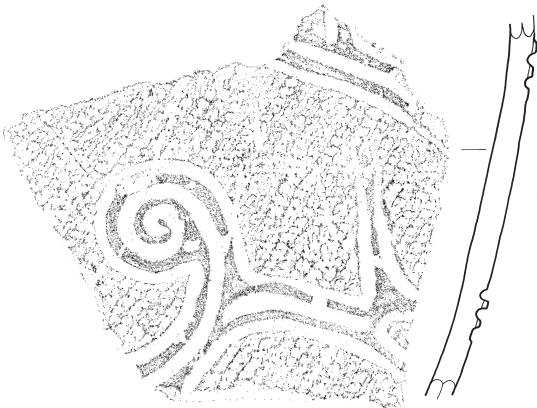
26 (9c層)



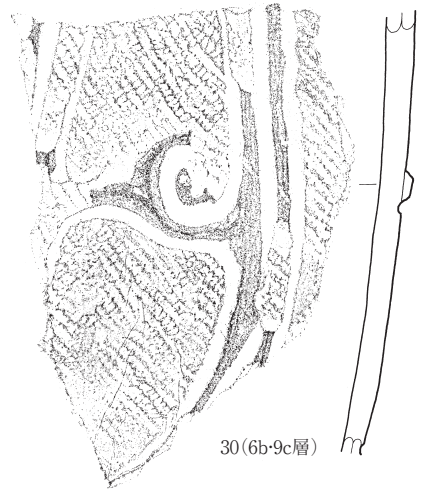
27 (9d層)



28 (9c層)



29 (8層)

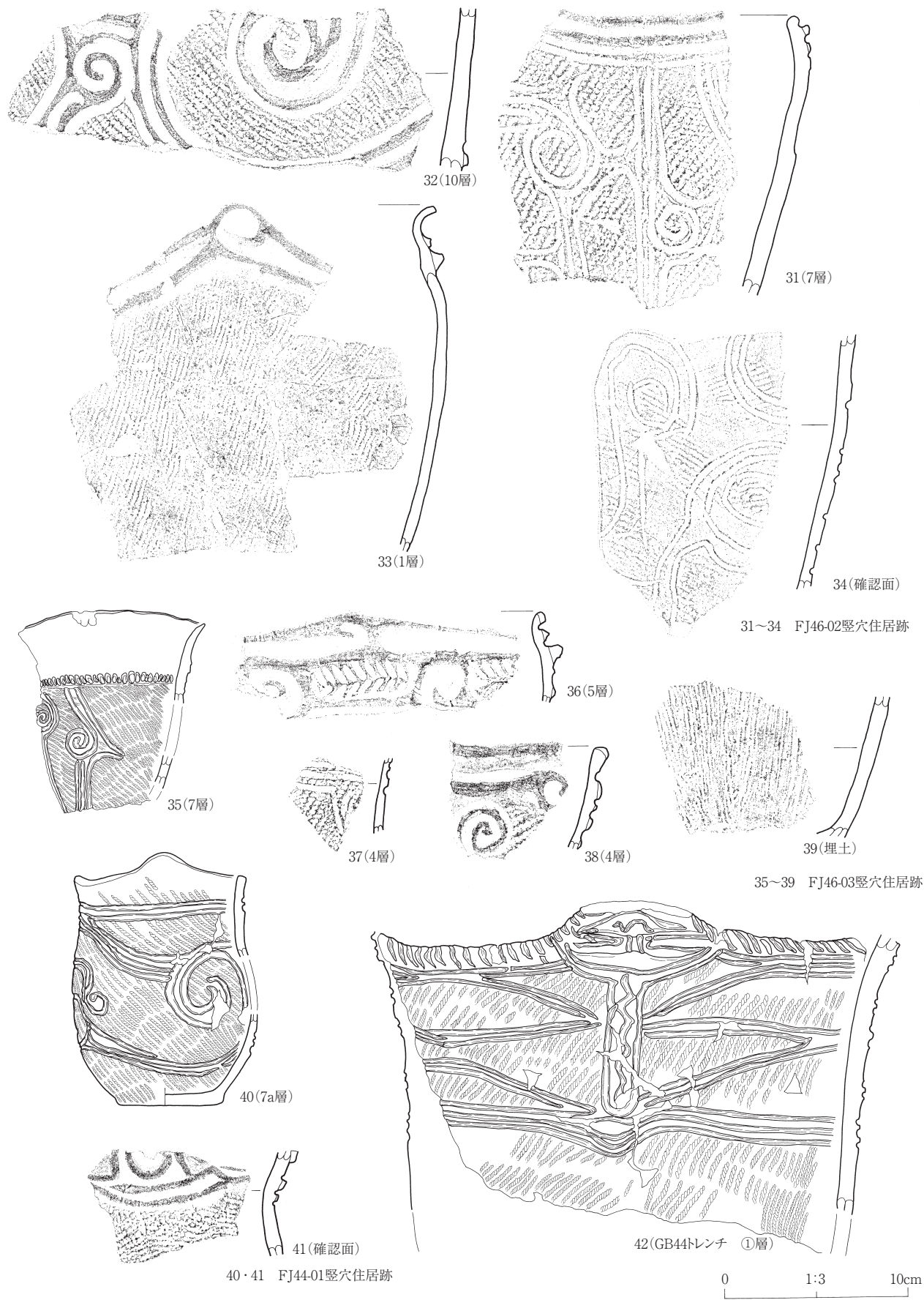


30 (6b-9c層)

24~30 FJ46-02 竖穴住居跡

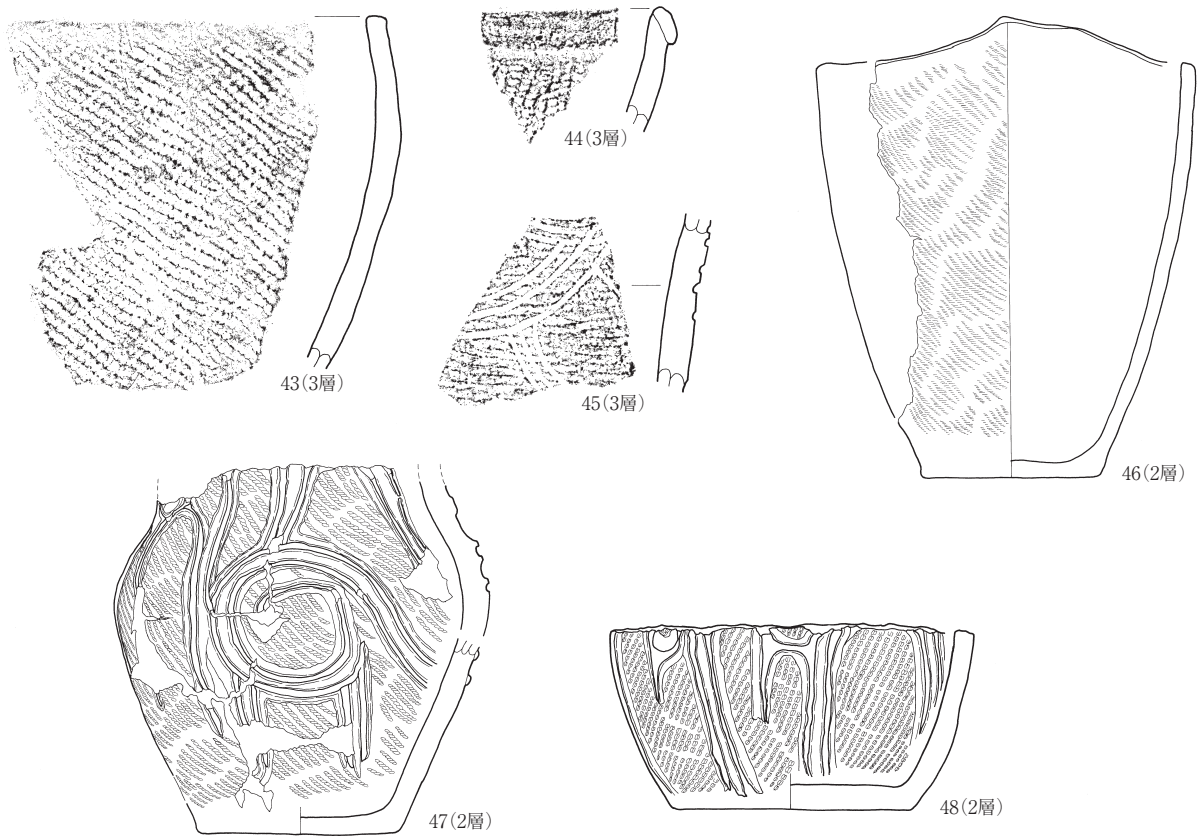
0 1:3 10cm

第26图 IV区出土土器 (2)

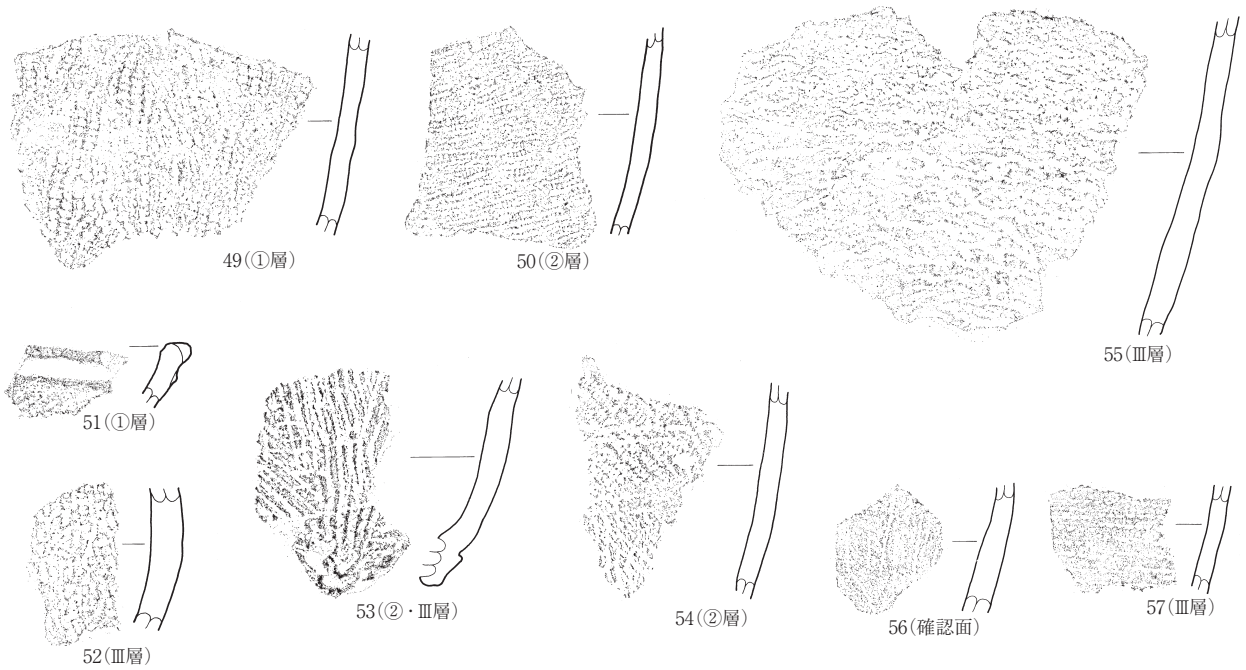


第27図 IV区出土土器(3)





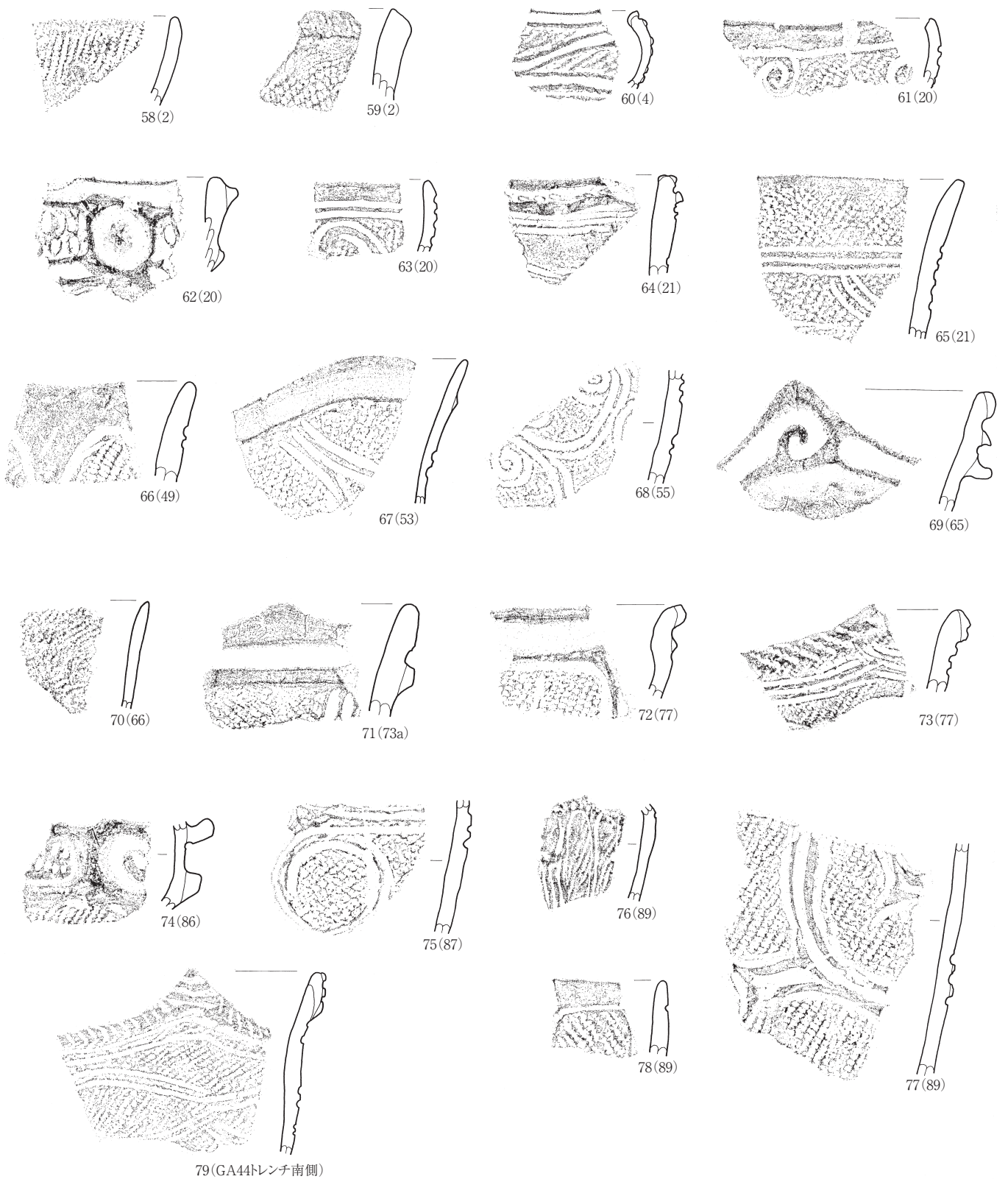
43~48 GA44-01 竪穴住居跡



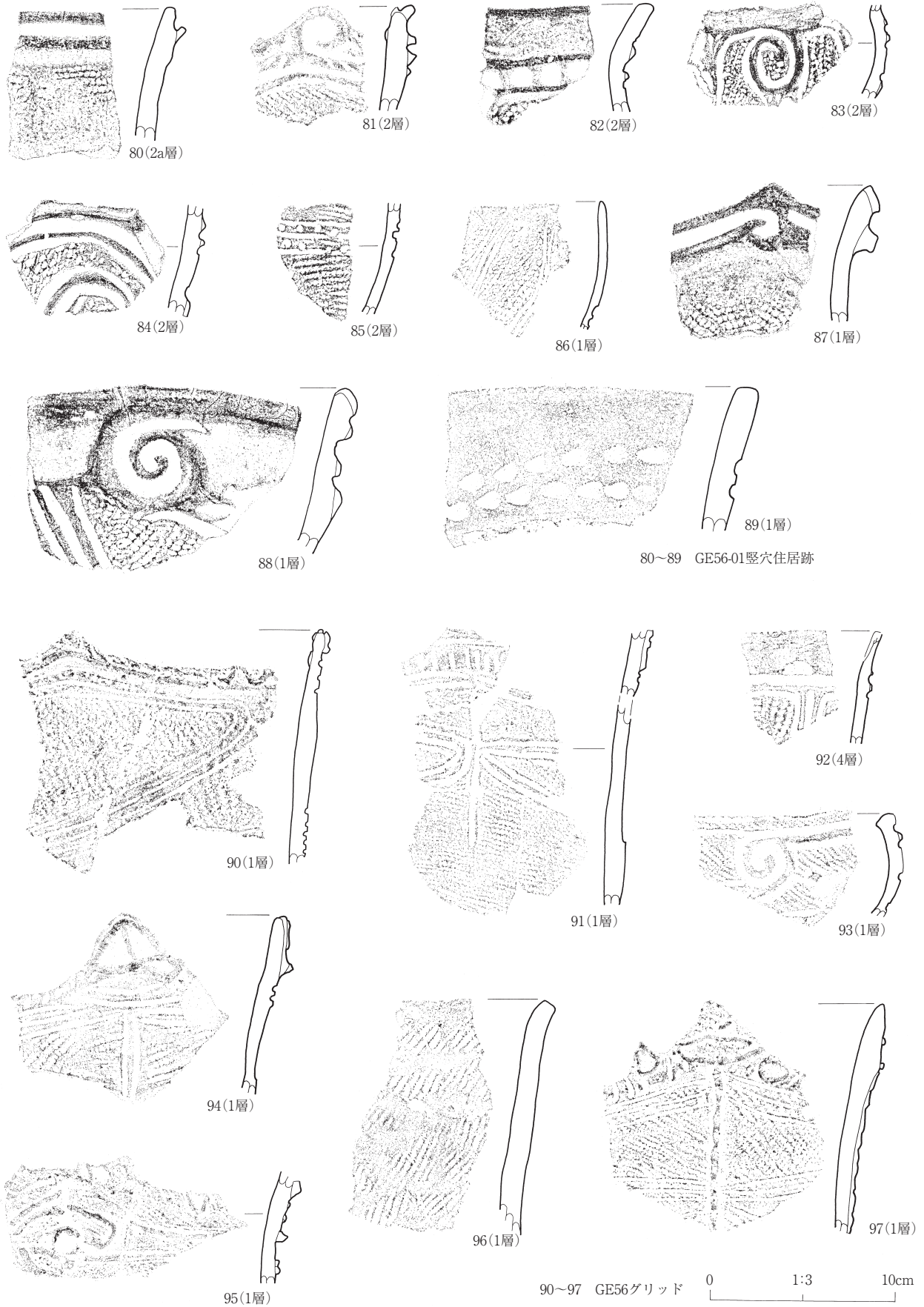
49・55~57 GA44 トレンチ  
50~54 GB44 トレンチ

0 1:3 10cm

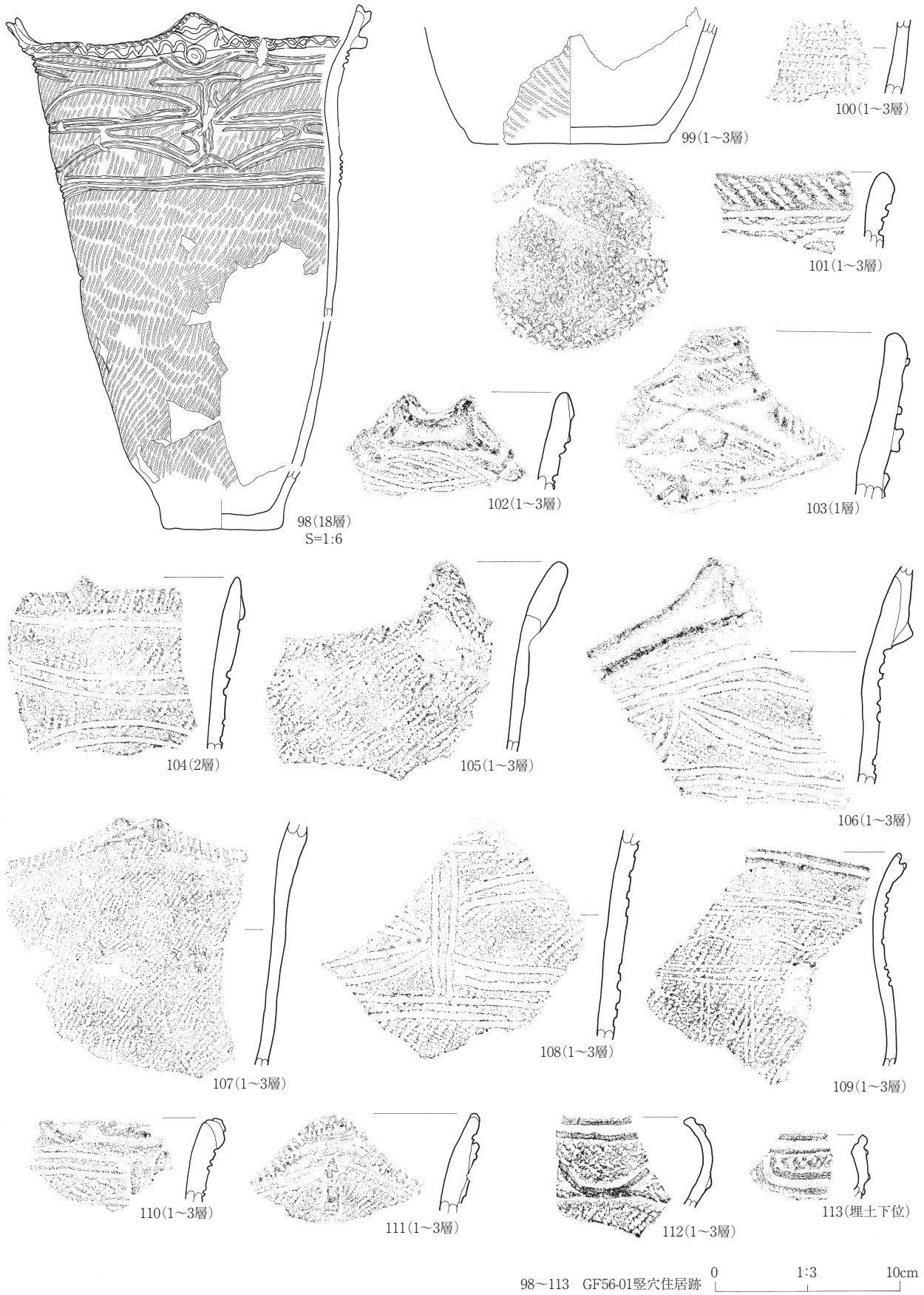
第28図 IV区出土土器 (4)



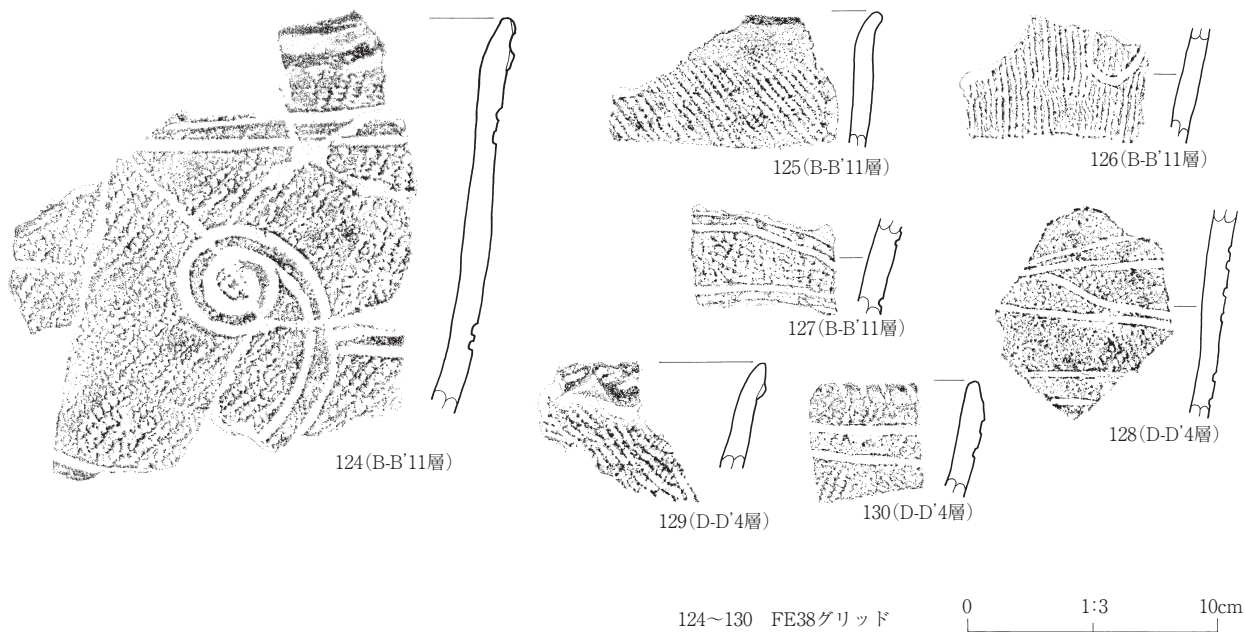
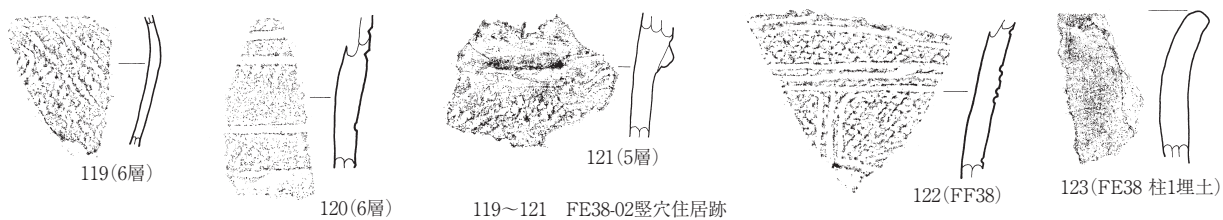
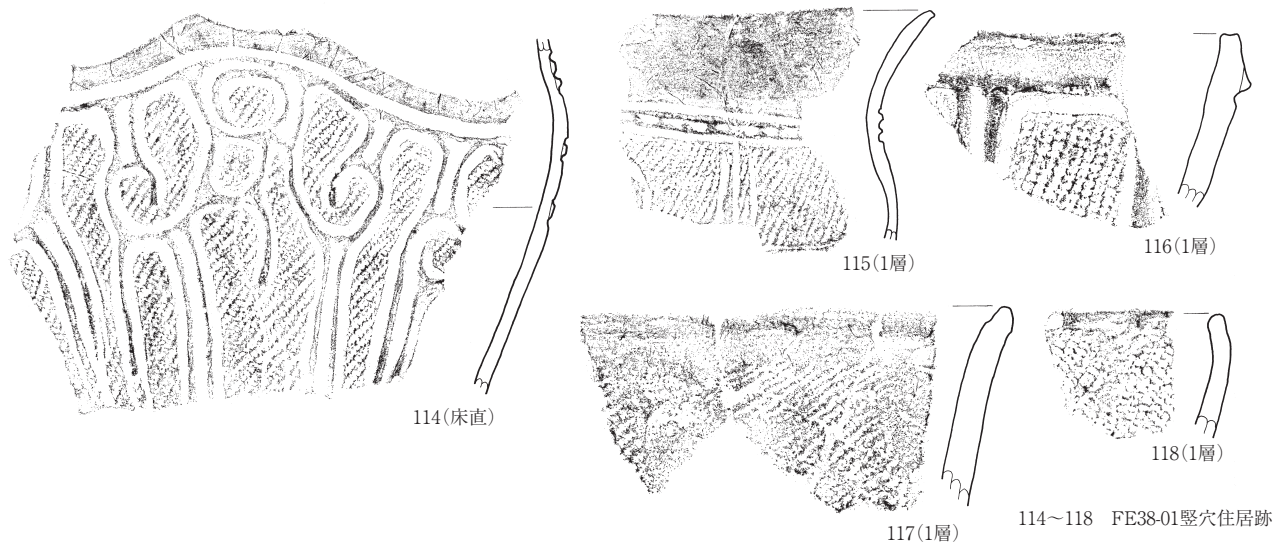
第29図 IV区出土土器(5)



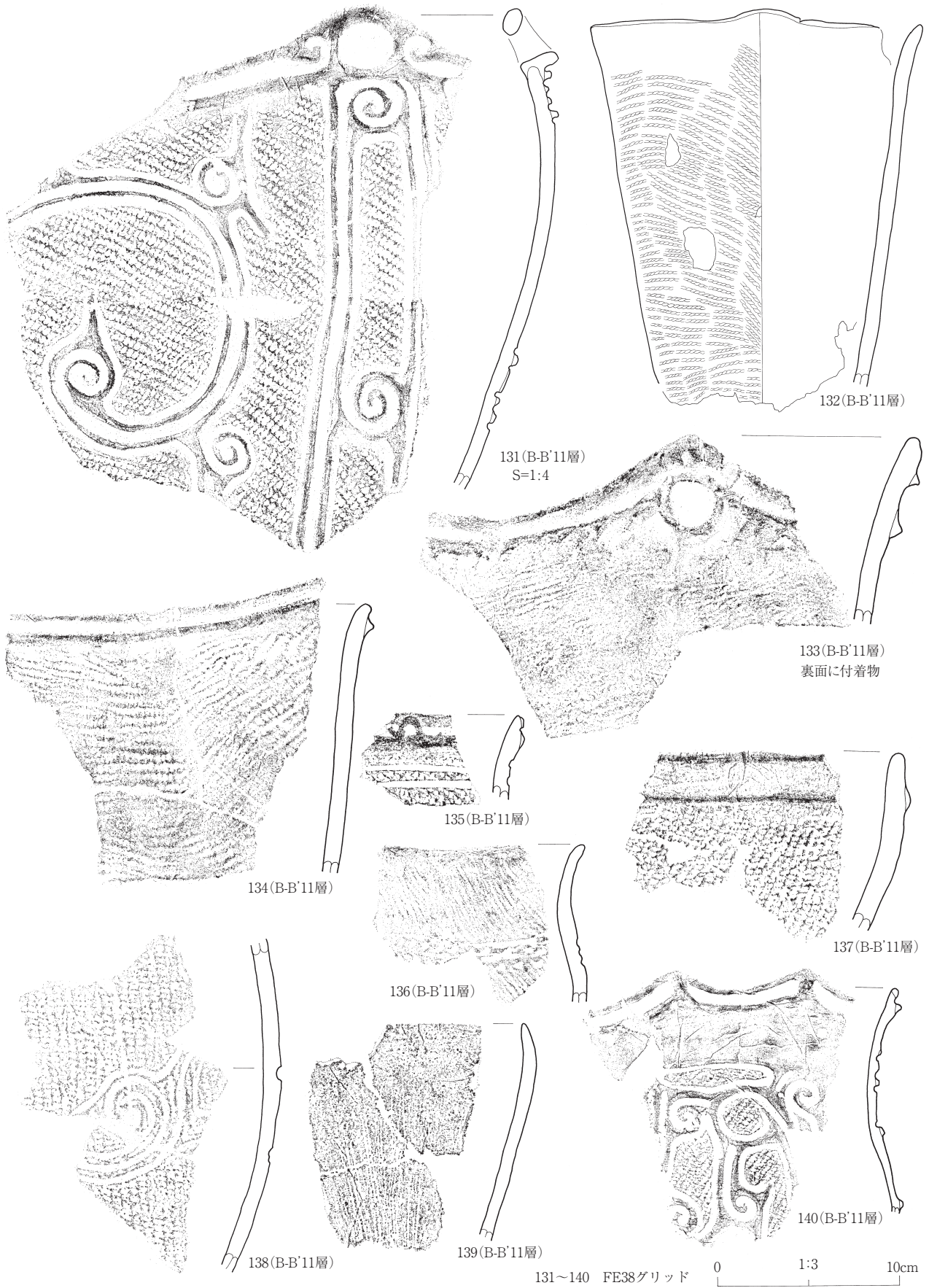
第30図 IV区東トレンチ出土土器 (1)



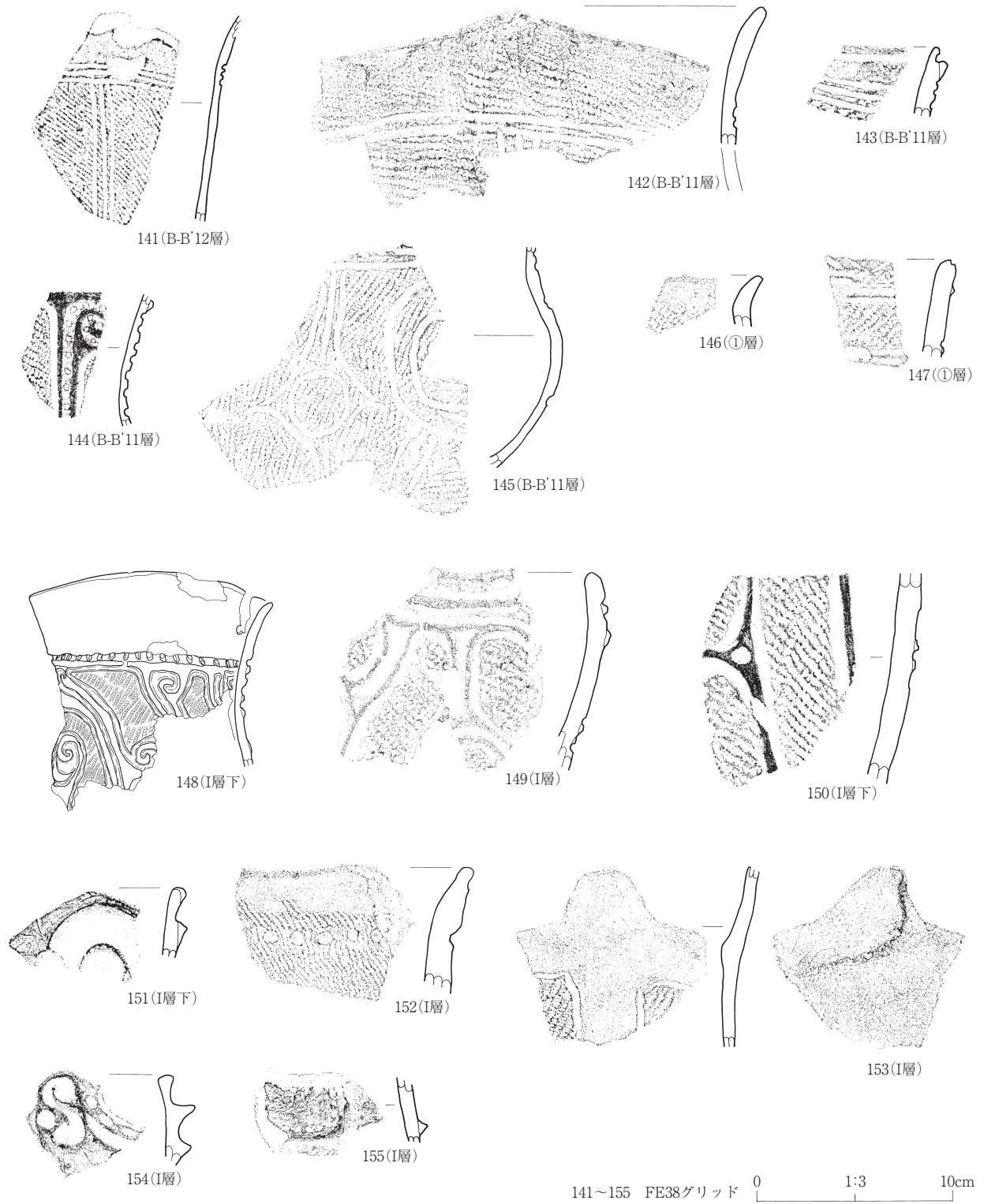
第31図 IV区東トレンチ出土土器(2)



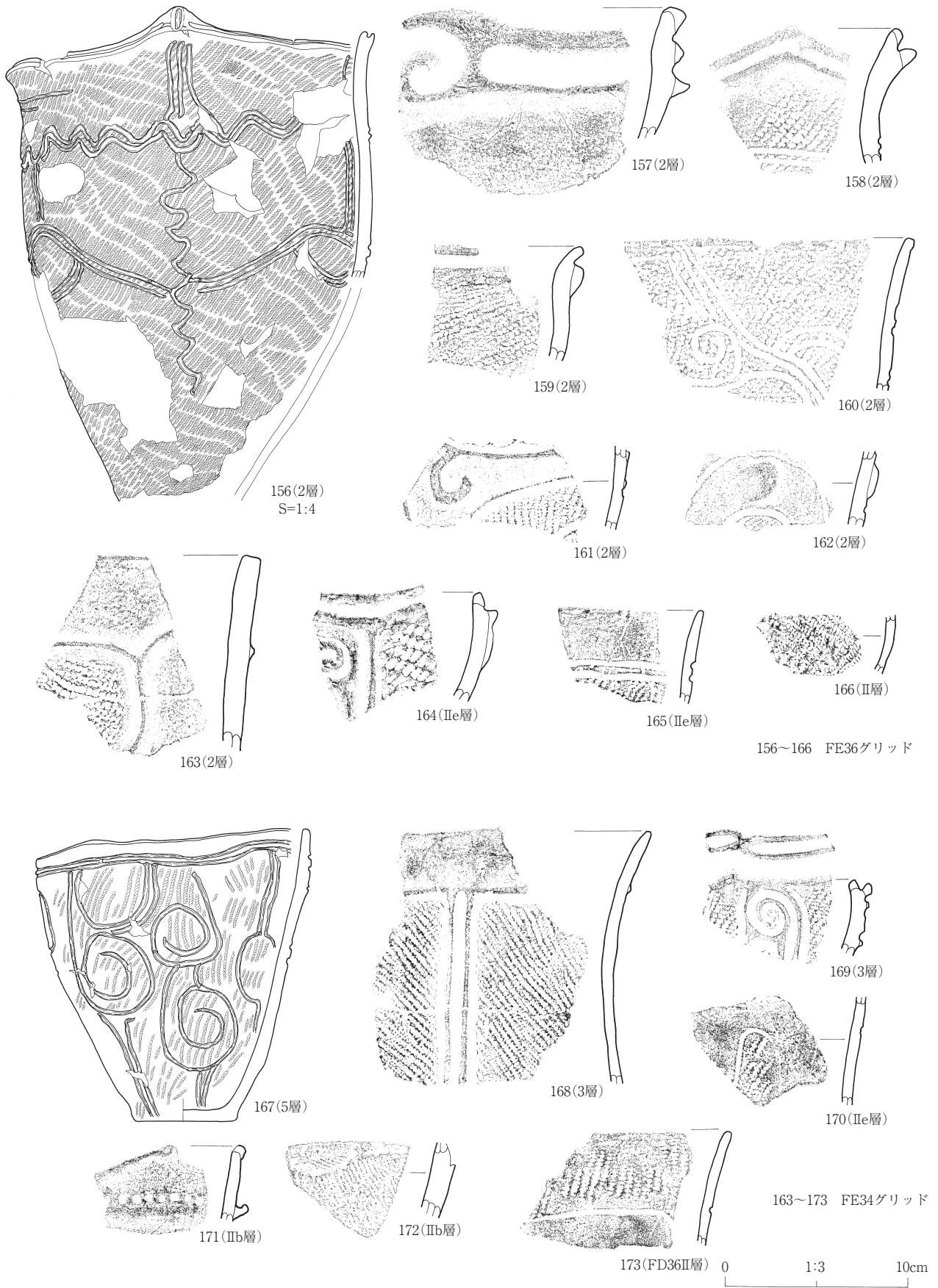
第32図 IV区西トレンチ1出土土器(1)



第33図 IV区西トレンチ1出土土器(2)

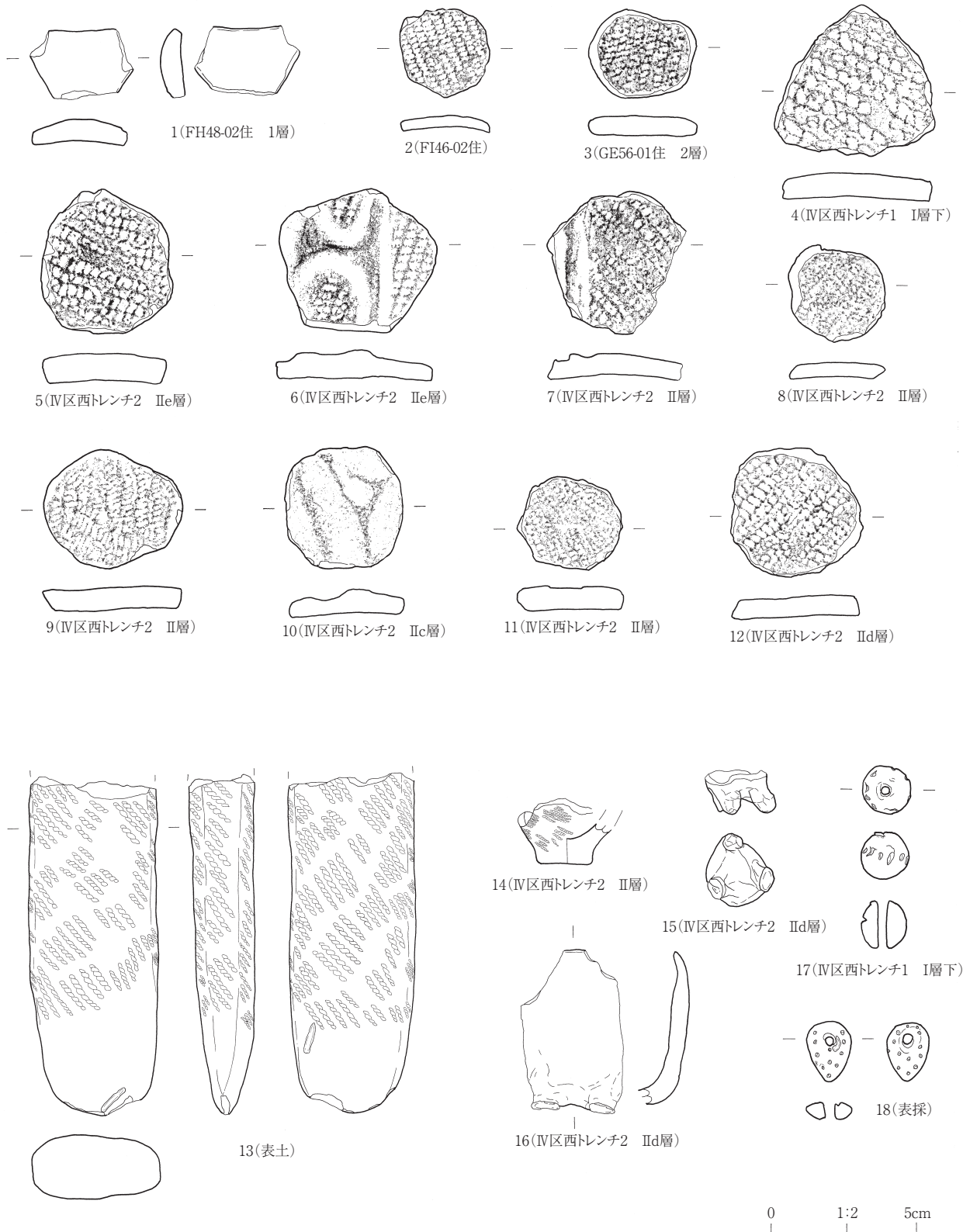


第34図 IV区西トレンチ1出土土器(3)



第35図 IV区西トレンチ2出土土器





第36図 土製品

## 石器・石製品

### (1) 概要

平成21～24年度の調査では326点の石器・石製品、多量の剥片・チップが出土した。石器は、石鏃84点、石鏃未製品71点、石槍未製品1点、両面加工石器12点、石匙4点、スクレイパー18点、石錐2点、二次加工ある剥片42点、使用痕ある剥片15点、楔形石器6点、磨製石斧1点、敲磨器類51点、台石5点、その他の礫石器5点、石核7点である。石製品は石棒1点が出土している。

### (2) 分類

ここでは基本的に『御所野遺跡Ⅰ』で用いられた分類を踏襲したが、一部で石器の形態や使用痕などの観察をもとに再分類・定義の見直しを行った。出土した石器・石製品の全点について個別の属性を第4・5表の石器観察表にまとめ、分類した器種の代表例について実測図示、写真撮影を行った。以下、器種ごとに設定した分類内容と主な特徴について概観することとしたい。なお、『御所野遺跡Ⅰ』で用いられた分類名は< >内に示した。

#### 石鏃<A類> (第37図1～11、写真図版17)

概ね長さ5cm未満のもの。形態的な特徴により6類に細分した。

I類：柳葉形のもの(第37図1～3)

II類：有柄のもの(第37図4～6)

III類：無柄のもの(第37図7)

IV類：凹基のもの(第37図8～10)

V類：茎部を有し、幅広の木の葉形を呈するもの(第37図11)

VI類：欠損などにより分類不能なもの

石鏃は出土石器の25.8%を占める。石鏃84点のうち細分類ごとの点数は、I類28点(33.3%)、II類33点(39.3%)、III類1点(0.1%)、IV類12点(14.3%)、V類(3.6%)、VI類(8.3%)であり、I・II類が石鏃総数に占める割合は7割を超える。I類とII類はその中間的な様相をもつものも多くあったが、わずかでも茎を作り出そうと認められるものはII類とした。欠損が認められるものは半数に及ぶ。また、アスファルトの付着が見られるものは3割を超える。

#### 石鏃未製品(第37図12・13、写真図版19)

大きさや二次加工などから石鏃を意図して製作されたが、何らかの理由により製作途中で放棄されたと推定されるものを「石鏃未製品」とした。出土石器の21.8%を占める。剥片に周辺加工が施されたもの、両面加工が施されたもの、先端や基部が作出され形態がわかるものなどの3～4段階に細分される可能性がある。

#### 石槍<B類> (写真図版17)

概ね長さ5cm以上のもの。今回の調査では未製品が1点出土した。

#### 両面加工石器(写真図版17)

石槍未製品の初期段階と考えられる両面加工されたものを一括した。

#### 石匙<C類> (第37図15・16、写真図版17)

身部の形態により、縦型(16)と横型(15)の2類に細分した。

#### スクレイパー<D類> (第37図18・19、写真図版17)

剥片の縁辺に剥離を施し、刃部を作出したもの。

#### 石錐<E類> (第37図14、写真図版17)

I類：つまみ部のあるもの II類：つまみ部と針部の境が明瞭ではないもの(第37図14)に細分される。

## 二次加工を有する剥片

剥片の一部に刃部ではない二次加工のあるもの。いわゆる R フレイク。

## 使用痕を有する剥片

剥片の縁辺に微細剥離のみられるもの。いわゆる U フレイク。図示はしなかったが、観察表No.241の剥片は縁辺に微細剥離は認められないがアスファルトが付着していたため、観察表に記載した。

## 楔形石器 (第37図17)

楔形石器、両極石器、ピエス・エスキューユなどと呼称される両極剥離痕のある石器を一括した。

## 磨製石斧 <H-I 類>

刃部片 1 点 (表No.247) が出土した。

## 敲磨器類 <G 類> (第38図20~31、写真図版19~21)

礫を素材とし、使用痕として敲打痕、磨痕、凹痕が認められるもの。御所野遺跡から出土したこれらの石器群は、先に記述した使用痕跡が複数組み合わせられていることが多いため、別々に扱わず一括した。さらに、礫の大きさや形態、使用痕の種類や組み合わせにより以下のように分類した。

**敲石** 敲打痕のみが認められるもの。使用礫の形態や敲打痕の部位などにより 4 類に細分した。

I 類：扁平円礫の側縁に帯状の敲打が認められるもの (第38図20)

II 類：扁平円礫の両肩に敲打が認められるもの (第38図21)

III 類：扁平円礫の端部に敲打が認められるもの (第38図22)

IV 類：小形の丸い礫に敲打痕が認められるもの (第38図23)

**磨石** 磨痕のみが認められるもの (第38図24~26)

**凹石** 凹痕のみが認められるもの (第38図27・29)

**敲石+凹石** 敲打痕と凹痕が組み合わせられたもの (第38図28・30)

**敲石+磨石** 敲打痕と磨痕が組み合わせられたもの (第38図31)

**磨石+凸石** 磨痕と凹痕が組み合わせられたもの

敲磨器類51点のうち細分類ごとの点数は、敲石12点 (25.5%)、磨石12点 (23.5%)、凹石12点 (23.5%)、敲石+凹石9点 (17.6%)、敲石+磨石4点 (7.8%)、磨石+凹石1点 (2.1%) である。石材は安山岩や砂岩が多い。磨石のなかには赤色顔料などの付着物が認められるものがある。敲石+凹石にはひび割れがあるものが多く認められる。

## 石皿・台石・砥石 <I 類> (第39図34、写真図版22)

大形や扁平の礫を素材とし、敲打痕や磨痕が認められる石器を一括した。I 類：石皿、II 類：台石 (第39図34)、III 類：砥石に細分される。ただし、今回の調査では石皿は出土しなかった。

## 礫器 <J 類> (第38図32・33、写真図版22)

これまでに分類した以外の礫石器。礫を素材とし、その縁辺の一部に二次加工を施し、刃部を作出したものが見られる。第38図32は二次加工が片面のみに施されるもの、第38図33は二次加工が両面から施されるものである。このほか、図示はしていないが、写真図版22-3は「蜂の巣石」と考えられる。

## 石棒類 <L 類> (第39図35、写真図版22)

I 類：断面形が円形のもので所謂「石棒」、II 類：片側に刃があり断面形が扁平な三角形のもので所謂「石刀」に細分される。今回は石棒 (第39図35) が 1 点出土した。

## 剥片・チップ (写真図版18、第 6・7 表)

今回の調査では多量の剥片やチップが出土した。このうち IV 区 FJ46-02 堅穴住居跡では、先に述べたよう

に堆積土の一部（ベルト部分）において、乾燥ふるい法とフローテーション法を用いて剥片・チップを抽出した。御所野遺跡における石器の製作工程を考える際の基礎的資料とするために、ポイントフレークのほか、主に大きさの違いによって次のように分類し（第6表、写真図版18）、各層ごとに点数を集計した（第7表）。

なお、第4・5表と第6・7表における石質は統一されていないことをお断りしておく。

ポイントフレーク	石鏃や石槍の製作過程で作り出される剥片。1～2cmのものが多い。
剥片	2cm以上のもの
小剥片	1cm以上2cm未満の剥片
チップ（バルブあり）	1cm未満のもの
チップ（バルブなし）	1cm未満のもの
剥片片	バルブがとんでいる剥片
石片	変則的に5cmほどのものがみられるため、剥片片と別とした

総数は1,532点である。分類ごとの点数は、ポイントフレーク130点（8.5%）、剥片33点（2.2%）、小剥片112点（7.3%）、チップ（バルブあり）711点（46.4%）、チップ（バルブなし）439点（28.7%）、剥片片82点（5.4%）、石片25点（1.5%）である。

層ごとの特徴を見てみると、8層と9層上（ともに炭化物や剥片・チップが多量に混入する層）出土のものを合わせた総数は464点（30.3%）である。これらの層から出土したポイントフレーク、チップ（バルブあり）、チップ（バルブなし）は、それぞれ48点（36.9%）、188点（26.4%）、177点（26.7%）となり、3割前後を占める。9c～9d層からは完形土器や骨片などが出土しているが、剥片・チップの出土総数は85点（5.5%）であり、少量の傾向である。壁際の堆積土である12・13層からも215点（14.0%）出土している。

### 石器組成の特徴

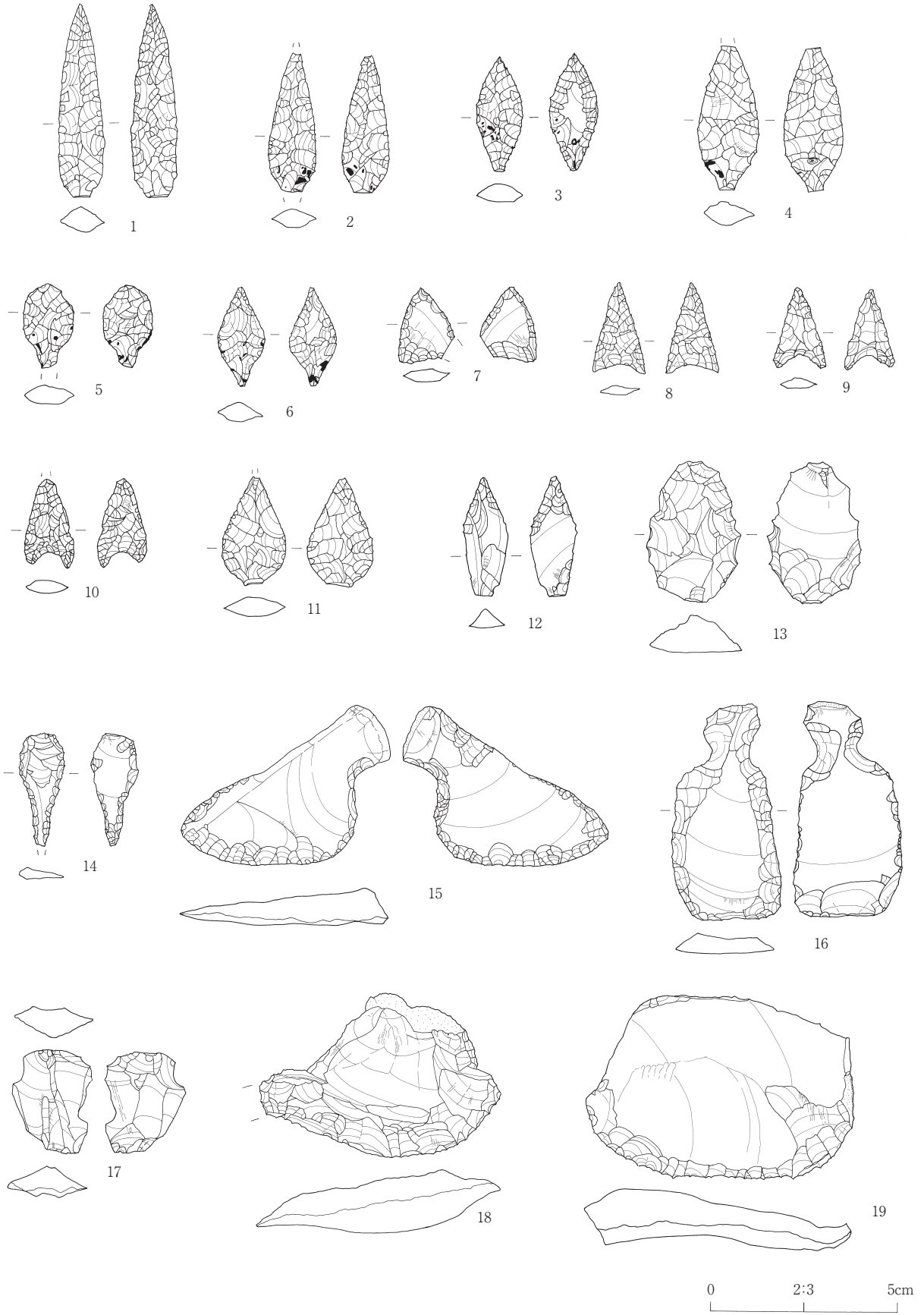
平成21年～24年度の調査で出土した石器326点の半数近くとなる155点（47.5%）を石鏃・石鏃未製品が占める。同様の特徴はこれまでの調査でも示されている（『御所野遺跡Ⅲ』）。FJ46-02堅穴住居跡出土の剥片・チップからポイントフレークや多量のチップ（バルブあり・なし）が抽出されたことから、御所野遺跡では石鏃などの多量な石器制作が行われていたことが窺える。

### 動物遺存体

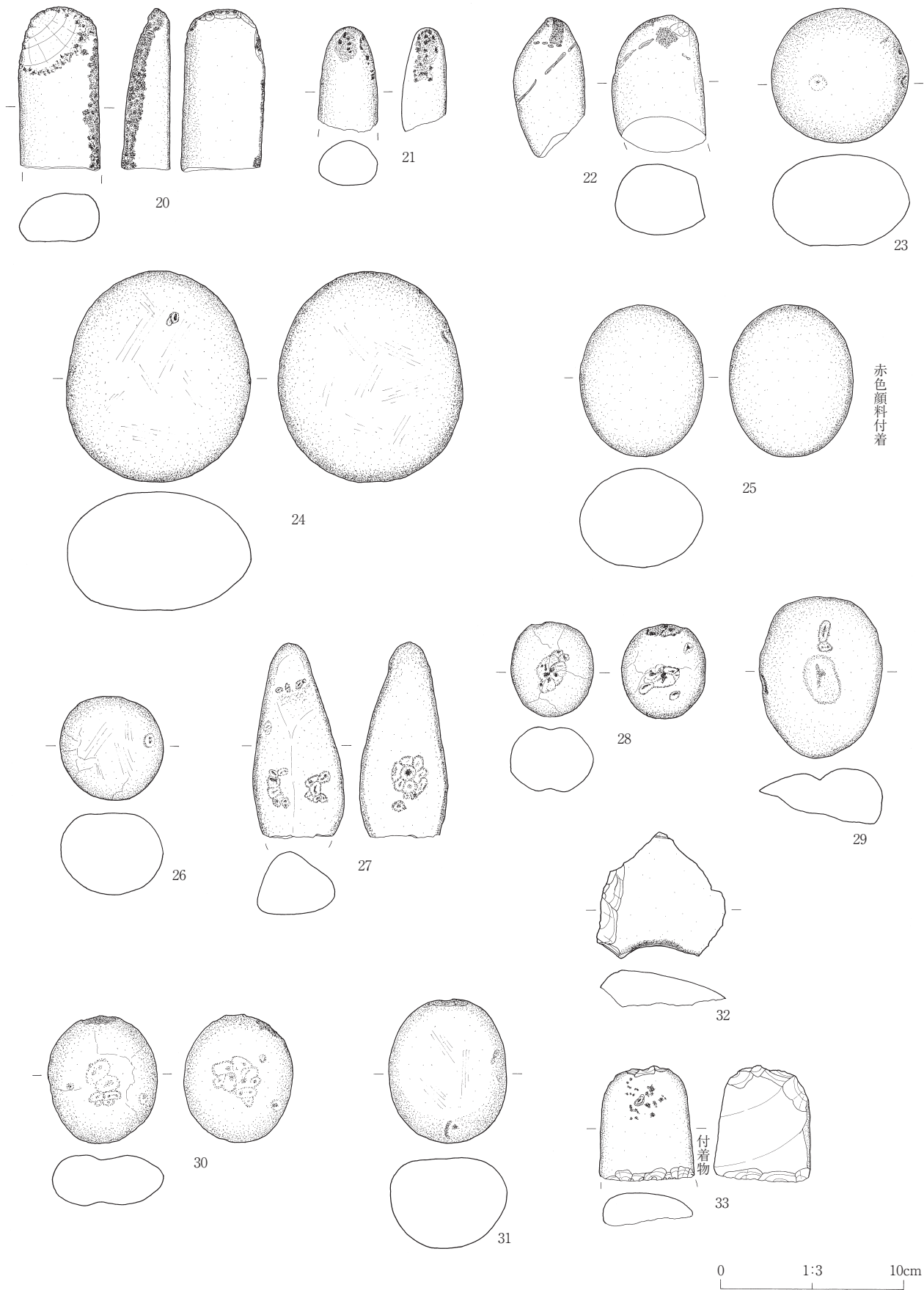
出土した骨片は多くが5mm以下の骨片で、その多くが焼骨であった。そのほとんどが堅穴住居跡の堆積土や遺構の確認面から出土している。鑑定の結果、FJ46-02堅穴住居跡から出土したものには、シカやイノシシの歯や骨、トリの骨などが含まれていた。FI46-01堅穴住居跡の確認面からはウグイ？の椎骨片が出土している。詳しくは第V章第1節を参照していただきたい。

### 植物遺存体

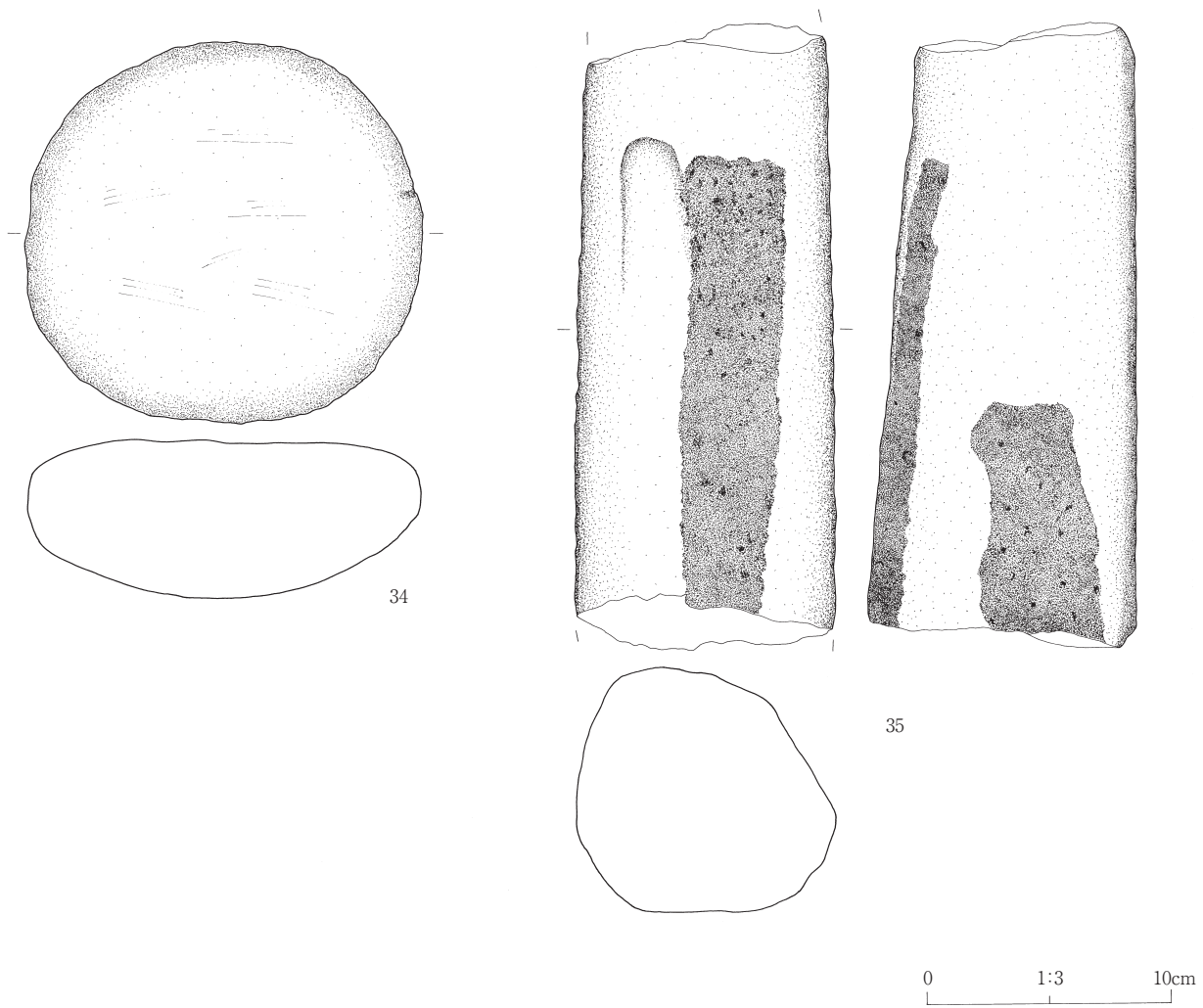
動物遺存体と同じく、堅穴住居跡の堆積土や遺構の確認面から出土した。FJ46-01堅穴住居跡からは多くの炭化種実や炭化材が出土したが、トチノキ種子、クリ、オニグルミが検出された。詳しくは第V章第2節を参照していただきたい。



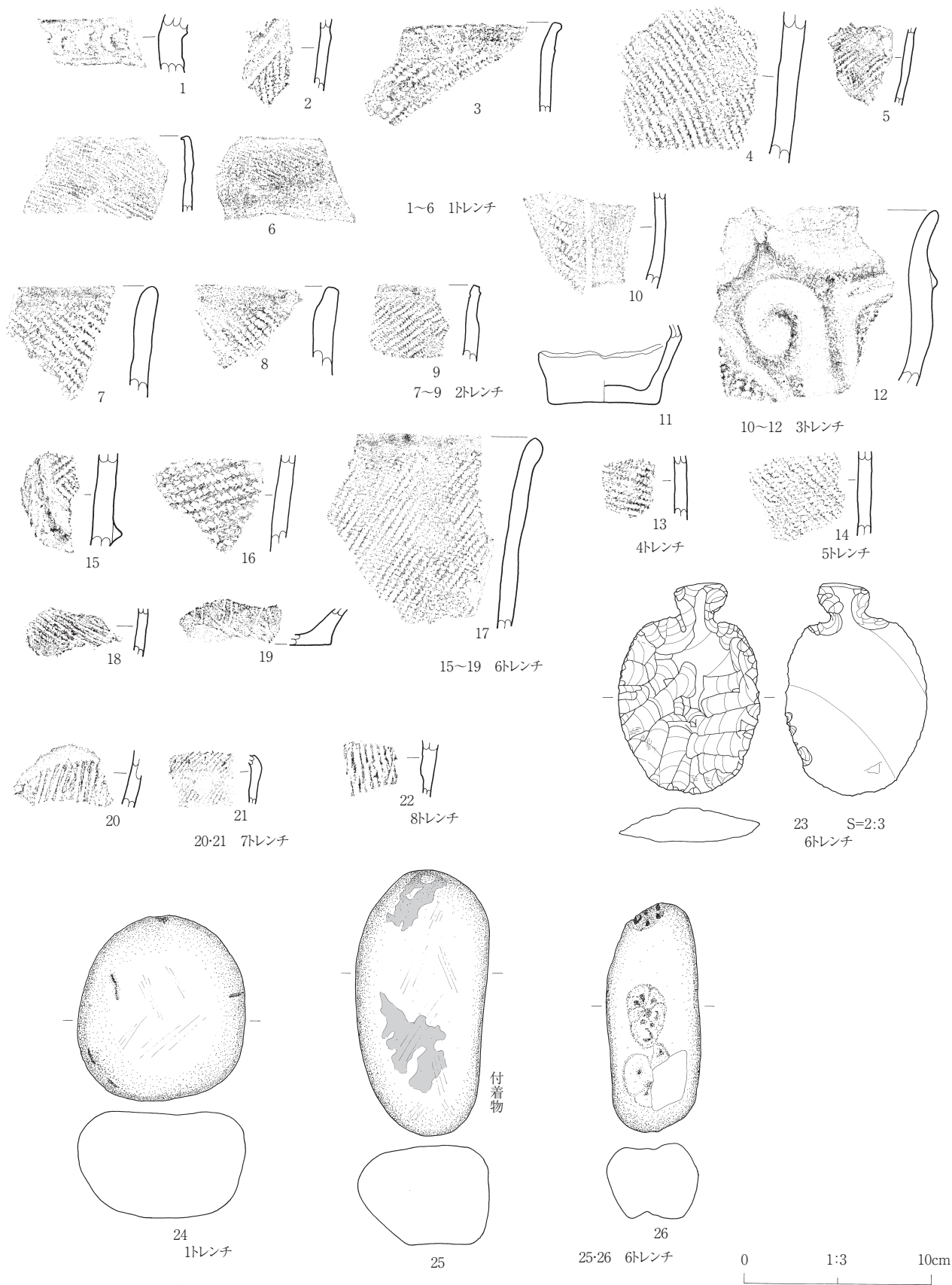
第37图 IV区出土石器(1)



第38図 IV区出土石器(2)



第39图 IV区出土石器(3)



第40図 縄文の森 1~8 トレンチ出土土器・石器



第4表 石器観察表(1)

表	No	調査区		出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
		図	写図						
1	37-2	IV区		FJ46③ 遺構確認面	石鏃	I	チャート	21	アスファルト付着 先端、基部ともに欠損
2		IV区		FJ46-02住 13層	石鏃	I	チャート	28	基部・先端欠損
3	37-1	IV区		FJ46-02住 12層	石鏃	I	チャート	4.7	
4		IV区		FJ46-02住 12層	石鏃	I	チャート	1.9	先端欠損
5		IV区		FJ46-02住 9b層	石鏃	I	チャート	1.6	アスファルト付着
6		IV区		FJ46-02住 A-A' 7層	石鏃	I	チャート	0.9	薄い 基部欠損
7	37-3	IV区		FJ46-02住 土器1の下	石鏃	I	チャート	1.9	アスファルト付着
8		IV区		FJ46-02住 確認面	石鏃	I	チャート	2.6	
9		IV区		FJ46-02住 確認面	石鏃	I	チャート	1.3	アスファルト微量付着 基部・先端欠損
10		IV区		20 確認面	石鏃	I	チャート	1.1	被熱による変色
11		IV区		81 確認面	石鏃	I	チャート	1.8	基部・先端欠損
12		IV区		GB44トレンチ 9 石鏃3	石鏃	I	チャート	1.1	アスファルト微量付着 先端欠損
13		IV区		GB46⑧ 確認面	石鏃	I	チャート	2.9	アスファルト付着 基部・先端欠損
14		IV区		表土	石鏃	I	チャート	6.5	アスファルト?付着 先端欠損
15		IV区南側拡張部		表土	石鏃	I	チャート	3.0	被熱による変色、はじけ アスファルト付着
16		IV区東トレンチ		GE56-01住 1層	石鏃	I	チャート	2.3	基部欠損
17		IV区東トレンチ		GE56-02住 8層	石鏃	I	チャート	4.1	完形
18		IV区東トレンチ		GE56 Q3・4 2層	石鏃	I	チャート	2.1	アスファルト付着 先端欠損
19		IV区東トレンチ		GE56 Q3 2層	石鏃	I	チャート	0.9	
20		IV区東トレンチ		北側掘乱	石鏃	I	チャート	1.9	被熱によるはじけ
21		IV区西トレンチ1		FE38⑨・⑩ 5回目	石鏃	I	チャート	4.2	欠損
22		IV区西トレンチ1		FE38 5回目 石鏃2	石鏃	I	チャート	2.3	基部欠損 アスファルト付着
23		IV区西トレンチ1		FE38⑧柱穴1 埋土	石鏃	I	チャート	1.8	
24		IV区西トレンチ1		サブトレンチ1 FE38⑨ 石鏃1	石鏃	I	チャート	1.3	被熱によるはじけ
25		IV区西トレンチ1		FE38 I層下	石鏃	I	チャート	0.7	
26		IV区西トレンチ1		I層	石鏃	I	チャート	2.8	
27		IV区西トレンチ2		FE36 石鏃1	石鏃	I	チャート	3.3	アスファルト付着 基部欠損
28		IV区西トレンチ2		FE36 石鏃2	石鏃	I	硬質頁岩	1.3	アスファルト付着
29		IV区		FI46⑨ 配石確認面	石鏃	II	チャート	1.8	
30		IV区		FJ46-02住 A-A' 8層	石鏃	II	チャート	1.7	アスファルト?付着
31		IV区		FJ46-02住 A-A' 6b層	石鏃	II	チャート	0.8	薄い アスファルト付着 先端欠損
32		IV区		FJ46-02住 A-A' 3層	石鏃	II	チャート	1.0	被熱によるはじけ
33		IV区		FJ46-02住 E-E' 17層	石鏃	II	チャート	0.9	薄い 先端欠損
34		IV区		FJ46-02住 石鏃No.1	石鏃	II	チャート	3.3	基部欠損
35		IV区		FJ46-02住 埋土	石鏃	II	チャート	1.7	
36	37-6	IV区		FJ46-02住 確認面	石鏃	II	チャート	1.3	アスファルト付着
37		IV区		FJ46-02住 確認面	石鏃	II	硬質頁岩	2.5	
38		IV区		GA44-01住 3層 石鏃No.1	石鏃	II	チャート	1.0	
39		IV区		GB44トレンチ 9 石鏃1	石鏃	II	チャート	1.0	アスファルト付着

No	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
40	IV区	21 確認面	石鏝	II	チャート	0.9	アスファルト付着 基部欠損
41	IV区	GA46②	石鏝	II	チャート	0.9	基部のみ残存
42	IV区	GA46② 確認面	石鏝	II	チャート	1.2	基部欠損
43	IV区	GA46⑨ 確認面	石鏝	II	チャート	1.2	薄い
44	IV区	表土	石鏝	II	チャート	1.2	
45	IV区	表土	石鏝	II	チャート	4.8	被熱による変色、はじけ
46	IV区東トレンチ	GE56-01住 1層	石鏝	II	硬質頁岩	1.8	先端欠損
47	IV区東トレンチ	GE56-01住 埋土	石鏝	II	チャート	2.2	アスファルト?付着 先端欠損
48	IV区東トレンチ	GE56-02住 埋土	石鏝	II	チャート	1.9	欠損あり
49	IV区東トレンチ	GE56 石鏝1	石鏝	II	チャート	1.8	
50	IV区東トレンチ	GE56 石鏝1	石鏝	II	チャート	1.5	アスファルト微量付着 先端欠損
51	IV区東トレンチ	GE56 Q4 I~2層	石鏝	II	チャート	1.7	基部のみ残存
52	IV区西トレンチ1	FE38 石鏝1	石鏝	II	チャート	1.2	アスファルト付着 先端欠損
53	IV区西トレンチ1	FF38 5回目 石鏝5	石鏝	II	チャート	1.3	
54	37-4 17-11	FF38 5回目 石鏝4	石鏝	II	チャート	3.1	アスファルト付着 先端欠損
55		FE38 I層下	石鏝	II	チャート	2.4	アスファルト付着 基部・先端欠損
56		FE38 I層下	石鏝	II	チャート	0.9	アスファルト付着 先端欠損
57	37-5 17-9	IV区西トレンチ1	石鏝	II	チャート	1.3	アスファルト付着
58		IV区西トレンチ1	石鏝	II	チャート	2.7	アスファルト付着
59		IV区西トレンチ2	石鏝	II	チャート	2.0	先端欠損
60		IV区西トレンチ2	石鏝	II	チャート	2.7	
61		IV区西トレンチ2	石鏝	II	硬質頁岩	2.0	先端・基部欠損
62	37-7 17-1	IV区東トレンチ	石鏝	III	チャート	0.8	欠損
63	37-9 17-5	IV区 配石確認面	石鏝	IV	チャート	0.7	凹部が深い
64	17-6	FJ48⑧ 確認面	石鏝	IV	チャート	1.2	凹部が浅い
65		IV区	石鏝	IV	チャート	1.2	凹部が浅い 先端欠損 アスファルト?付着
66		IV区	石鏝	IV	チャート	0.7	凹部が浅い 欠損あり
67	37-8 17-3	IV区東トレンチ	石鏝	IV	チャート	0.6	凹部が浅い
68	37-10 17-4	IV区西トレンチ1	石鏝	IV	チャート	0.8	先端欠損 脚先端が尖状
69		IV区西トレンチ1	石鏝	IV	チャート	0.8	アスファルト付着 先端欠損 脚先端が尖状
70		IV区西トレンチ2	石鏝	IV	チャート	0.2	アスファルト付着 先端欠損
71		IV区西トレンチ2	石鏝	IV	チャート	0.7	先端欠損
72		IV区西トレンチ2	石鏝	IV	硬質頁岩	3.1	凹部ごく浅い
73		IV区西トレンチ2	石鏝	IV	硬質頁岩	0.7	
74	17-2	IV区西トレンチ2	石鏝	IV	チャート	0.8	凹部が深い 脚先端に欠損
75	37-11 17-8	IV区 FJ46-01住	石鏝	V	粘板岩	2.0	先端欠損
76		IV区 表土	石鏝	V	チャート	3.3	基部欠損
77		IV区東トレンチ	石鏝	V	チャート	2.2	基部欠損
78		IV区 FJ46-02住 2層	石鏝	VI	チャート	0.7	先端のみ残存

No.	調査区		出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
	表	写図						
79	IV区		FI46-02住 2層	石鏃	VI	チャート	06	先端のみ残存
80	IV区		FJ46-02住 9c層	石鏃	VI	チャート	0.2	先端のみ残存
81	IV区		FJ46-02住 A-A' 9層上	石鏃	VI		2.0	先端・基部欠損
82	IV区		GB44トレンチ 9 石鏃2	石鏃	VI	チャート	1.5	先端・基部欠損
83	IV区		GA44 IV a層	石鏃	VI	チャート	1.3	先端欠損 薄い
84	IV区	西トレンチ1	FE38㉔ 1回目	石鏃	VI	黒曜石?	0.3	先端のみ残存
85	IV区		FI46-02住 南側2層	石鏃未製品		硬質頁岩	3.7	完成に近い
86	IV区		FJ46-02住 A-A' 13層	石鏃未製品		チャート	1.6	破片
87	37-12	19-17	FJ46-02住 埋土	石鏃未製品		チャート	1.6	
88	19-15	IV区	FJ46-02住 確認面	石鏃未製品		硬質頁岩	2.5	完成に近い
89	19-14	IV区	FJ46-03住 3層	石鏃未製品		チャート	5.5	完成に近い
90	19-3	IV区	FJ46-03住 確認面	石鏃未製品		チャート	5.7	
91		IV区	7	石鏃未製品			1.9	
92		IV区	25 確認面	石鏃未製品			6.0	完成に近い
93		IV区	FI44㉔	石鏃未製品		チャート	8.9	
94	19-2	IV区	FJ46㉔ 確認面	石鏃未製品			2.8	
95		IV区	GA44㉔	石鏃未製品			8.0	
96		IV区	GA46㉔ 確認面	石鏃未製品			3.3	
97	19-6	IV区	GA46④ (FJ46-02住)	石鏃未製品		チャート	8.8	
98		IV区	GA46⑦ (FJ46-02住)	石鏃未製品		チャート	6.8	
99	19-10	IV区	GA46⑦ (FJ46-02住)	石鏃未製品			10.7	
100		IV区	GA46⑬ (FJ46-02住) 確認面	石鏃未製品		チャート	2.1	完成に近い
101		IV区	GB44トレンチ 9 1層	石鏃未製品		チャート	11.2	
102		IV区	GB46①	石鏃未製品			5.7	
103	19-4	IV区	GB46① 確認面	石鏃未製品		チャート	6.0	
104		IV区	表土	石鏃未製品		チャート	3.3	
105		IV区	表土	石鏃未製品		チャート	2.6	
106	19-1	IV区	表土	石鏃未製品		チャート	9.9	
107		IV区	表土	石鏃未製品		チャート	0.4	完成に近い 基部のみ残存
108	19-9	IV区	表土	石鏃未製品			6.9	付着物あり
109		IV区	表土	石鏃未製品		チャート	3.7	完成に近い
110		IV区	表土	石鏃未製品		チャート	3.0	IIの未製品
111		IV区	表土	石鏃未製品			5.3	
112		IV区	表土	石鏃未製品			4.7	
113		IV区	南側拡張部	石鏃未製品			11.2	
114		IV区	東トレンチ 2層	石鏃未製品		チャート	7.6	
115		IV区	東トレンチ 2層	石鏃未製品			9.1	
116		IV区	東トレンチ 1層	石鏃未製品			4.0	
117		IV区	東トレンチ 埋土	石鏃未製品		チャート	9.7	

No.	表 図	写 図	調査区	出土地点・層位	器 種	分 類	石 質	重 量(g)	備 考
118			IV区東トレンチ	GE56-01・02住	石鏽未製品		チャート	7.3	
119	19-16		IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石鏽未製品		チャート	3.3	Vの未製品
120			IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石鏽未製品		チャート	3.5	
121			IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石鏽未製品		チャート	4.6	
122			IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石鏽未製品			2.9	
123			IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石鏽未製品			5.7	
124			IV区東トレンチ	GF56-01住 埋土中位	石鏽未製品		チャート	2.7	
125			IV区東トレンチ	GE56 Q3 1層	石鏽未製品		チャート	1.6	
126			IV区東トレンチ	GE56 Q3 1層	石鏽未製品			1.7	
127			IV区東トレンチ	GE56 Q3 1層	石鏽未製品		チャート	7.0	
128			IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 1層	石鏽未製品			3.5	
129			IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 1層	石鏽未製品			3.2	
130			IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 1層	石鏽未製品		チャート	7.6	
131			IV区東トレンチ	埋め戻し土	石鏽未製品		硬質頁岩	2.8	
132			IV区西トレンチ1	FE38⑨・⑩ 13回目	石鏽未製品		チャート	7.7	
133	37-13	19-13	IV区西トレンチ1	FE38⑨・⑩ 6回目	石鏽未製品		チャート	8.6	
134		19-12	IV区西トレンチ1	FE38②・③ (FE38-01住)	石鏽未製品		チャート	5.9	
135			IV区西トレンチ1	FE38②・③ 5～6回目 (FE38-01住)	石鏽未製品		チャート	1.7	
136		19-7	IV区西トレンチ1	FE38⑤ 3回目	石鏽未製品		チャート	1.8	
137			IV区西トレンチ1	FE38⑥ 5～6回目	石鏽未製品		チャート	7.1	被熱
138			IV区西トレンチ1	FF38④・⑤ 2回目	石鏽未製品		チャート	2.1	
139	19-11		IV区西トレンチ1	FF38①・⑦ 7回目	石鏽未製品		チャート	8.3	
140			IV区西トレンチ1	FE38 I層下	石鏽未製品		チャート	4.0	
141			IV区西トレンチ1	FF38 I層下	石鏽未製品		チャート	4.7	
142			IV区西トレンチ1	FF38 I層下	石鏽未製品			7.4	
143			IV区西トレンチ1	FF38 I層下	石鏽未製品			5.0	
144			IV区西トレンチ1	FE36 I層下	石鏽未製品		チャート	7.1	
145			IV区西トレンチ1	I層下	石鏽未製品		チャート	5.6	
146			IV区西トレンチ1	I層下	石鏽未製品		チャート	5.1	
147			IV区西トレンチ1	FF40⑦・⑧・⑨ I層	石鏽未製品		硬質頁岩	3.6	
148	19-5		IV区西トレンチ2	FE36 2層	石鏽未製品			6.0	
149			IV区西トレンチ2	FE34 2層	石鏽未製品		チャート	2.1	
150			IV区西トレンチ2	FE34 II d層	石鏽未製品		チャート	1.9	被熱
151			IV区西トレンチ2	FE34 II d層	石鏽未製品		チャート	3.8	被熱
152			IV区西トレンチ2	FE34 II b層	石鏽未製品		チャート	2.1	被熱 完成に近い
153			IV区西トレンチ2	II層	石鏽未製品			3.0	
154			配石トレンチ	サブトレンチ 1層	石鏽未製品		チャート	1.7	被熱
155			IV区	FJ46-02住 13層	石鏽未製品		チャート	4.61	
156	17-31		IV区南御坂張部	表土	石鏽未製品		粘板岩	23.2	

No	調査区		出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
	表	写図						
157	IV区	FJ46-02住 P5の下	両面加工石器		チャート	78	欠損	
158	IV区	表土	両面加工石器		硬質頁岩	25.3		
159	IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 1層	両面加工石器		硬質頁岩	4.5		
160	IV区東トレンチ	GE56 Q4 1～2層	両面加工石器		硬質頁岩	11.0		
161	IV区東トレンチ	GE56 Q4 2～3層	両面加工石器		硬質頁岩	5.4	欠損	
162	IV区東トレンチ	GF56 Ⅲ層上の黒褐色土層	両面加工石器		チャート	50		
163	IV区東トレンチ	埋め戻し土	両面加工石器		チャート	68		
164	37-15 IV区	20 確認面	石匙	横型	チャート	11.4		
165	17-26 IV区南側拡張部	Ⅲ層	石匙	不明	チャート	14.2	欠損	
166	17-24 IV区東トレンチ	埋め戻し土	石匙	横型	チャート	6.1	欠損	
167	37-16 IV区西トレンチ2	FE36 II e層	石匙	縦型	チャート	11.9		
168	IV区	FJ46-01住	スクレイパー		チャート	2.7	欠損	
169	IV区	FJ46-02住 E-E' 17層	スクレイパー		チャート	5.5		
170	IV区	FJ46-02住 9c層	スクレイパー		硬質頁岩	4.8		
171	IV区	FJ46-03住 3層	スクレイパー		粘板岩	10.1	欠損	
172	IV区	FJ46-03住 4層	スクレイパー		チャート	6.9	欠損	
173	IV区	GB44トレンチ 9 1層	スクレイパー		チャート	9.7		
174	IV区	GB44トレンチ 9 1層	スクレイパー		チャート	2.5	小形	
175	IV区	76 確認面	スクレイパー		チャート	3.2	欠損	
176	37-18 IV区	FJ46⑨	スクレイパー		チャート	36.8	欠損	
177	IV区	表土	スクレイパー		チャート	4.4		
178	IV区東トレンチ	GF56-01住 埋土中位	スクレイパー		チャート	25.4		
179	IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	スクレイパー		チャート	1.5		
180	IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 3層	スクレイパー		チャート	7.9	ノッチあり	
181	IV区西トレンチ1	FF38④・⑤・⑩11 2回目	スクレイパー		硬質頁岩	10.1		
182	IV区西トレンチ1	FE36 I層下	スクレイパー		チャート	13.5		
183	IV区西トレンチ2	FE36 2層	スクレイパー		チャート	2.1	小形 欠損	
184	37-19 IV区西トレンチ2	FE36 II a層	スクレイパー		硬質頁岩	43.9		
185	17-22 IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	石錐		チャート	2.6	欠損	
186	37-14 17-21 IV区西トレンチ1	サブトレンチ1回目 FE38② 暗褐色土	石錐		チャート	1.2	欠損	
187	IV区	GA44②	二次加工ある剥片			6.1		
188	IV区	GA44② IV a層	二次加工ある剥片			6.5		
189	IV区	GA46③ (FJ46-02住)	二次加工ある剥片		チャート	12.1		
190	IV区	FJ44⑤	二次加工ある剥片			6.6		
191	IV区	FJ46③ (FJ46-02住)	二次加工ある剥片			17.6		
192	IV区	FJ46③ (FJ46-02住) 12層	二次加工ある剥片		チャート	3.6		
193	IV区	表土	二次加工ある剥片			4.2		
194	IV区	表土	二次加工ある剥片		チャート	18.3		
195	IV区	表土	二次加工ある剥片		チャート	7.0		

No	調査区		出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
	表	写図						
196	IV区	GB44トレンチ 2	二次加工ある剥片		チャート	28		
197	IV区	76 確認面	二次加工ある剥片			7.8		
198	IV区	FJ46-02住 13層	二次加工ある剥片		チャート	2.5		
199	IV区	FJ46-02住 E-E' 20層	二次加工ある剥片		チャート	2.3		
200	IV区	FJ46-02住 9a層	二次加工ある剥片			5.5		
201	IV区東トレンチ	GE56-02住 埋土	二次加工ある剥片			1.5		
202	IV区東トレンチ	GE56-02住 埋土	二次加工ある剥片			1.4		
203	IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	二次加工ある剥片		硬質頁岩	1.6		
204	IV区東トレンチ	GF56-01住 1層	二次加工ある剥片		チャート	4.7		
205	IV区東トレンチ	GF56-01住 埋土中位	二次加工ある剥片			10.0		
206	IV区西トレンチ1	FE38 1回目	二次加工ある剥片			1.0		
207	IV区西トレンチ1	FE38⑤・⑥ 1回目	二次加工ある剥片		チャート	20.4	付着物あり	
208	IV区西トレンチ1	FE38⑤ 3回目	二次加工ある剥片		チャート	0.6		
209	IV区西トレンチ1	FE38⑤ 5～6回目	二次加工ある剥片		チャート	5.2	被熱	
210	IV区西トレンチ1	FE38②・③ (FE38-01住)	二次加工ある剥片		チャート	2.5		
211	IV区西トレンチ1	FF38④・⑤ 2回目	二次加工ある剥片		チャート	17.8		
212	IV区西トレンチ1	FF38 ④・⑤・⑩・⑪ 2回目	二次加工ある剥片		チャート	6.5		
213	IV区西トレンチ1	FF38 4回目	二次加工ある剥片			4.5		
214	IV区西トレンチ1	FE38 I層下	二次加工ある剥片		チャート	1.7		
215	IV区西トレンチ1	FE38 I層下	二次加工ある剥片		チャート	4.5		
216	IV区西トレンチ1	FE38 I層下	二次加工ある剥片		チャート	2.3		
217	IV区西トレンチ1	FF38 I層下	二次加工ある剥片		チャート	4.1		
218	IV区西トレンチ1	FF38 I層下	二次加工ある剥片			3.6		
219	IV区西トレンチ1	FF38 I層下	二次加工ある剥片		チャート	15.1		
220	IV区西トレンチ1	I層下	二次加工ある剥片		チャート	58.4		
221	IV区西トレンチ1	I層下	二次加工ある剥片		チャート	3.3		
222	IV区西トレンチ1	I層下	二次加工ある剥片		チャート	14.8		
223	IV区西トレンチ1	I層下	二次加工ある剥片		チャート	5.6		
224	IV区西トレンチ1	I層	二次加工ある剥片		チャート	15.5		
225	IV区西トレンチ2	FE34 3層	二次加工ある剥片			3.9		
226	IV区西トレンチ2	FE34 2層	二次加工ある剥片		チャート	2.6		
227	IV区西トレンチ2	FE36 II d層	二次加工ある剥片		チャート	4.6		
228	IV区	GA46 サブトレンチ1-2 (FJ46-02住)	使用痕ある剥片		チャート	2.9		
229	IV区	GA46① (FJ46-02住)	使用痕ある剥片		チャート	4.9		
230	IV区	FJ44③	使用痕ある剥片		チャート	2.5		
231	IV区	81 確認面	使用痕ある剥片		チャート	11.7	アスファルト?付着	
232	IV区	埋め戻し土	使用痕ある剥片		チャート	15.9		
233	IV区南側拡張部	表土	使用痕ある剥片		チャート	13.7		
234	IV区東トレンチ	GE56 Q4 1～2層	使用痕ある剥片		チャート	3.8		

No	調査区		出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
	表	写図						
235	IV区西トレンチ1	FE38 ㉔・㉕ 1回目	使用痕ある剥片	剥片	チャート	1.9		
236	IV区西トレンチ1	FE36 I層下	使用痕ある剥片	剥片	チャート	4.0	付着物あり	
237	IV区西トレンチ1	FE36 I層下	使用痕ある剥片	剥片	チャート	5.5		
238	IV区西トレンチ1	FE36 I層下	使用痕ある剥片	剥片	チャート	3.9		
239	IV区西トレンチ1	I層	使用痕ある剥片	剥片	チャート	9.8		
240	IV区西トレンチ2	II層	使用痕ある剥片	剥片	チャート	6.5		
241	IV区	76 確認面	剥片	剥片		5.5	アスファルト付着	
242	IV区	FJ46-02住 A-A' 5a㉔層	楔形石器	楔形石器	チャート	3.3		
243	IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 2層	楔形石器	楔形石器	チャート	3.5		
244	IV区西トレンチ1	FE38㉔・㉕ 1回目	楔形石器	楔形石器	チャート	3.6		
245	37-17	FE36 II d層	楔形石器	楔形石器	チャート	4.0		
246		FH50-01住 黒色土層	楔形石器	楔形石器	チャート	13.5		
247		FI46配石	磨製石斧	磨製石斧	頁岩	3.3	刃部片	
248	20-5	FJ46-03住 5層 S-3	敲磨器類	敲磨器類	花崗岩	1220.0	片側の側面～端部に敲打痕	
249	38-20	GB44トレンチ 2の㉔	敲磨器類	敲磨器類	砂岩	1800	1/2欠損	
250	38-21	IV区西トレンチ2 I層	敲磨器類	敲磨器類	頁岩	660	1/2欠損	
251	38-22	FI46配石	敲磨器類	敲磨器類	頁岩	1900	一部欠損	
252	20-4	FJ44-01住 7a層 S-1	敲磨器類	敲磨器類	安山岩	2600	端部片面に敲打痕 1/2欠損	
253	20-7	GA46㉔	敲磨器類	敲磨器類	砂岩	3600	両面の端部に敲打痕 一部欠損	
254	20-6	層位不明	敲磨器類	敲磨器類	砂岩	5100	端部に敲打痕	
255	38-23	20-8	表採	敲磨器類	安山岩	4100		
256		IV区東トレンチ	GF56-01住 S-2	敲磨器類	安山岩	420	1/2欠損	
257		IV区東トレンチ	攪乱	敲磨器類	凝灰岩	540		
258		IV区	埋め戻し土	敲磨器類	砂岩	108.0		
259		IV区	埋め戻し土	敲磨器類	安山岩	118.0	破片	
260		IV区	GA44㉔ IV a層上位	敲磨器類	頁岩		破片のため分類不明	
261	38-24	19-24	FJ46-02住 床直	敲磨器類	安山岩	10000		
262		19-18	IV区	敲磨器類	安山岩	940		
263		19-22	IV区	敲磨器類	砂岩	800.0	付着物あり	
264		IV区	2I 確認面	敲磨器類	安山岩	7400		
265		IV区	2 確認面 S-1	敲磨器類	安山岩	8200	欠損、黒化(変色)	
266	38-25	19-20	表採	敲磨器類	安山岩	4200	赤色顔料付着	
267		19-21	IV区東トレンチ	敲磨器類	安山岩	9000		
268	38-26	19-19	IV区西トレンチ1	敲磨器類	安山岩	1720	ヒビ	
269			IV区西トレンチ1	敲磨器類	砂岩	6140		
270		19-23	IV区西トレンチ1	敲磨器類	安山岩	7740		
271		IV区西トレンチ1	FF40 ㉔㉕㉖	敲磨器類	安山岩	6300	欠損	
272		IV区西トレンチ2	FE36 S-1 III層上の暗褐色土層	敲磨器類	安山岩	2620	欠損	
273		20-12	IV区	敲磨器類	凹石	7160	焼けている(黒く変色、ヒビ割れ)	

No	表	図	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
274			IV区	FH48 S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	11000	
275			IV区	FJ48③	敲磨器類	凹石	安山岩	4400	
276			IV区	FJ46-02住 5層 S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	3600	
277			IV区	表塚	敲磨器類	凹石	砂岩	6280	
278	38-27		IV区東トレンチ	GF56-01住 S-1	敲磨器類	凹石	砂岩	1560	一部欠損
279	38-29		IV区東トレンチ	GE56-01住 A-A' ヘルト2a層	敲磨器類	凹石	凝灰岩	1920	
280			IV区東トレンチ	GE56 Q3・4 1~2層	敲磨器類	凹石	砂岩	7000	変色
281			IV区西トレンチ1	FE38 S-6	敲磨器類	凹石	砂岩	5340	
282			IV区西トレンチ1	FE38 S-18	敲磨器類	凹石	砂岩	2700	
283			IV区西トレンチ2	層位不明	敲磨器類	凹石	安山岩	5960	ヒビ、一部黒く変色
284			配石トレンチ	FH S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	6440	一部欠損
285			IV区	FH48-02住 1層	敲磨器類	敲石+凹石	砂岩	3460	
286			IV区	FI46 S-1	敲磨器類	敲石+凹石	安山岩	9000	ヒビ割れ
287			IV区	FJ46-02住 9c層 S-1	敲磨器類	敲石+凹石	砂岩	5200	
288			IV区東トレンチ	GE56	敲磨器類	敲石+凹石	安山岩	1400	
289			IV区東トレンチ	GE56 S-3	敲磨器類	敲石+凹石	安山岩	6280	ヒビ 一部欠損
290			IV区東トレンチ	GE56-01住 A-A' ヘルト2a層 S-2	敲磨器類	敲石+凹石	砂岩	5820	ヒビあり
291			IV区西トレンチ1	FE38 S-7	敲磨器類	敲石+凹石	安山岩	2400	焼けている(変色、欠損)
292	38-28		IV区西トレンチ1	FE38⑨ 2回目 S-13	敲磨器類	敲石+凹石	凝灰岩	940	小形 ヒビ
293	38-30		IV区西トレンチ1	FE38 S-15	敲磨器類	敲石+凹石	頁岩	1260	小形 ヒビ
294	39-31		IV区	FH46③ S-1	敲磨器類	敲石+磨石	安山岩	3820	一部黒化(変色)
295			IV区	FJ46-03住 5層	敲磨器類	敲石+磨石	砂岩	5780	
296			IV区	FJ46-03住 3層	敲磨器類	敲石+磨石	砂岩	4160	
297			IV区	南御張部 S-1	敲磨器類	敲石+磨石	安山岩	3800	
298			IV区	FH48 S-2	敲磨器類	磨石+凹石	安山岩	2660	ヒビ割れ
299			IV区	FI46配石 S-2	台石?		砂岩	33000	赤色顔料?付着
300			IV区東トレンチ	GF56-01住 床直 S-1	台石?		砂岩	22400	赤く変色(被熱)
301	39-34		IV区西トレンチ1	FE38 S-4	台石		安山岩	20400	
302			IV区西トレンチ1	FE38 S-11	台石?		安山岩	39600	
303			IV区西トレンチ2	層位不明	台石?		砂岩	11200	
304			IV区西トレンチ1	FE38 S-2 (FE38-02住)	砥石		安山岩	18600	
305	38-32		IV区	35a 確認面	方刃礫器		安山岩	1000	破片
306	38-33		IV区	FJ44⑥	両刃礫器		粘板岩	1000	付着物あり
307			IV区	FH48トレンチ S-3	蜂の巣石		安山岩	10000	アスファルト付着
308			IV区西トレンチ2	層位不明	不明		安山岩	2900	
309			IV区	FJ46-02住 A-A' 3層	両面加工石器		チャート	50	半面加工
310			IV区	FJ46-02住 A-A' 3層	両面加工石器		チャート	151	半面加工
311			IV区	FJ46-02住 A-A' 7層	両面加工石器		チャート	1.3	半面加工
312			IV区	FJ46-02住 A-A' 7層	使用痕ある剥片		チャート	304	



No	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
313	IV区	FJ46-02住 8層	二次加工ある剥片		チャート	187	
314	IV区	FJ46-02住 11層	スクレイパー			1.2	破片
315	IV区	FJ46-02住 12層	石鏃未製品		チャート	0.6	
316	IV区	FJ46-02住 12層	楔形石器		チャート	4.6	破片
317	IV区	FJ46-02住 13層	画面加工石器		チャート	208	半画面加工
318	IV区	FJ46-02住 13層	画面加工石器		チャート	34	被熱 破片
319	IV区	GA44 ㊟	石核		チャート	81.4	
320	IV区	77 確認面	石核		チャート	43.9	
321	IV区東トレンチ	GF56-01住	石核		チャート	45.9	
322	IV区西トレンチ1	FE36 I層下	石核		チャート	40.0	
323	IV区西トレンチ1	I層	石核		チャート	61.1	
324	IV区西トレンチ2	FE36 II d層	石核		チャート	159.7	
325	IV区西トレンチ2	FE36 II c層	石核		チャート	39.5	
326	39-35 22-1	FI46配石	石棒		安山岩	4520.0	

第5表 石器観察表(2)

No	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
1	細文の森	1トレンチ 表採	石鏃	III	チャート	0.8	被熱 欠損あり
2	細文の森	1トレンチ	石鏃未製品		チャート	1.2	IIの未製品
3	40-23 細文の森	6トレンチ	石匙	縦型	頁岩	17.2	
4	細文の森	1トレンチ	スクレイパー		頁岩	7.3	
5	細文の森	1トレンチ	二次加工のある剥片		チャート	4.2	
6	細文の森	1トレンチ 表採	石核		チャート	109.3	
7	細文の森	1トレンチ 表採	石核		チャート	75.2	
8	40-24 細文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	磨石	安山岩	700.0	
9	40-25 細文の森	6トレンチ S-1	敲磨器類	磨石	砂岩	840.0	付着物あり
10	細文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	凹石	安山岩	350.0	欠損 2面に凹痕
11	細文の森	6トレンチ S-2	敲磨器類	凹石	安山岩	1280.0	欠損 2面に凹痕
12	細文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	敲石 + 凹石	安山岩	396.0	
13	40-26 細文の森	6トレンチ 黒色土	敲磨器類	敲石 + 凹石	礫岩	330.0	3面に凹痕

第6表 FJ46-02竪穴住居跡出土剥片・チップ分類表

凡例 ①ポイントフレーク ②剥片 ③小剥片  
 ④チップ(バルブあり) ⑤チップ(バルブなし)  
 ⑥剥片片 ⑦石片

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	A-A' 1層	灰褐頁岩			1	1				
		黒褐メノウ								
		茶メノウ								
		黄灰メノウ				1				
		白メノウ								
		褐メノウ				1				
		灰褐メノウ				1				
2	1層	灰メノウ					1			
		黄灰メノウ						1		
		茶メノウ						1		
		黒褐メノウ			1					
		灰褐頁岩						2		
3	A-A' 2層	白メノウ						3		
		灰褐頁岩				1				
		茶メノウ					1			
4	2層	灰褐頁岩					1			
		灰白頁岩				5				
5	A-A' 3層	灰褐頁岩	1							
		茶メノウ		1						
		灰褐頁岩			1					
		茶メノウ			1					
		茶メノウ				2				
		焼メノウ					1			
		褐頁岩						4		
		灰褐頁岩				5	7			
		褐頁岩					1			
		焼メノウ				1	2			
		灰白メノウ				5				
		茶メノウ		1	2	3	2	1		
		褐頁岩				9	1			
6	A-A' 3層	灰黄メノウ				2				
		灰褐頁岩	3			14	18			
		灰褐メノウ				2				
		灰メノウ				2				
		暗褐頁岩				1				
		スレート							2	
		灰チャート			1	1				
		黄灰メノウ					2	1		
		灰褐頁岩				1				
		59	A-A' 4層	メノウ			3	11		
				緑茶メノウ						2
7	A-A' 5a層	頁岩			2	21				
		石質不明					5			
		灰褐メノウ					1			
		灰褐頁岩	1							
		黒褐頁岩				1				
8	A-A' 5a層	褐頁岩				1				
		黒褐頁岩				1				
		褐頁岩				1				
		灰褐頁岩			1	2	1	1		
		茶メノウ	1			2	4	1		
		灰褐メノウ						1		
		黄褐メノウ			1					

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
9	A-A' 5a層	灰褐頁岩				1			
		灰白					1		
		スレート							1
		灰褐メノウ						1	
10	A-A' 5b層	褐頁岩						1	
		灰褐頁岩					2		
11	A-A' 5b層	暗褐頁岩				1	1		
		焼メノウ				1	1		
		灰褐頁岩	1			5	2		
		茶メノウ	2		1				1
12	A-A' 5b層	褐頁岩			1				
		灰褐メノウ	1						
		褐頁岩			1				
		灰チャート				1			
60	5b層	暗黒褐メノウ				1			1
		黒褐頁岩	1				1		
		灰チャート	1						
13	A-A' 6a層	灰褐頁岩	1				1		
		赤化メノウ					1		
		メノウ					1		
		褐メノウ							1
		灰褐頁岩					7	2	1
		灰メノウ					1		
		黒褐頁岩							2
灰白メノウ							1		
61	A-A' 6a層	茶メノウ					1		
14	A-A' 6b層	暗褐頁岩				7	6		
		茶メノウ	2		1	6	3		
		灰褐頁岩	1		1	8	6	1	
		黄灰メノウ							1
		灰チャート			1				1
		灰白メノウ						1	
		灰褐メノウ				3	3	1	
		黒褐頁岩	1						1
		黒褐メノウ	2						
		褐頁岩				1			
		灰白頁岩						1	
		粘板岩						1	
		石質不明						2	
15	A-A' 6b層	灰褐頁岩			1				
		褐頁岩						1	
16	A-A' 6b層下	褐頁岩			1	2			
19	A-A' 7'層	暗褐頁岩				8	1		
		玉髓				1			
		灰チャート				1			
20	A-A' 7'層	灰褐頁岩				6	1		
		焼メノウ							1
		灰メノウ				1			
65	A-A' 7'層	暗褐頁岩				1	1		
		灰褐頁岩				1	3		
		焼メノウ			2		1		
		灰褐メノウ						1	
		灰褐頁岩							2
		黒褐頁岩				4			

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		茶メノウ	1						
17	A-A' 7層	灰褐メノウ	1			1	1		
		茶メノウ				2	1		
		暗褐頁岩			3	4			
		灰褐頁岩				8	6		
		焼(茶)メノウ			2				
		黄灰メノウ							1
		灰白メノウ	2			1			
18	A-A' 7層	灰チャート				1			
		茶メノウ				2	1		
		灰黄メノウ				1			
		灰褐頁岩	3			5	4		
		暗褐頁岩					2		
		褐頁岩				1			
62	A-A' 7層	茶メノウ							
63	A-A' 7層	黒褐頁岩				1			
64	A-A' 7層	灰褐頁岩			1				
70	A-A' 7層	灰褐頁岩			1				
21	A-A' 8層	褐頁岩				5	1		
		茶メノウ				1			
		暗褐頁岩						1	
		焼メノウ					1		
22	8層	灰メノウ				1	5		
		灰白メノウ				1			
		茶メノウ					3		
		灰黄メノウ			1	1	1		
		褐メノウ				1			
		焼メノウ				2	2		
		灰褐頁岩	6		1	46	53		
		褐頁岩	1			16	7		
		黄褐メノウ			1				
23	8層	焼メノウ					1	1	
		灰褐頁岩				1			
		暗褐頁岩				1			
24	8層	茶メノウ							2
		灰白メノウ				1	1		
		褐頁岩	1			5	2		
		灰褐頁岩	3			18	31		
		暗褐頁岩	3			11	1		
66	A-A' 8層	黒褐頁岩				2			
67	8層	メノウ			1				
		頁岩			17				
		石質不明	9	1			8		
25	9層上	灰褐頁岩	19		9	19	17	4	
		黒褐頁岩	5		4	13	15	2	
		茶緑メノウ		1					
		茶メノウ			1				
		灰頁岩				1			
		赤化メノウ				2			
26	9層上	白灰メノウ				1			
		灰褐頁岩	1		1	4	2		
		茶メノウ						1	
		灰黄メノウ						1	
		褐メノウ					2		
27	9層上	灰緑メノウ				1			
		茶メノウ				1	2		
		灰メノウ					1		
		褐茶メノウ					1	1	
		黒褐頁岩				8	10		
		灰頁岩				2	1		

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		灰褐頁岩				23	9		
68	9a層	灰褐頁岩				2			
69	9a層	赤化メノウ					1		
		灰茶緑メノウ		1					
		黒褐頁岩			1	4		2	
		灰褐頁岩						2	
		暗褐頁岩					1		
		玉髓			1				
71	9b層	黒褐頁岩						1	
72	9c層	灰メノウ				2			
		メノウ			2				
		黒メノウ						1	
		焼メノウ							2
73	9c層	茶メノウ				2	2		
		灰茶メノウ					4		
		灰褐頁岩	4	1	1	12	11		
		黒褐メノウ				2			
		灰頁岩				3			
		灰茶メノウ				1			
		黒褐頁岩	3			11	17		
		灰褐メノウ				1			
		灰茶緑メノウ		1					
		焼メノウ				1			
74	9d層	黒褐頁岩			1				
75	9d層	茶メノウ		1					
76	9d層	褐緑メノウ							1
28	9層下	灰褐頁岩	3		1	1			
29	9層下	灰褐頁岩					6		
		暗褐頁岩					1		
		灰黄メノウ					1		
		茶メノウ					2		
30	10層	茶メノウ				3	2		
		灰褐頁岩	1		1	5	4		
		灰白メノウ				1			
		黄灰メノウ					1		
		暗褐頁岩				2	2		
		暗褐メノウ				1			
		灰頁岩				1			
		灰白頁岩						1	
		褐頁岩					3	4	
31	10層	灰褐頁岩				1			
32	11層	灰チャート				1			
		灰褐頁岩					23	2	
		焼メノウ					3	1	1
		茶メノウ					6	1	1
		暗褐頁岩	1		1	1	1		
		灰白メノウ					1	1	
		黄灰メノウ			1	1			
		暗褐メノウ				1		1	
		褐頁岩					2		
		灰メノウ					1		
33	12層	灰褐メノウ				1	1		
		褐メノウ							
		灰褐頁岩	1						
		茶メノウ					1		
34	12層	褐頁岩					1		
35	12層	白メノウ		1					1
		茶メノウ		1					1
		メノウ					1		
		赤化メノウ			1				

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		褐頁岩			1				
		暗褐頁岩		1					
		灰褐頁岩	1						
		黒褐頁岩	1						
36	12層	茶メノウ	1	1	3	10	5	2	
		灰褐メノウ				9	2		
		灰白メノウ		1				2	
		灰黄メノウ				3			
		褐メノウ							1
		焼メノウ				2		2	
		灰チャート	1			3	1	1	
		灰白頁岩				5		1	
		灰褐頁岩	7			36	21	9	
		暗褐頁岩				11	3		
		黒褐頁岩	3						
		褐頁岩		1	4				1
77	12層	灰黄メノウ		1					
84	P-9 (12層)	灰褐頁岩		1					
37	13層	黄灰メノウ			1				
		灰白メノウ		1	2				
		焼(茶)メノウ	2			1			
38	13層	茶メノウ			1				
		灰白メノウ						1	
		褐メノウ				1			
		黒褐メノウ						1	
		黄灰メノウ						1	
		灰チャート	1						
		褐頁岩		1					
		灰褐頁岩	4			4		1	
39	13層	灰白メノウ						1	
		茶メノウ	1			1			
		灰メノウ			3				
		灰褐頁岩			1				
		褐頁岩			3				
40	13層	黒メノウ		1					
		灰白メノウ		1					
		茶緑メノウ		1					
		黄緑メノウ		1					1
		褐メノウ		1					
		茶メノウ		1					1
		灰褐頁岩						4	
78	15層	黄茶メノウ				1			
		茶メノウ			1				
79	15層	黒褐メノウ					2		
		黒褐頁岩				1			
		灰白頁岩				1			
41	D-D' 2層	茶メノウ					1		
		灰黄メノウ					1		
		暗褐メノウ				1			
		灰白メノウ				1			
		灰褐頁岩				5	8		
		暗褐頁岩				1			
42	D-D' 5層	褐頁岩				1			
		灰褐頁岩				1			
43	D-D' 5層	茶メノウ	1	1	2	1		1	
		褐頁岩	1			1	2		1
		灰褐頁岩			2	3	3		
		暗褐頁岩				2			
44	D-D' 6層	灰褐頁岩				2	1		
		灰メノウ					3		

袋No	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
45	D-D' 6層	灰褐頁岩			1	3			
		灰メノウ				3			
		暗褐頁岩				3			
		褐頁岩					2		
		褐メノウ					2		
		茶メノウ				1			
46	D-D' 7層	白メノウ				1			
		灰メノウ				1	1		
		茶メノウ	2				1		
		褐頁岩			1	3	7		
48	D-D' 10層	灰褐頁岩				2	5		
		灰褐頁岩				1	2		
		茶メノウ					1		
		灰白メノウ					1		
47	D-D' 11層	灰メノウ					1		
		灰褐メノウ					1		
		焼メノウ					1		
		暗褐メノウ					1		
		褐頁岩						1	
		灰チャート			1				
		灰白頁岩				1			
		茶メノウ	1						
		灰褐頁岩	1			4	1		
49	D-D' 12層	茶メノウ				1			
50	D-D' 12層	黒褐メノウ				2			
		黄灰メノウ						1	
		灰褐頁岩				3		1	
		茶メノウ				1			
		褐メノウ				1			
51	D-D' 16層	灰メノウ				1			
52	D-D' 17層	褐頁岩	1						
		灰褐頁岩					1	1	
53	D-D' 22層	スレート							1
		白メノウ				1			
		黒褐メノウ						1	
		茶メノウ				1			
		褐頁岩				1			
		灰チャート				1	3		
		灰褐頁岩				6	4		
83	D-D' 22層	石質不明				1			
54	E-E' 5層上	灰褐頁岩			2			1	
		茶メノウ			2				
		焼メノウ			1	1			
		褐頁岩				1			
55	E-E' 16層	灰メノウ				2	1		
		灰チャート				1			
		灰褐頁岩			1	6			
		褐頁岩				1	2		
		茶メノウ				1	1		
56	E-E' 17層	灰白メノウ				1			
		灰白頁岩				1			
		灰褐頁岩				6	1		
		灰メノウ				1			
		茶メノウ	1						
		灰褐頁岩	1		1				
80	E-E' 17層	灰褐頁岩		1					
		茶メノウ							1
81	E-E' 18層	褐メノウ						1	
		灰褐頁岩	1						
57	E-E' 18層	灰黄メノウ			1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		灰白メノウ						1	
		灰チャート				1		1	
		白メノウ			1				
		灰褐頁岩			1	9	2		
		褐頁岩	1			2		1	
		茶メノウ	2			2			
		灰褐メノウ	1						
		黒褐メノウ	1						
		暗褐頁岩				6	2		
		灰黄メノウ				1			
82	E-E' 19層	灰褐頁岩				1			
58	E-E' 20層	黄灰メノウ	2		1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		茶メノウ				1		1	
		白メノウ			1				
		灰チャート				2		1	
		黒褐メノウ						1	
		褐頁岩	3			1		2	
		灰褐頁岩				1	3		
		暗褐メノウ				2			
		焼メノウ						1	
85	層位なし	灰緑茶メノウ			1				
86	埋土	灰褐頁岩				3			
	合計		130	33	112	711	439	82	25

第7表 FJ46-02竪穴住居跡出土剥片・チップ集計表

凡例 ①ポイントフレーク ②剥片 ③小剥片  
 ④チップ (バルブあり) ⑤チップ (バルブなし)  
 ⑥剥片片 ⑦石片

層名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
A-A' 1層	0	0	2	4	1	7	0	14
A-A' 2層	1	1	1	14	15	0	0	32
A-A' 3層	3	1	3	43	23	2	2	77
A-A' 4層	0	0	5	32	5	0	2	44
A-A' 5a層	2	0	2	9	8	1	3	25
A-A' 5b層	7	0	3	12	6	0	2	30
A-A' 6a層	0	0	0	11	2	5	0	18
A-A' 6b層	6	0	8	24	19	5	2	64
A-A' 6b層下	0	0	1	2	0	0	0	3
A-A' 7層	7	0	7	52	25	1	1	93
A-A' 8層	23	1	21	113	117	4	0	279
A-A' 9層上	25	1	15	75	60	9	0	185
A-A' 9a層	0	1	2	6	4	2	0	15
A-A' 9b層	0	0	0	0	1	0	0	1
A-A' 9c層	7	2	5	33	34	1	2	84
A-A' 9d層	0	1	1	0	0	0	1	3
A-A' 9層下	3	0	1	11	0	0	0	15
A-A' 10層	1	0	1	17	13	1	0	33
A-A' 11層	1	0	2	40	6	1	2	52
12層	16	8	9	83	33	19	2	170
13層	8	15	4	7	0	9	2	45
15層	0	0	1	3	2	0	0	6
D-D' 2層	0	0	0	8	10	0	0	18
D-D' 5層	2	0	3	10	6	0	2	23
D-D' 6層	0	0	1	12	8	0	0	21
D-D' 7層	2	0	1	7	14	0	0	24
D-D' 10層	0	0	0	1	4	0	0	5
D-D' 11層	2	0	1	7	3	1	0	14
D-D' 12層	0	0	0	8	0	2	0	10
D-D' 16層	0	0	0	1	0	0	0	1
D-D' 17層	1	0	0	1	0	1	0	3
D-D' 22層	0	0	0	11	7	1	1	20
E-E' 5層上	0	0	5	2	0	1	0	8
E-E' 16層	0	0	1	11	4	0	0	16
E-E' 17層	2	1	1	9	1	0	1	15
E-E' 18層	6	0	3	21	4	4	0	38
E-E' 19層	0	0	0	1	0	0	0	1
E-E' 20層	5	0	2	7	4	5	0	23
層位なし	0	1	0	0	0	0	0	1
埋土	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	130	33	112	711	439	82	25	1532